令和４年度
(2022.4~2023.3)

年　報



医療法人相生会

NISHI KUMAMOTO HOSPITAL

にしくまもと病院

SPIRITS OF NISHIKUMA

理念

いつも患者さんに寄り添い、強く、優しい、優れた病院を目指します。

基本方針

1. あなたに寄り添い、心のかよった医療を提供します。
2. 医療人として常に向上心を持ち、進歩する、質の高い医療を提供します。
3. 職員一人ひとりを大切にし、心豊かな輝く医療人となることを支援します。
4. あらゆる職種が信じあって協働する「チーム医療」を実践します。
5. 地域に根ざし、調和する、頼られる日本一の病院を目指します。

臨床倫理の基本方針

1. 患者の人権を最大限尊重するとともに、患者と病院職員が協力し、患者の利益を追及するための最善の医療を提供します。
2. 患者個人の信条や価値観に十分配慮した上で、生命倫理に関する関係法令、ガイドライン及び院内規約の実施手順に従った医療を実施します。
3. 医学及び医療の進歩に必要な研究の実施や、倫理的な問題を含むと考えられる医療行為などについては、院外有職者を加えた当院「倫理委員会」において、倫理的・科学的観点から十分検討を行います。

患者の権利

1. **安全で良質な医療を受ける権利**
   患者さんは、安全で良質な医療を公平に受けることができます。
2. **十分な情報を知り、説明を得て自己決定する権利**
   病状や治療について事実を知り、納得するまで十分な説明を受け、意見を述べることができます。
   また、他の病院の医師に意見（セカンドオピニオン）を聞くことができます。
3. **選択の自由の権利**
   治療方針を十分理解した上で、検査・治療などに、同意・選択・拒否することができます。
   また、医療施設等を選択することができます。
4. **個人情報と秘密保持に関する権利**
   個人情報や医療に関する情報の秘密は守られます。
5. **尊重される権利**
   患者さんは、一人の人間として医療現場においても、その生命・身体・人格が尊重される権利を有します。

患者の責務

1. **情報を提供する責務**
   患者さんは、安全で良質な検査・治療を受けるために、医師をはじめとする医療従事者に対してみなさん自身の健康に関する情報を出来るだけ正確に提供していただきます。
2. **医療に協力する責務**
   患者さんは、安全で質の高い医療を受けるために、病院の規則を守り、提供される医療に協力して、出来るだけ健康的な生活習慣を身につける必要があります。
3. **他の患者さんの治療や療養に配慮する責務**
   すべての患者さんが適切な医療を受けられるために、病院の規則を守り、他の患者さんの支障を与えないよう配慮していただきます。

目次

目次 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 1

年報挨拶

病院長　　山口　浩司 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 2

病院概要 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 3

組織図 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 4

施設基準 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 5

病院機能評価 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 6

イベントフォトカレンダー ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 7

医師紹介 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 9

外来診療スケジュール ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 10

講演・学術・研究発表 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 11

診療統計報告 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 15

外来 ――――・ 16
3階病棟 ――――・ 18
4階病棟 ――――・ 19
5階病棟 ――――・ 20
6階病棟 ――――・ 21
手術室・サプライ ――――・ 22
医療機器管理室 ――――・ 23
セラピスト課・テクノエイドセンター ――――・ 24
薬剤課 ――――・ 26
放射線課 ――――・ 27
臨床検査課 ――――・ 28
栄養管理課 ――――・ 30
地域医療連携室 ――――・ 31
訪問診療 ――――・ 32
居宅介護支援事業所 ――――・ 33
通所リハビリテーション ――――・ 34
訪問看護ステーション ――――・ 35
訪問リハビリテーション ――――・ 36
ホスピタウンハウス ――――・ 37
地域包括ケア推進室 ――――・ 38
健診センター ――――・ 40
臨床薬理センター ――――・ 41
事務部 ――――・ 42
COVID-19に関わる実績数値 ――――・ 43

委員会実績報告 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 44

医療安全管理委員会 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 45

院内感染予防対策委員会 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 46

研修委員会 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 47

CS・ES委員会 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 48

ICD-10大分類による年齢別・性別統計 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 49

年報挨拶



にしくまもと病院 病院長　山口 浩司

日頃より私たちにしくまもと病院に対しご理解とご協力を賜り、誠に有難うございます。２０２２年度の年報の発刊にあたりまして心より御礼申し上げます。

長く続いた新型コロナの流行は３年を過ぎ、皆様にとっても色々な面で困難があったことと拝察いたします。生命の危険から社会経済活動の抑制から生活難、そして感染対策においての医療界の疲弊。私たちもワクチン接種、発熱外来から感染患者の受け入れなど積極的に取り組んでまいりました。院内発生の際には皆へとへとになりながらも一丸となって汗を流し一所懸命に対策を行いました。

職員は多職種で取り組み、より高い質を求めることに愚直に取り組んでまいりました。ひとり一人の頑張りのお陰でアフターコロナへ移行の時を迎えることができました。

私たちは困難に立ち向かうときに職員同士が尊重しあって協働することの大切さを学びました。そのような中で新任医師、看護部長、その他新しい戦力も迎えることができました。救急患者の受け入れ、脳神経内科、呼吸器科疾患の増加、また麻酔科医師、整形外科医師の招聘により手術症例も安定して増加傾向にあります。コロナ明けのこれからが本物の医療の在り方が問われるものとさらに前向きに心新たにいたしております。

私たちは質の高い医療・介護を提供することで地域に認められるよう頑張ってまいります。求められるケアミックス病院として地域に根差していきたいと思っています。回復期病棟では急性期病院から必要とされる、より早期で質の高いでのポストアキュート機能を、地域包括病棟では地域で必要とされるサブアキュート機能を、一般病棟では二次救急の受け入れや慢性期疾患に対する高度で質の高い医療の提供に注力してまいります。在宅部門では生活に寄り添って支えることから満足を追求してまいります。

各部門が時代の変化、医療の進歩を常にアップデートしながら、一方では元来から変わらないリハビリテーションマインドを基礎に地域医療に取り組んでまいります。

今年度、当院は病院機能評価の更新の年にあたります。ともするとコロナ禍でおろそかにしていた「整えて標準化を図る」ことにも取り組みます。

私たちは変わらぬ理念を掲げて努力を続けてまいります。今後ともご指導、ご鞭撻を賜りますようお願いいたします。

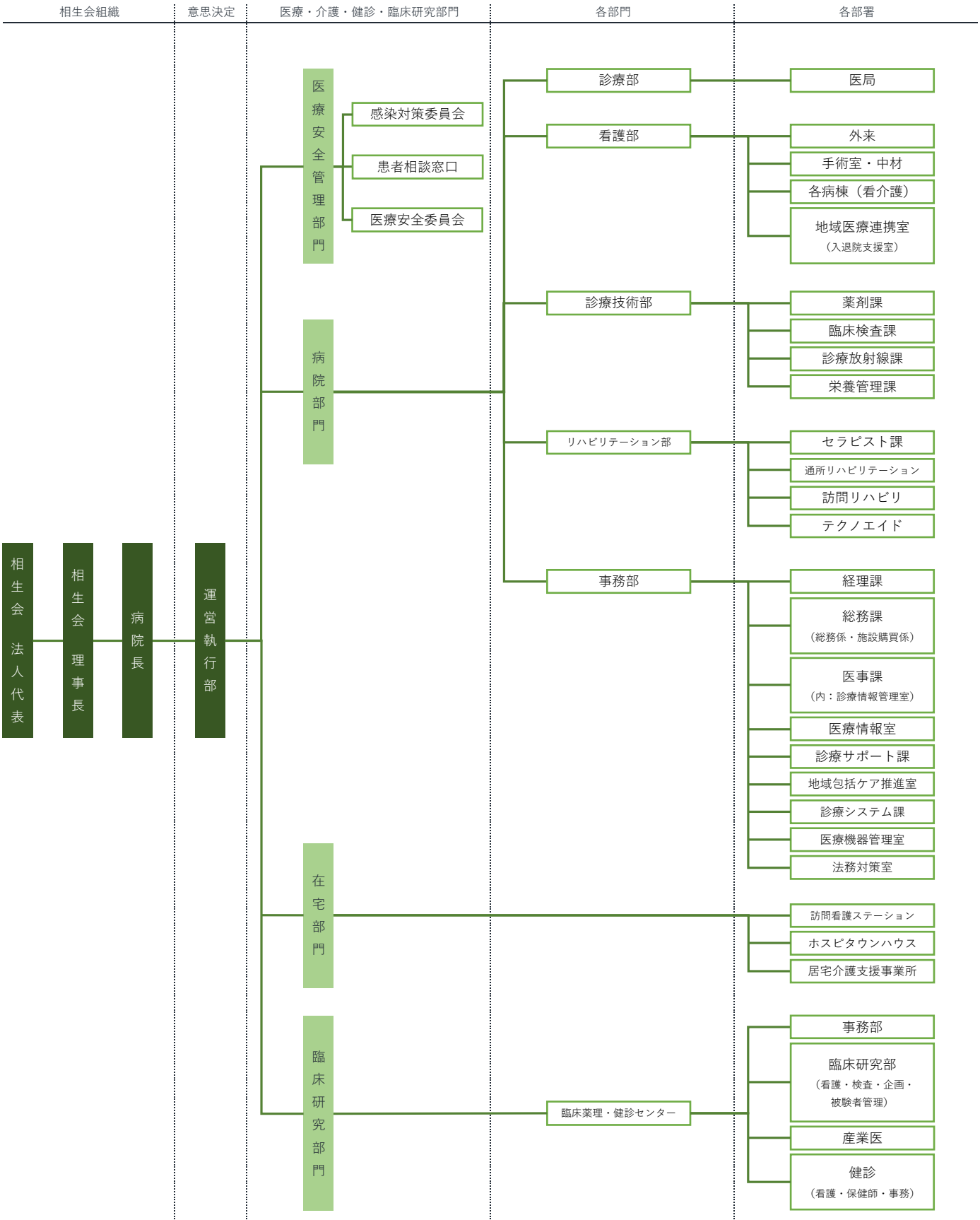
病院概要

2023年3月31日現在

名　　称	医療法人相生会にしくまもと病院
設　　立	1988年1月18日
開 設 者	入江　伸
管 理 者	山口　浩司
所 在 地	〒861-4157　熊本市南区富合町古閑１０１２
電　　話	096-358-1118
F A X	096-358-1099
診 療 科 目	整形外科・内科・糖尿病/代謝内科・脳神経内科・脳神経外科・消化器内科 呼吸器内科・外科・麻酔科・皮膚科・循環器内科・皮膚科・泌尿器科 リハビリテーション科
病 床 数	全146床
	３階病棟（回復期リハビリテーション病棟）　36床
	４階病棟（地域包括ケア病棟）　38床
	５階病棟（一般病棟）　38床
	６階病棟（地域包括ケア病棟）　34床
検 査 機 器	Ｘ線診断装置・Ｘ線透視診断装置・全身用ヘリカルCTスキャナー(80列)・MRI・骨密度測定装置・関節鏡ファイバースコープ・内視鏡ファイバースコープ(上部・下部)・心電計・超音波診断装置(表在・心・腹)・肺機能検査装置・生化学自動分析装置・血液自動分析装置・全自動血液凝固測定装置・自動グリコヘモグロビン分析計・血液ガス分析装置・血圧脈派検査装置・尿自動分析装置・残尿測定器(ブラッダースキャン)・24時間自動血圧測定器・ホルター心電計・筋電計・眼底カメラ・麻酔器・AED・除細動器・人工呼吸器
面 会 時 間	平日・土曜　午後2時～午後8時　　日・祝　午前10時～午後8時
関 連 施 設	通所リハビリテーションれんげ草・訪問介護ステーションきんもくせい 訪問リハビリテーション・指定居宅介護支援事業所 （特定施設）サービス付き高齢者向け住宅ホスピタウンハウス 臨床薬理センター・関節外科センター・健診センター
認 定 施 設	公益財団法人　日本医療機能評価機構　認定施設 公益社団法人　日本リハビリテーション医学会研修施設 公益社団法人　日本整形外科学会専門医研修施設 一般社団法人　日本静脈経腸栄養学会NST稼働施設 熊本大学医学部医学科　臨床教育学外協力施設
職 員 数 （関連施設含む）	医師　：16　正看護師　：107　理学療法士　：31 薬剤師　：9　准看護師　：14　作業療法士　：21 放射線技師　：5　介護福祉士　：26　言語聴覚士　：5 臨床検査技師　：19　介護職員　：37　ケアマネージャー　：6 管理栄養士　：5　臨床工学技士　：1　DA/PHN　：4 社会福祉士　：4　義肢装具士　：1　事務系職員　：70　（人）

組織図

2023年3月31日現在



施設基準

2023年3月31日現在

基本診療料
一般病棟入院基本料(急性期一般入院料4)
救急医療管理加算
診療録管理体制加算2
医師事務作業補助体制加算1
療養環境加算
療養病棟療養環境加算1
機能強化加算
医療安全対策加算2
感染対策向上加算2 連携強化加算・ｻｰﾍﾞｲﾗﾝｽ加算
患者ｻﾎﾟｰﾄ体制充実加算
後発医薬品使用体制加算 2
病棟薬剤業務実施加算1
ﾃﾞｰﾀ提出加算2・ﾃﾞｰﾀ提出加算4　ロ
提出ﾃﾞｰﾀ評価加算
入退院支援加算1 地域連携診療計画加算・入院時支援加算 総合機能評価加算
認知症ｹｱ加算3
せん妄ﾊｲﾘｽｸ患者ｹｱ加算
回復期ﾘﾊﾋﾞﾘﾃｰｼｮﾝ病棟入院料1 体制強化加算2
地域包括ｹｱ病棟入院料1 看護職員配置加算・看護補助者配置加算

特掲診療料
がん性疼痛緩和指導管理料
二次性骨折予防継続管理料2
二次性骨折予防継続管理料3
がん治療連携指導料
薬剤管理指導料
地域連携診療計画加算
医療機器安全管理料1
在宅療養支援病院3
在宅時･施設入居時等医学総合管理料
在宅患者訪問看護・指導料および同一建物居住者訪問看護・指導料の注2
在宅患者訪問看護・指導料の注16（同一建物居住者訪問看護・指導料の注6の規定により準用する場合を含む）に規定する専門管理加算
検体検査管理加算(Ⅰ)
検体検査管理加算(Ⅱ)
神経学的検査
CT･MRI撮影
脳血管疾患等ﾘﾊﾋﾞﾘﾃｰｼｮﾝ料(Ⅰ)
運動器ﾘﾊﾋﾞﾘﾃｰｼｮﾝ料(Ⅰ)
呼吸器ﾘﾊﾋﾞﾘﾃｰｼｮﾝ料(Ⅰ)
がん患者ﾘﾊﾋﾞﾘﾃｰｼｮﾝ料
手術の通則の5及び6に掲げる手術
骨移植術(軟骨移植術を含む。)(自家培養軟骨移植術に限る。)
胃瘻造設術
膀胱水圧拡張術
輸血管理料Ⅱ
輸血適正使用加算
胃瘻造設時嚥下機能評価加算
麻酔管理料Ⅰ
入院時食事療養/生活療養(Ⅰ)
酸素の購入価格に関する届出

病院機能評価　認定取得

病院機能評価とは、組織全体の運営管理および提供される医療について、日本医療機能評価機構が中立的、科学的・専門的な見地から評価を行うツールです。

当院は、①組織運営を再構築し継続の第一歩とする、②にしくまもと病院の職員であることの誇りを持つ、③現状を謙虚に受け入れて成長する、④継続リーダーの育成を目的に、平成30年10月26日、27日に病院機能評価（3rdG:Ver2.0）を受審し、平成31年2月1日に「一般病院1」「リハビリテーション病院(副)」の認定を取得しました。


認　定　証
Certificate of Accreditation
認定第JC2303号
Accreditation Number
主たる機能：一般病院1
Hospital Type 1
機能種別版評価項目3rdG：Ver.2.0
病院名
Hospital Name
医療法人相生会　にしくまもと病院
Nishikumamoto Hospital
殿
貴病院が日本医療機能評価機構の定める
認定基準を達成していることを証する
This is to certify that the above hospital has demonstrated satisfactory compliance with the applicable JCQHC accreditation standards.
認定期間：2019年2月1日～2024年1月31日
交付日：2019年2月1日
初回認定：2019年2月1日
☆
（認定1回目）
公益財団法人　日本医療機能評価機構
Japan Council for Quality Health Care
代表理事　理事長　河北　博文
Chairman of the Board　Hirobumi Kawakita


認　定　証
Certificate of Accreditation
認定第JC2303号
Accreditation Number
副機能：リハビリテーション病院
Rehabilitation Hospital
機能種別版評価項目3rdG：Ver.2.0
病院名
Hospital Name
医療法人相生会　にしくまもと病院
Nishikumamoto Hospital
殿
貴病院が日本医療機能評価機構の定める
認定基準を達成していることを証する
This is to certify that the above hospital has demonstrated satisfactory compliance with the applicable JCQHC accreditation standards.
認定期間：2019年2月1日～2024年1月31日
交付日：2019年2月1日
公益財団法人　日本医療機能評価機構
Japan Council for Quality Health Care
代表理事　理事長　河北　博文
Chairman of the Board　Hirobumi Kawakita

今回の受審の結果を通して見えた課題を踏まえ、今後も病院倫理に則った質の高い医療・ケアが提供出来るよう、継続した改善活動に取り組んでいきたいと思います。

イベントカレンダー

2019年度（令和元年）

4月

・林医師が名誉病院長へ就任
山口浩司医師が病院長へ就任し新体制へ

・令和元年度入職者の新人オリエンテーション研修会を開催

5月

・新入職員歓迎会開催（ザ・ニューホテル熊本）



6月

・当院にて介護職ランチョンセミナーを開催
日本介護福祉士会の石本淳也会長に聴講して頂く

7月

・九州南部を襲った豪雨に対してJRATからの協力要請を受け、リハビリテーション支援として2名の職員を派遣

9月

・改善活動報告会を開催
院内での業務改善、取組事例の発表を行う



10月

・テレビ熊本の「医療大百科」にて、山口病院長が「ロコモと膝の痛み」について取材を受ける

・第23回ホスピタウン祭開催

11月

・当院にて第23回ホスピタウン交流会を開催



12月

・忘年会を開催（ザ・ニューホテル熊本）



1月

・世界保健機関（WHO）が中国での新型コロナウイルス発生を発表

3月

・新型コロナウイルスが熊本県内で発症したことを受け、当院での入院患者様との面会が禁止へ

2020年度（令和2年）

4月

・令和2年度入職者の新人オリエンテーション研修会を開催

・新型コロナウイルスの影響により、骨粗鬆症教室や糖尿病教室等の各種イベントが中止となる

5月

・入院患者様への面会を禁止としていたが、感染対策を行なった上での面会制限の緩和を実施

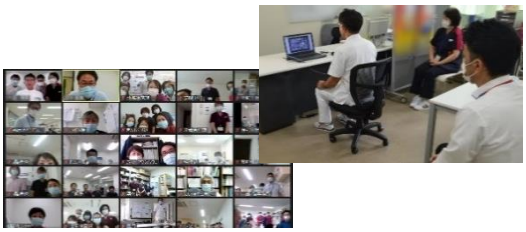
7月

・県内での新型コロナウイルス感染拡大により、再度、入院患者様との面会が原則禁止となる

9月

・テレビ熊本「TKU Live News』にてコロナ禍での病院薬剤師の役割という内容で、当院の薬剤師の取組が放送される

・定期的に行われる病院朝礼において、感染防止対策としてオンラインミーティングでの開催へと切り替わる



10月

・タブレット端末を利用した、入院患者様とのオンライン面会を開始

11月

・院内の電子カルテシステムの入れ替えが行われる

・富合老人福祉センターにて、快護の輪を開催
当院の感染対策看護師より、「withコロナでの暮らし方」と題し、自宅や通いの場で行う感染対策について講演を行う



12月

・院内保育所ホスピタウンKIDSにて、充分な感染対策を行なった上でクリスマス会を開催

1月

・テレビ熊本「TKU Live News』にて、当院臨床薬理センターでのワクチン治験の取組みが放送される



イベントカレンダー

2021年度（令和3年）

4月
・令和3年度入職者の新人オリエンテーション研修会を開催

・医療従事者を対象とした新型コロナワクチンの接種（1回目・2回目）を開始



5月
・高齢者/施設従事者を対象とした新型コロナワクチンの接種を開始

6月
・関節外科センターにて再生医療「PRP(多血小板血漿)療法」を開始

9月
・医療・介護経営雑誌「日経ヘルスケア」より、当院の地域包括ケア活動（熊本ホスピタウン構想）や、BCP（事業継続計画）についての記事が掲載される

・新型コロナウイルス陽性患者の入院受入を開始

10月
・院内保育所ホスピタウンKIDSにてハロウィンパレードを開催

11月
・熊本市主催「第1回南区人生会議の日」にて、林名誉院長が講演を行う



12月
・テレビ東京「ガイアの夜明け」にて、当院での治験に関する取組みが放送される



1月
・職員への新型コロナウィルスワクチン接種（3回目）を実施

2022年度（令和4年）

4月
・令4和年度入職者の新人オリエンテーション研修会を開催

・健診センターが移設され、リニューアルオープンとなる





6月
・職員への新型コロナウィルスワクチン接種（4回目）を実施

8月
・院内で新型コロナウィルスの集団感染が発生

9月
・熊本県より救急告示病院として認定を受ける

・CT装置をキャノンメディカルシステムズ社製80列ＣＴへ入替え



11月
・職員へのオミクロン株対応ワクチンの接種を実施

12月
・院内で2回目となる新型コロナウィルスの集団感染が発生する

医師紹介

理事長



イリエ　シン
入江　伸

臨床薬理

・日本臨床薬理学会認定医/指導医

名誉病院長



ハヤシ　シゲル
林　茂

整形外科（膝関節鏡）

・日本整形外科学会専門医
スポーツ医、運動器リハ医
・日本リハビリテーション学会
臨床認定医
・日本リウマチ学会登録医
・日本医師会産業医

病院長



ヤマグチ　コウジ
山口　浩司

整形外科（関節外科）

・日本整形外科学会専門医
運動器リハ医
・日本リウマチ学会
リウマチ専門医
・日本骨粗鬆症学会認定医
・日本体育協会公認スポーツドクター
・厚生労働省臨床研修指導医

診療顧問



ヤギシタ　ヨシヒロ
柳下　芳寛

麻酔科

・日本麻酔科学会指導医
・日本ペインクリニック学会専門医
・日本呼吸療法医学会専門医

院長補佐



ナカシマ　シンイチ
中島　伸一

整形外科（上肢関節）

・日本整形外科学会専門医
・日本専門医機構整形外科専門医
・日本リハビリテーション医学会認定臨床医
・日本医師会認定産業医
・厚生労働省臨床研修指導医

診療部長

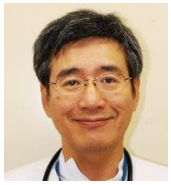


マツモト　ジュン
松元　淳

脳神経外科・
リハビリテーション科

・日本脳神経外科学会認定医
・日本脳卒中学会認定脳卒中専門医
・日本リハビリテーション医学会専門医/指導医

糖尿病・代謝内科医師



シノハラ　モリツグ
篠原　守継

糖尿病・代謝内科、
内科全般

・日本糖尿病学会専門医/研修指導医
・日本内科学会総合内科専門医
・日本医師会産業医

健診センター長



ヤマグチ　ツトム
山口　勉

消化器内科・内科一般

・日本内科学会総合内科専門医
・日本消化器内視鏡学会指導専門医
・日本消化器病学会専門医
・日本感染症学会インフェクションコントロールドクター

外科部長



マスダ　ヨシヒロ
増田　吉弘

外科

・日本外科学会、専門医
・消化器内視鏡学会、専門医
・消化器外科学会、認定医
・臨床外科学会
・日本医師会産業医

皮膚科医師



ヤマシタ　ナオコ
山下　直子

皮膚科

・日本皮膚科学会専門医

呼吸器内科部長



ウラモト　ヒデシ
浦本　秀志

呼吸器内科

・所属学会
日本内科学会
日本呼吸器学会
日本肺癌学会
日本呼吸器内視鏡学会
日本緩和医療学会

整形外科部長



イノウエ　アツシ
井上　篤

整形外科

・日本整形外科学会専門医
・日本体育協会スポーツドクター

麻酔科部長



オ　ノ　ダ　マサヒロ
小野田　昌弘

麻酔科

・麻酔科標榜医
・日本麻酔科学会専門医
・日本専門医機構専門医
・日本麻酔科学会指導医

脳神経内科部長



ムラハシ　シュウエイ
村端　秀映

脳神経内科

・日本内科学会認定医
・神経内科専門医

臨床薬理センター/内科医師



ホンダ　ヤスコ
本田　泰子

内科・臨床薬理

臨床薬理センター副センター長



ヨノウ　マコト
米納　誠

泌尿器科・臨床薬理

・日本泌尿器科学会専門医
・日本臨床薬理学会認定医

臨床薬理センター医師



タナカ　タカノリ
田中　孝典

臨床薬理

・日本臨床薬理学会指導医/専門医

外来スケジュール

2023年3月31日現在

診療科	専門	月		火		水		木		金		土
		午前	午後	午前	午後	午前	午後	午前	午後	午前	午後	午前
整形外科	一般	山口浩司	山口浩司	山口浩司			手術	唐杉	中島 （完全予約）	前田	髙橋	担当医
		中島	中島	浦上								
	ひざ専門							林				
	関節 スポーツ	井上			井上	井上			井上		山口浩司	
	骨粗鬆症								山口浩司 （第3木曜）			
内科	一般	篠原	本田	篠原		篠原		本田			本田	担当医 （第5週休診）
					村端	村端			村端	村端		
		増田						増田				
		浦本		浦本						浦本		
糖尿病/代謝内科		篠原		篠原		篠原						
脳神経内科					村端	村橋			村端	村端		
循環器内科				野津原								担当医
呼吸器内科		浦本		浦本						浦本		
泌尿器科　※完全予約								米納 （第2・4木曜）				
皮膚科　※完全予約					山下	山下			山下			
麻酔科		柳下・小野田		柳下・小野田 ※手術	※手術	※手術	※手術	小野田 （術前外来）		※手術	小野田 （術前外来）	

講演・学術・研究発表

【講演・学会発表実績】

＜時系列順＞

演者（職種）	講演・学会名等	タイトル	日時	場所
青山 和美（作業療法士）	九州作業療法学会2019 in福岡	「臨床実習指導におけるMTDLP事例の活用状況について	2019/6/22	北九州国際会議場
長福 佑佳（言語聴覚士）	第20回日本言語聴覚学会inおおいた	言語聴覚療法におけるクリニカルクラークシップについて　～当院の取り組み～	2019/6/28 ~6/29	iichiko総合文化センター(大分)
青山 和美（作業療法士）	九州ＭＴＤＬＰ推進委員会企画研修会	身障分野のＭＴＤＬＰの活用方法や書き方について	2019/10/26	鹿児島大学
中野 愛（薬剤師）	宇城薬剤師会学術講演会	内服薬見直しにより褥瘡治療に貢献した症例	2019/11/21	ウイング松橋
西山 彰浩（作業療法士）	リハビリテーション・ケア合同研究大会 2019 金沢	入院中における社会参加に向けた尿失禁に着目した関わり　-低周波治療器を用いた骨盤底筋体操指導の介入効果-	2019/11/21 ~11/22	石川県立音楽堂
岡本 彬（理学療法士）	第24回日本基礎理学療法学会学術大会	低負荷サイクリング運動後に大脳皮質運動野の興奮性は上がる	2019/11/30 ~12/1	新潟市コンベンションセンター
青山 和美（作業療法士）	日本作業療法士協会 生涯教育現職者選択研修会	生活行為向上マネジメントについて	2019/12/1	宇城総合病院
青山 和美（作業療法士）	生活行為向上マネジメント書き方研修会	生活行為向上マネジメントシートの書き方について	2019/12/8	人吉医療センター
浅井 貴美子（臨床検査技師）	第20回日本クリニカルパス学会学術集会	当院におけるTKA術後血栓発症率とその後の消失過程の検証	2020/1/17 ~1/18	熊本城ホール
前田 美沙穂（作業療法士）	第20回日本クリニカルパス学会学術集会	大腿骨近位部骨折連携クリニカルパスの運用 - FIMに着目して -	2020/1/17 ~1/18	熊本城ホール
柴田 哲成（理学療法士）	第20回日本クリニカルパス学会学術集会	両側同時TKAパスの評価　～セラピストの視点での検証～	2020/1/17 ~1/18	熊本城ホール
谷口 隆幸（薬剤師）	荒尾市薬剤師会第8回学術講演会	業務改善！県薬事業アンケート結果について	2020/1/21	荒尾市民病院　地域医療研修センター
谷口 隆幸（薬剤師）	天草郡市薬剤師会　病薬部会研修会	「病院診療所勤務薬剤師のための薬剤業務手引き」の活用方法～アンケート結果から分かった現場での課題に対する業務改善策の提言～	2020/1/29	APA会館（天草市太田町）
山口 浩司（医師）	第50回日本人工関節学会	当院における外反膝に対するTKAについて -外側アプローチの優位性-	2020/2/21 ~2/22	福岡国際センター
草原 麻衣（理学療法士）	第22回日本骨粗鬆症学会	骨粗鬆症患者に対する退院後の運動継続と骨密度の関係性	2020/10/9 ~10/10	web開催
谷口 隆幸（薬剤師）	EAファーマ社内研修会	情報提供のありかた	2020/11/6	EAファーマ熊本営業所
林 茂（医師）	第1回熊本市南区地域包括ｹｱｼｽﾃﾑ推進会議・実務者会議	地域包括ケアシステム	2020/11/10	アスパル富合
桑原 由（作業療法士）	九州MTDLP推進委員会企画研修会	身障分野のＭＴＤＬＰの活用方法や書き方について	2020/11/26	web開催
青山 和美（作業療法士）	日本作業療法士協会 生涯教育現職者選択研修会	生活行為向上マネジメントについて	2020/12/6	web開催
岡本 彬（理学療法士）	第25回日本基礎理学療法学会学術大会	経頭蓋大脳磁気刺激による右前脛骨筋の運動誘発電位振幅は、疲労困憊を伴う高負荷自転車エルゴメーター運動によって影響を受けない	2020/12/12 ~12/13	web開催
林 茂（医師）	富合地区包括支援センター運営協議会	地域包括ケアについて	2020/12/15	富合地域コミュニティーセンター
青山 和美（作業療法士）	多職種における自立支援人材育成研修会	生活行為向上マネジメント　～アセスメントから合意形成まで～	2021/1/22	web開催
林 茂（医師）	南区医療連携室連絡会	熊本市南区地域包括ケアシステム	2021/3/9	web開催
西山 彰浩（作業療法士）	生活行為向上マネジメント書き方研修会	生活行為向上マネジメントシートの書き方について	2021/3/12 2021/3/19	web開催
青山 和美（作業療法士）	くまもとエキスパートOT認定制度研修会STEP2	自立支援型地域ケア会議における助言について　～事例検討～	2021/3/21	web開催

講演・学術・研究発表

【講演・学会発表実績】

＜時系列順＞

演者（職種）	講演・学会名等	タイトル	日時	場所
林 茂 （医師）	南区地域包括ケアシステム職員研修会	これからのあなたの人生、最期はどこで、誰と迎えたいですか	2021/4/20 2021/4/23	アスパル富合
谷口 隆幸 （薬剤師）	第2回熊本県肝疾患コーディネーターWEB講演会	医療従事者への啓発による行動変容～プライマリケア薬剤師ができること～	2021/4/21	ホテル日航熊本
林 茂 （医師）	富合圏域多職種連携ネットワーク会議	2025年問題と地域包括ケア	2021/5/20	富合地域コミュニティーセンター
堂上 美保子 （看護師）	骨粗鬆症WEBセミナー	当院の骨粗鬆症チーム活動 ～コロナ禍での新たな取り組み～	2021/6/17	web開催
菅原 典也 （理学療法士）	第7回地域包括ケア病棟研究会	当院地域包括ケア病棟における集団リハビリテーションの現状と課題について	2021/7/3 ~7/4	web開催
林 茂 （医師）	熊本銀行セミナー	人生会議	2021/9/2	熊本銀行田崎支店 （オンライン）
林 茂 （医師）	富合校区民生児童委員協議会定例会	人生会議	2021/10/13	アスパル富合
岡本 彬 （理学療法士）	第26回日本基礎理学療法学会学術大会	短時間の低負荷自転車エルゴメーター運動による脳活動の上昇が運動直後と運動後20分後に起こる	2021/10/23 ~10/24	web開催
岩本 樹 （理学療法士）	リハビリテーション・ケア合同研究大会2021兵庫	高度肥満脳卒中患者に対するリハビリテーション栄養　～効果的な体重減量と骨格筋指数を維持できた一症例～	2021/11/18 ~11/19	web開催
青山 和美 （作業療法士）	阿蘇広域支援センター主催研修会	生活行為向上マネジメントシートの書き方について	2021/11/26	web開催
林 茂 （医師）	第１回 南区人生会議の日	人生会議	2021/11/28	天明ホール
林 茂 （医師）	富合校区自治会長会	人生会議セミナー	2022/1/12	アスパル富合
青山 和美 （作業療法士）	多職種における自立支援人材育成研修会	ICFの視点を用いたアセスメントから合意形成まで	2022/1/16	web開催
齊藤 奈津美 （理学療法士）	第24回熊本県理学療法士学会	装具ノート導入により得られたメリットや課題と今後の展望について　～フォローアップの充実とスムーズな後方連携を目指して～	2022/1/30	web開催
岡本 彬 （理学療法士）	回復期リハビリテーション病棟協会第39回研究大会in東京	サルコペニアを有する高齢脳卒中患者は、入院時の栄養状態と認知機能、及び入院時から退院時までのADL改善度が低い	2022/2/4 ~2/5	web開催
西山 彰浩 （作業療法士）	生活行為向上マネジメント書き方研修会	生活行為向上マネジメントシートの書き方について	2022/3/18	web開催
林 茂 （医師）	南部在宅福祉センター研修会	人生会議	2022/3/25	南部在宅福祉センター
林 茂 （医師）	飽田地区「人生会議」セミナー	人生会議セミナー	2022/4/8	飽田まちづくりセンター
林 茂 （医師）	8020健康づくりの会南支部記念講演会	人生会議セミナー	2022/5/20	アスパル富合
林 茂 （医師）	薄場町・荒尾町いきいきサロン	人生会議セミナー	2022/6/14	薄場公民館
宮内 真奈美 （看護師）	第28回日本緩和医療学会学術大会	ケアミックス病院におけるがん患者のACPの現状	2022/6/30	神戸国際会議場
吉島 航史 （理学療法士）	全国デイ・ケア研究大会	多職種協働により入浴サービス修了に至った取組み～脊髄梗塞にて対麻痺を発症し仙骨部褥瘡Ⅳ度を呈した一症例～	2022/7/1 ~7/2	奈良春日野国際フォーラム （WEB参加）
林 茂 （医師）	城南校区民生委員児童委員協議会	人生会議セミナー	2022/7/15	城南校区コミュニティセンター
魚瀬 麻帆 （臨床検査技師）	白癬菌対策セミナー in 熊本	爪白癬診断のポイント 『～にしくまもと病院の取組～』	2022/7/22	ホテルメルパルク熊本

講演・学術・研究発表

【講演・学会発表実績】

＜時系列順＞

演者（職種）	講演・学会名等	タイトル	日時	場所
金子 剛 （管理栄養士）	看護協会主催研修会	フレイル予防	2022/8/6	看護協会
林 茂 （医師）	川尻校区民生委員児童委員協議会	人生会議セミナー	2022/8/9	南部公民館
林 茂 （医師）	力合・力合西校区民生委員児童委員協議会	人生会議セミナー	2022/8/16	力合コミュニティセンター
林 茂 （医師）	日吉・日吉東校区民生委員児童委員協議会	人生会議セミナー	2022/9/9	近見公民館
岡本 彬 （理学療法士）	第27回日本基礎理学療法学会学術大会	脳活動は高負荷自転車エルゴメーター運動によって、運動終了後30分間上昇し続ける	2022/10/1 ~10/2	大阪府立国際会議場（グランキューブ大阪）
林 茂 （医師）	田迎・田迎西校区民生委員児童委員協議会	人生会議セミナー	2022/10/14	幸田公民館
新名 祐介 （理学療法士）	第20回日本神経理学療法学会学術大会	当院における装具回診の振り返り ～回診導入前後での装具作成時期とADL能力	2022/10/15 ~10/16	大阪府立国際会議場（グランキューブ大阪）
林 茂 （医師）	御幸校区民生委員児童委員協議会	人生会議セミナー	2022/10/21	御幸校区第6町内公民館
林 茂 （医師）	ささえりあ幸田地域運営協議会	南区における『人生会議』の市民啓発について	2022/10/26	web開催
林 茂 （医師）	田迎南校区民生委員児童委員協議会	人生会議セミナー	2022/11/2	田迎南地域コミュニティーセンター
林 茂 （医師）	第2回南区人生会議の日	人生会議	2022/11/12	アスパル富合
岡本 彬 （理学療法士）	第25回熊本県理学療法士学会	壮年期脳出血患者に対する長下肢装具作成の課題解決に向けた装具回診の意義	2022/11/20	web開催
金子 剛 （管理栄養士）	ささえりあ城南 認知症予防講座	認知症と栄養	2022/12/6	豊田コミュニティーセンター
田中 智寛 （作業療法士）	第18回熊本県作業療法学会	セルフチェック方式を活用した自助によるフレイル予防の報告	2023/1/21	web開催
金子 剛 （管理栄養士）	公民館講座	団塊世代の栄養管理	2023/1/21	富合公民館
金子 剛 （管理栄養士）	富合圏域ケアマネ研修会	訪問栄養指導について	2023/2/16	Web開催
西山 彰浩 （作業療法士）	生活行為向上マネジメント書き方研修会	生活行為向上マネジメントシートの書き方について	2023/2/16	web開催
林 茂 （医師）	ささえりあ富合支え合いの町づくりネットワーク会議	地域包括ケアと人生会議	2023/3/14	富合地域コミュニティーセンター

講演・学術・研究発表

【国際学会発表実績】

発表者（当院所属は**太字**で表示）	タイトル	学会・日時・場所
Schwarz TF, Hwang SJ, Ylisastigui P, Liu CS, Takazawa K, **Yono M**, Ervin J, Andrews C, Fogarty C, Eckermann T, Collete D, de Heusch M, De Schrevel N, Salaun B, Lievens M, Maréchal C, Nakanwagi P, Hulstrøm V	A candidate respiratory syncytial virus (RSV) prefusion F protein investigational vaccine (RSVPreF3 OA) is immunogenic when administered in adults ≥ 60 years of age: results at 6 months after vaccination	IDWeek 2022, 19－23 October 2022, Washington, DC
Schwarz TF, Hwang SJ, Ylisastigui P, Liu CS, Takazawa K, **Yono M**, Ervin J, Andrews C, Fogarty C, Eckermann T, Vicco M, Lievens M, Maréchal C, Nakanwagi P, Hulstrøm V	Safety and reactogenicity of an investigational respiratory syncytial virus (RSV) prefusion F protein vaccine for adults ≥ 60 years of age (RSVPreF3 OA): an interim analysis at 6 months after vaccination	IDWeek 2022, 19－23 October 2022, Washington, DC
Schwarz TF, Hwang SJ, Ylisastigui P, Liu CS, Takazawa K, **Yono M**, Ervin J, Andrews C, Fogarty C, Eckermann T, Collete D, de Heusch M, De Schrevel N, Salaun B, Lambert A, Maréchal C, Nakanwagi P, Lievens M, Hulstrøm V	Results at 12 months post-vaccination with a respiratory syncytial virus (RSV) prefusion F protein investigational vaccine (RSVPreF3 OA)	RSVVW'23, 22-24 February 2023, Lisbon, Portugal

【論文発表実績】

発表者（当院所属は**太字**で表示）	タイトル	掲載誌
Matsukawa Y, Yoshida M, Yamaguchi O, Takai S, Majima T, Funahashi Y, **Yono M**, Sekido N, Gotoh M	Clinical characteristics and useful signs to differentiate detrusor underactivity from bladder outlet obstruction in men with non-neurogenic lower urinary tract	International journal of urology. 2020; 27 (1): 47-52.
Shimada H, **Yono M**, Hojo Y, Hamamura Y, Ootsuki A	Phase I study of KRP-116D, a 50% w/w dimethyl sulfoxide aqueous solution, on the systemic absorption from bladder by intravesical instillation in healthy Japanese subjects.	Lower urinary tract symptoms. 2020; 12 (2): 150-154.
Yono M, Ito K, Oyama M, Tanaka T, Irie S, Matsukawa Y, Sekido N, Yoshida M, van Till O, Yamaguchi O	Variability of post-void residual urine volume and bladder voiding efficiency in patients with underactive bladder	Lower urinary tract symptoms. 2021; 13 (1): 51-55. ◎WILEY Top Cited Article 2020-2021 （2022年3月31日受賞） ◎WILEY Top Cited Article 2021-2022 （2023年2月22日受賞）
Yono M, Irie S, Gotoh M	TAS-303 effects on urethral sphincter function in women with stress urinary incontinence: phase I study	International urogynecology journal. 2021; 32 (3): 673-680
Yoshida M, Sekido N, Matsukawa Y, **Yono M**, Yamaguchi O	Clinical diagnostic criteria for detrusor underactivity: A report from the Japanese Continence Society working group on underactive bladder	Lower urinary tract symptoms. 2021; 13 (1): 13-16. ◎WILEY Top Downloaded Article （2022年6月16日受賞）
吉田 正貴, 山口 脩, 関戸 哲利, 松川 宜久, **米納 誠**, UABコアワーキンググループ	日本排尿機能学会 UABコアワーキンググループ報告書	日本排尿機能学会誌. 2019; 30 (2): 407-411.

診療統計報告

（２０１９年度～２０２２年度実績）

外来 ―――― 16
3階病棟 ―――― 18
4階病棟 ―――― 19
5階病棟 ―――― 20
6階病棟 ―――― 21
手術室・サプライ ―――― 22
医療機器管理室 ―――― 23
セラピスト課・テクノエイドセンター ―――― 24
薬剤課 ―――― 26
放射線課 ―――― 27
臨床検査課 ―――― 28
栄養管理課 ―――― 30
地域医療連携室 ―――― 31
訪問診療 ―――― 32
居宅介護支援事業所 ―――― 33
通所リハビリテーション ―――― 34
訪問看護ステーション ―――― 35
訪問リハビリテーション ―――― 36
ホスピタウンハウス ―――― 37
地域包括ケア推進室 ―――― 38
健診センター ―――― 40
臨床薬理センター ―――― 41
事務部 ―――― 42
COVID-19に関わる実績数値 ―――― 43

外来

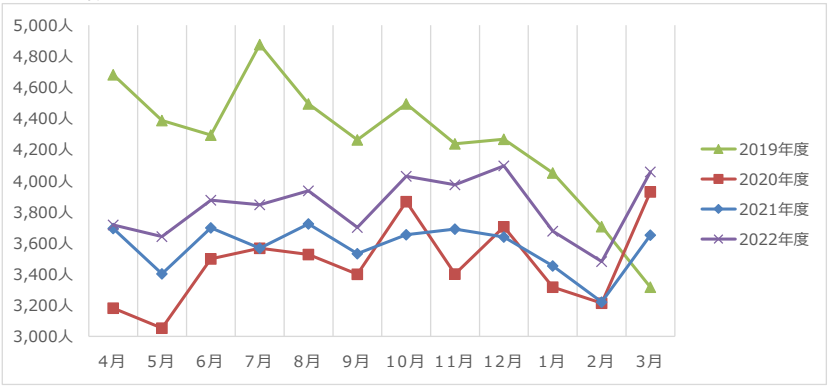
【職種別スタッフ数】 看護師　13名、准看護師　2名、クラーク　1名

(i).総評

今年度は医師の入れ替わりに伴い外来診療スケジュールが一部変更となり、新たに脳神経内科の診療がスタートした。1日平均外来受診者数156.2人（前年比＋10.4人）の患者が来院した。
2019年末から新型コロナウイルス感染症が流行し当初は発熱や上気道症状のある患者の対応に難渋することもあった。しかし、現在は患者の症状を把握し症状に応じた感染対策を強化し、多岐にわたる診療科、発熱患者の対応、救急車受け入れ等で業務が煩雑化したが、スタッフ間で情報交換・共有することで安全な外来診療に努めた。救急車の受け入れ件数も年々増加傾向であり、2022年９月に救急告示を行い今年度は227件（前年比＋110件）受け入れた。次年度も通常診療に加え救急車の受け入れや発熱患者の対応を継続して行く。看護師のみならず医師やコメディカルスタッフと連携を密に取りながら、救急車受け入れ年間200件以上を目標に円滑な診療を目指す。

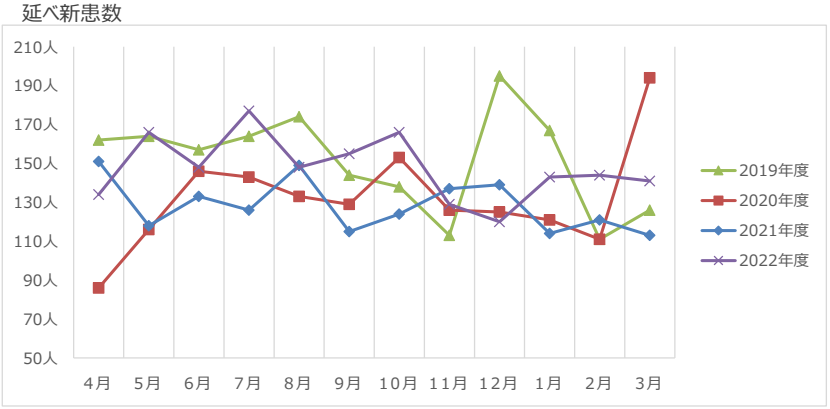
(ii).実績推移

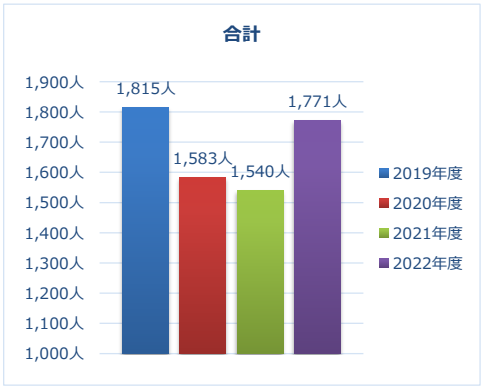
◆ 延べ患者数



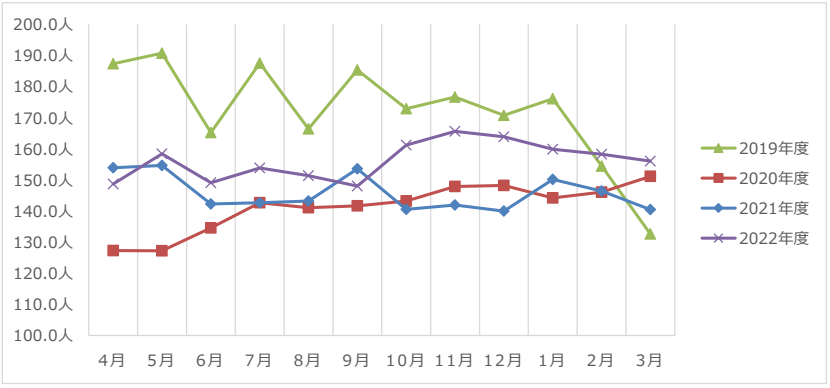


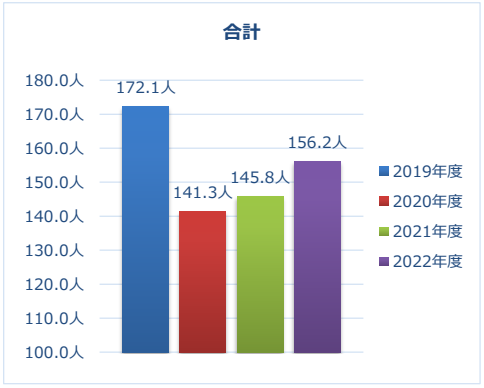
◆ 延べ新患数





◆ 一日平均患者数





(ⅳ)2022年度 実績

項目		単位	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	月平均	年度対比			
																2022年度	2021年度	2020年度	2019年度
整形外科	延患者数	人	1,937	1,949	2,029	1,986	1,987	1,989	2,054	1,931	1,938	1,785	1,790	2,137	1,959.3	23,512	21,765	19,432	21,410
	新患者数	人	108	143	125	123	117	131	139	107	105	114	126	118	121.3	1,456	1,395	1,267	1,295
内科	延患者数	人	425	426	273	271	265	241	244	230	268	262	227	282	284.5	3,414	5,063	6,963	8,246
	新患者数	人	2	4	5	11	6	5	4	5	1	5	0	4	4.3	52	76	70	169
消化器内科	延患者数	人	4	1	0	2	1	3	4	2	22	28	21	17	8.8	105	1,440	1,307	1,848
	新患者数	人	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.2	2	67	42	47
代謝・糖尿病	延患者数	人	425	348	363	356	358	290	366	351	380	277	328	352	349.5	4,194	4,927	4,806	5,965
	新患者数	人	2	3	6	11	1	0	2	2	1	0	1	0	2.4	29	53	44	84
神経内科	延患者数	人	70	116	196	232	233	197	199	203	316	228	197	209	199.7	2,396	0	24	659
	新患者数	人	5	7	6	11	7	8	10	3	8	12	8	11	8.0	96	0	0	0
外科	延患者数	人	121	147	165	144	115	162	152	146	160	157	124	145	144.8	1,738	1,207	897	1,231
	新患者数	人	3	7	2	2	2	1	3	3	1	1	2	1	2.3	28	52	21	36
泌尿器科	延患者数	人	75	62	84	72	68	87	76	75	91	58	26	36	67.5	810	1,007	878	1,015
	新患者数	人	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.2	2	18	17	31
呼吸器内科	延患者数	人	0	0	0	82	128	71	83	130	76	144	101	107	76.8	922	0	12	1,171
	新患者数	人	0	0	0	11	5	2	5	4	2	6	4	2	3.4	41	0	0	4
循環器内科	延患者数	人	94	106	83	106	114	92	94	96	95	84	79	78	93.4	1,121	1,077	949	1,009
	新患者数	人	1	0	0	1	1	1	0	0	0	0	0	1	0.4	5	15	11	12
皮膚科	延患者数	人	470	397	536	466	535	435	607	656	642	569	507	612	536.0	6,432	5,599	5,434	5,425
	新患者数	人	5	2	2	5	7	4	2	3	1	3	2	4	3.3	40	111	103	101
麻酔科	延患者数	人	54	49	48	50	45	57	69	68	72	65	55	57	57.4	689	512	532	656
	新患者数	人	1	0	2	1	0	1	1	2	1	2	1	0	1.0	12	7	8	13
ﾘﾊﾋﾞﾘﾃｰｼｮﾝ科	延患者数	人	0	0	0	0	0	0	2	0	0	0	0	0	0.2	2	0	128	1,851
	新患者数	人	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.0	0	0	0	20
脳神経外科	延患者数	人	42	41	99	79	86	76	79	86	36	19	26	25	57.8	694	325	295	582
	新患者数	人	3	0	0	1	2	2	0	0	0	0	0	0	0.7	8	7	0	3
全科	延患者数	人	3,717	3,642	3,876	3,846	3,935	3,700	4,029	3,974	4,096	3,676	3,481	4,057	3,835.8	46,029	42,922	41,657	51,068
	新患者数	人	134	166	148	177	148	155	166	129	120	143	144	141	147.6	1,771	1,540	1,583	1,815
1日平均患者数		人/日	148.7	158.3	149.1	153.8	151.3	148.0	161.2	165.6	163.8	159.8	158.2	156.0	156.2	156.2	145.8	141.3	172.1
外来営業日数		日	25	23	26	25	26	25	25	24	25	23	22	26	24.6	295.0	295.0	295.0	297.0

項目		単位	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	月平均	合 計
救急搬送数	対応件数	件	14	17	16	25	7	15	30	10	22	24	29	18	18.9	227
	内入院	件	7	8	7	12	5	10	9	5	10	9	17	6	8.8	105

3階病棟

回復期リハビリテーション病棟　36床

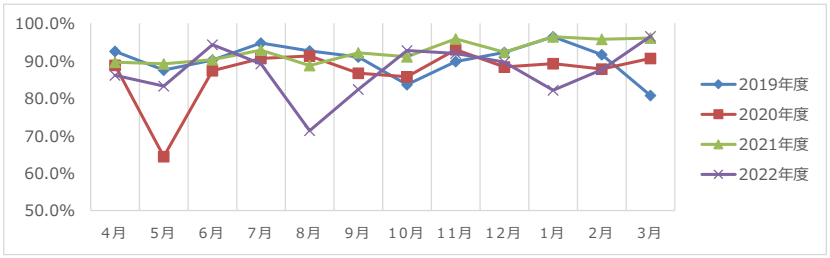
【職種別スタッフ数】　看護師　15名、准看護師　2名、介護福祉士　3名、CW　3名、歯科衛生士　1名、クラーク　1名

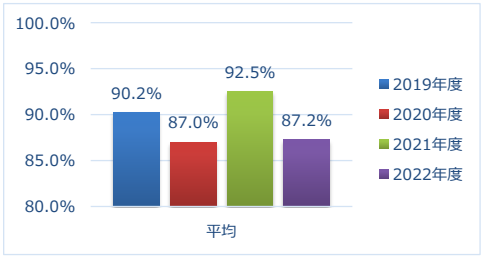
(ｉ).総評

2022年度も継続して回復期リハビリテーション病棟入院料１（体制強化加算2）の施設基準で運営した。
本年度実績は、病床利用率87.2%（昨年比▲5.3P）、平均在院日数69.1日（昨年比＋1.2日）、在宅復帰率88.4%（昨年比▲1.5P）、回復改善率77%（昨年比▲3.9P）、日常生活機能評価入棟時10点以上（看護必要度B項目割合）51.5%（昨年比＋7.3P）であり、施設基準はクリアした。しかし、病床利用率が例年と比較し低下している。要因は、当病棟でも新型コロナ感染症クラスターが発生し、入退院制限を行ったことで2022年8月は病床利用率が71.3%まで低下したことが強く影響した。また、看護必要度B項目遵守割合が高くなったことから回復改善率が低下し、在院日数が延長し在宅復帰率が低下したと考える。一方、新型コロナ感染症のクラスターを経験したことで、感染対策の重要性を再認識し、感染予防に関する技術は向上した。
次年度も患者と家族のニーズに寄り添い、安全で安心できる入院生活および在宅復帰の支援をしていくことを目標とし、施設基準を順守しながら取り組んでいく。

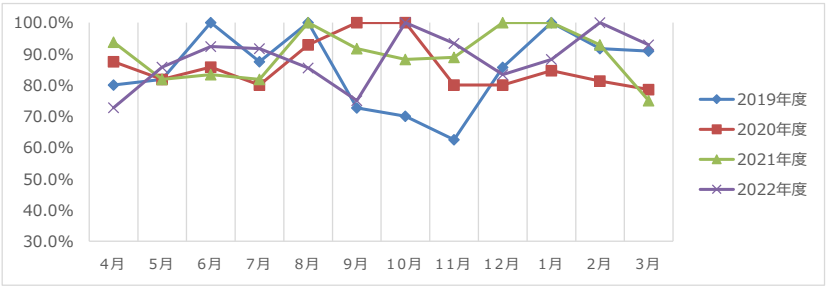
(ii).実績推移

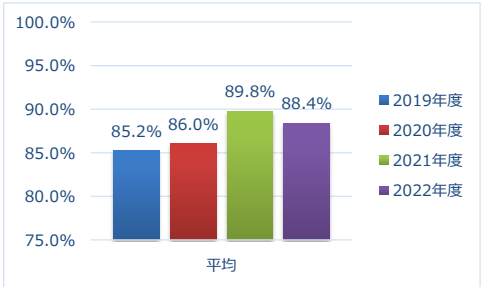
◆ 病床利用率



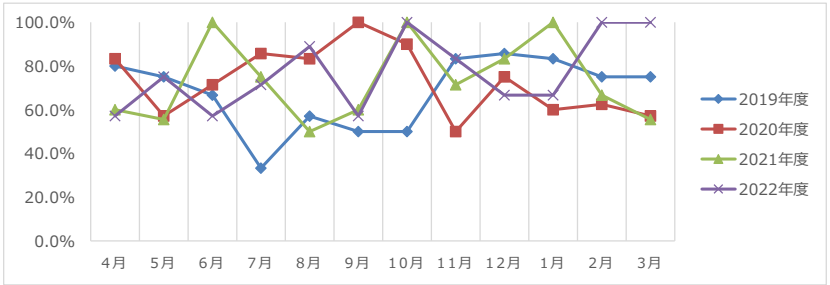


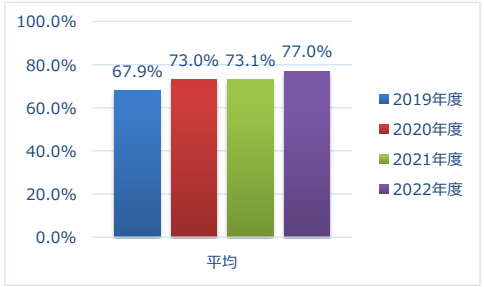
◆ 在宅復帰率





◆ 回復改善率





(iii).2022年度　実績

項目	単位	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	月平均	年度平均			
															2022年度	2021年度	2020年度	2019年度
病床数	床	36	36	36	36	36	36	36	36	36	36	36	36	36.0	36.0	36.0	36.0	36.0
入院延患者数	人	930	929	1,018	996	796	889	1,035	993	1,000	916	883	1,077	955.2	955.2	1,012.8	952.2	990.7
１日平均患者数	人/日	31.0	30.0	33.9	32.1	25.7	29.6	33.4	33.1	32.3	29.5	31.5	34.7	31.4	31.4	33.3	31.3	32.5
病床利用率	%	86.1%	83.2%	94.3%	89.2%	71.3%	82.3%	92.7%	91.9%	89.6%	82.1%	87.6%	96.5%	87.2%	87.2%	92.5%	87.0%	90.2%
入院数（転入含）	人	10	16	15	10	9	24	13	12	15	18	16	15	14.4	14.4	15.2	15.2	12.3
退院数（転出含）	人	11	14	14	13	18	12	12	15	19	19	7	15	14.1	14.1	15.3	15.2	12.4
平均在院日数	日	88.6	61.9	70.2	86.6	59.2	49.4	82.8	73.6	58.9	49.5	76.8	71.8	69.1	69.1	67.9	64.0	82.4
在宅復帰率	%	72.7%	85.7%	92.3%	91.7%	85.5%	75.0%	100.0%	93.3%	83.3%	88.2%	100.0%	92.9%	88.4%	88.4%	89.8%	86.0%	85.2%
回復改善率	%	57.1%	75.0%	57.1%	71.4%	88.9%	57.1%	100.0%	83.3%	66.7%	66.7%	100.0%	100.0%	77.0%	77.0%	73.1%	73.0%	67.9%
看護必要度	%	52.9%	53.0%	52.5%	51.3%	54.3%	52.6%	50.6%	51.3%	64.3%	47.1%	37.5%	50.0%	51.5%	51.5%	44.2%	43.9%	50.0%

4階病棟

地域包括ケア病棟　38床

【職種別スタッフ数】　看護師　18名、准看護師　1名、介護福祉士　1名、CW　6名、介護サポーター　1名、クラーク　1名

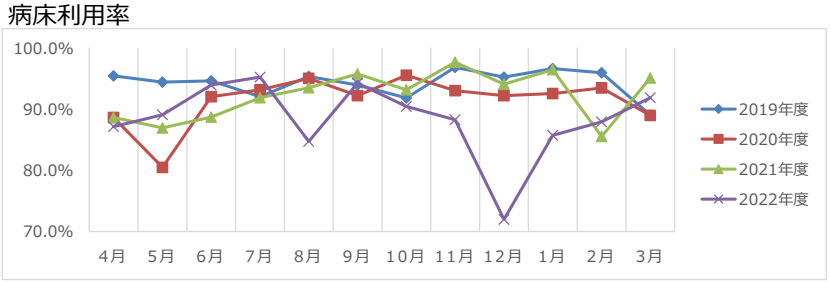
(i).総評

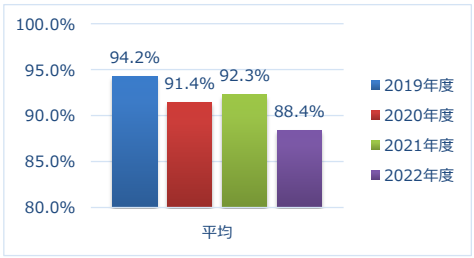
昨年に継続し、地域包括ケアⅠ施設基準で運用した。本年度実績は、病床利用率が88.4%(前年比▲3.9P）、在宅復帰率87.8%（前年比▲2.2P）、平均在院日数32.4日（前年比▲0.6日）、看護必要度割合23.1%（前年比＋2.7P）と施設基準はクリアした。新型コロナウイルス感染症が確認されてから3年が経ち、あらゆる感染対策を講じてきた中で昨年病棟でクラスターが発生したため、療養病院の転院やコロナ病棟への転棟もあり、在宅復帰率の基準が達成できない月があった。更に、在院日数期限越え者が12月から2月にかけて9名発生した。新型コロナ感染症の問題だけでなく、退院後の生活療養先決定など退院困難事例は年々増えてきている背景から、当病棟では「入院時訪問」を2021年11月より開始し、本年度は定着してきた。

今後も、入院時訪問を継続し、多職種チームで患者の退院に係る問題点や患者・家族の思いを直接対面し受け止め、早期から多職種と連携・協力し、患者家族の多様化するニーズに寄り添い支援していきたい。

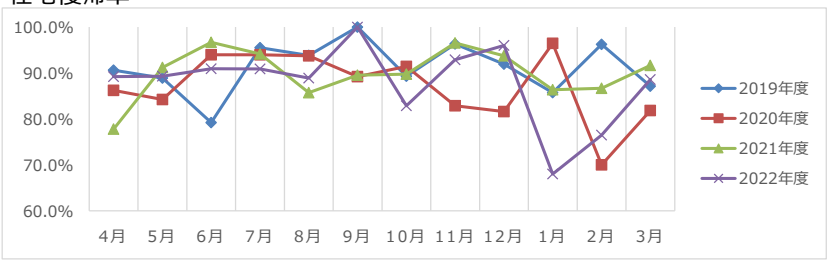
(ii).実績推移

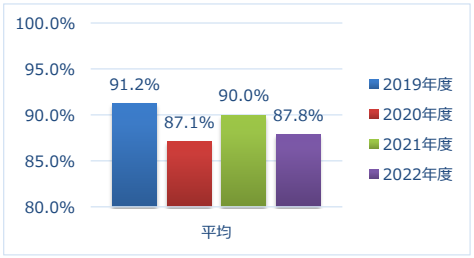
◆ 病床利用率



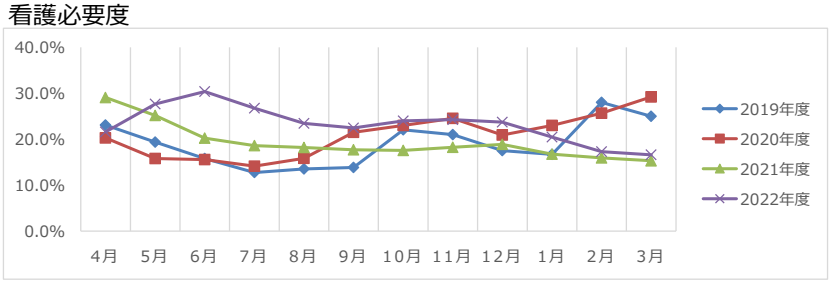


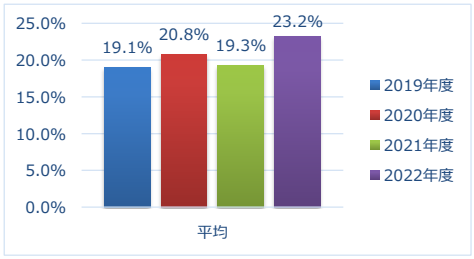
◆ 在宅復帰率





◆ 看護必要度





(iii).2022年度 実績

項目	単位	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	月平均	年度対比			
															2022年度	2021年度	2020年度	2019年度
病床数	床	38	38	38	38	38	38	38	38	38	38	38	38	38.0	38.0	38.0	38.0	38.0
入棟患者総数	人	993	1,049	1,071	1,122	998	1,074	1,065	1,006	848	1,010	935	1,082	1,021.1	1,021.1	1,067.1	1,056.4	1,092.1
1日平均患者数	人	33.1	33.8	35.7	36.2	32.2	35.8	34.4	33.5	27.4	32.6	33.4	34.9	33.6	33.6	35.1	34.7	35.8
病床利用率	%	87.1%	89.0%	93.9%	95.2%	84.7%	94.2%	90.4%	88.2%	72.0%	85.7%	87.9%	91.9%	88.4%	88.4%	92.3%	91.4%	94.2%
入院数	人	32	29	37	36	30	32	36	29	26	27	35	36	32.1	32.1	33.0	32.0	32.3
退院数	人	39	28	33	34	30	34	37	30	26	26	34	36	32.3	32.3	32.8	31.7	32.7
平均在院日数	日	32.0	36.8	30.6	32.1	33.3	32.5	29.2	34.1	32.6	38.3	27.1	30.1	32.4	32.4	33.0	34.2	34.4
在宅復帰率	%	89.2%	89.3%	90.9%	90.9%	88.9%	100.0%	82.9%	92.9%	96.0%	68.0%	76.5%	88.6%	87.8%	87.8%	90.0%	87.1%	91.2%
看護必要度（単月）	%	21.6%	27.6%	30.4%	26.7%	23.4%	22.4%	24.0%	24.2%	23.7%	20.5%	17.3%	16.6%	23.2%	23.2%	19.3%	20.8%	19.1%
看護必要度（3ヶ月平均）	%	17.6%	21.5%	26.5%	28.3%	26.9%	24.2%	23.3%	23.6%	24.0%	22.8%	20.5%	18.1%	23.1%	23.1%	20.4%	20.6%	18.1%

5階病棟

急性期一般病棟　38床

【職種別スタッフ数】　看護師　19名、准看護師　2名、介護福祉士　3名、CW　3名、クラーク　1名

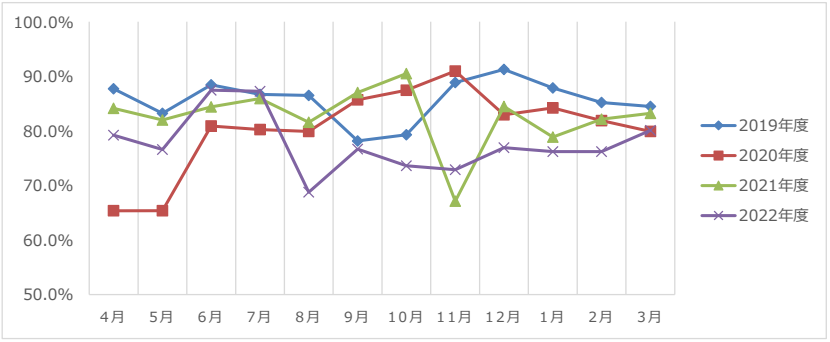
(ｉ).総評

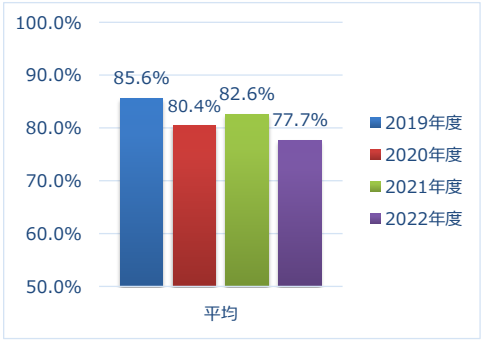
４月～８月の期間は急性期一般20床、地域包括18床計38床で運営していたが、9月より急性期一般38床へと転換した。本年度実績は、病床利用率77.7%（昨年比▲4.9P）、3か月平均在院日数18.6日（昨年比＋0.7日）、看護必要度割合27.0%（昨年比+1.3P）であり、施設基準はクリアした。病床利用率は、目標の92%を下回り77.7%であった。その要因には、COVID19の影響もあり安定した入退院件数の確保ができていないこと、転院患者・外来からの入院ともに高齢化による老々介護、独居による介護者不在、経済的問題など退院困難事例も多く退院調整が困難であったことが考えられる。

今後の展望は、短期入院見込みとなる入院患者の受け入れ調整、入退院支援の強化のため看護師のスキルアップが必須である。また、看護必要度も平均28.1%、平均年齢も80歳前後と要介護者が増加する状況である。次年度4月から看護補助者を含めた3人夜勤を開始する。引いては看護師3人夜勤の導入も視野に入れ、複雑化する患者の緊急入院や手術件数増加にも対応できるように、夜間の体制を強化していく。

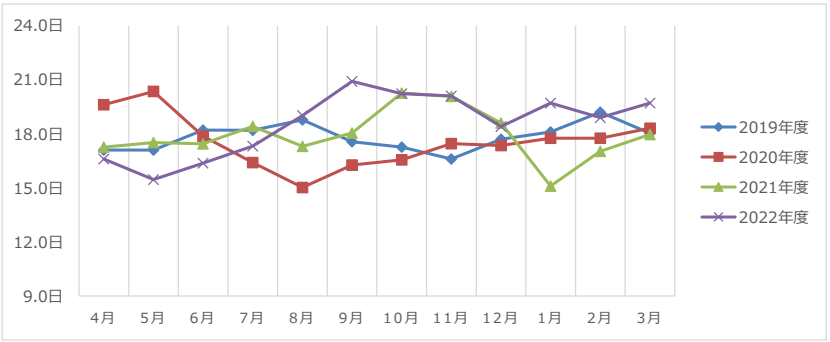
(ii).実績推移

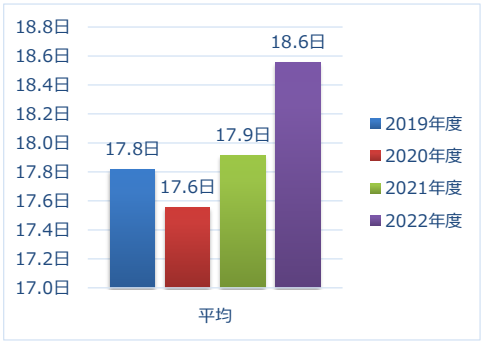
◆ 病床利用率





◆ 3ヶ月平均在院日数





(iii).2022年度 実績

項目	単位	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	月平均	年度対比			
															2022年度	2021年度	2020年度	2019年度
病床数(急性期一般4)	床	20	20	20	20	20	20	38	38	38	38	38	38	29.0	29.0	32.0	38.0	38.0
病床数(地域包括ケア3)	床	18	18	18	18	18	18							18.0	18.0	18.0		
入棟患者総数	人	903	902	997	1,028	810	874	867	831	906	898	811	943	897.5	897.5	955.1	929.0	992.5
１日平均患者数	人/日	30.1	29.1	33.2	33.2	26.1	29.1	28.0	27.7	29.2	29.0	29.0	30.4	29.5	29.5	31.4	30.5	32.5
病床利用率	%	79.2%	76.6%	87.5%	87.3%	68.8%	76.7%	73.6%	72.9%	76.9%	76.2%	76.2%	80.1%	77.7%	77.7%	82.6%	80.4%	85.6%
入院数	人	59	57	60	58	34	55	66	54	62	57	64	61	57.3	57.3	58.2	56.0	57.2
退院数	人	64	51	62	57	45	43	67	59	63	57	54	66	57.3	57.3	57.9	56.2	57.8
平均在院日数	日	14.7	16.7	16.3	17.9	20.5	23.6	17.3	20.3	17.9	21.1	17.8	20.3	18.7	18.7	18.3	18.0	18.0
3ヶ月平均在院日数	日	16.6	15.5	16.4	17.3	19.0	20.9	20.2	20.1	18.4	19.7	18.9	19.7	18.6	18.6	17.9	17.6	17.8

（2021年12月～2022年9月は地域包括ケア入院医療管理料3を算定）

6階病棟

地域包括ケア病棟　34床

【職種別スタッフ数】　看護師　14名、准看護師　3名、介護福祉士　3名、CW　3名、介護サポーター　2名、歯科衛生士　1名、クラーク　1名

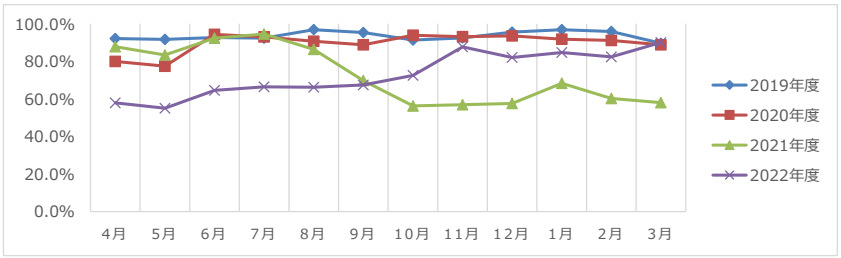
(ｉ).総評

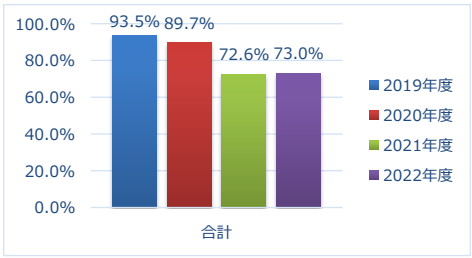
6階病棟は地域包括ケア病棟とコロナ病床4床を確保し、併せて34床で運営した。本年度実績は、病床利用率が73%(前年比＋0.4P）、在宅復帰率 90.2%（前年比+0.1P）、平均在院日数26.1日（前年比▲1.6日）と施設基準はクリアした。

在宅復帰を目指して、日々多職種で協力し退院支援に取り組んでいるが、複雑多様な背景を抱えた在宅退院困難事例が増加し、2021年度在宅復帰率は低下傾向である。2022年度は看取り患者7件を経験した。カンファレンスを行い、スタッフ全員で患者、家族の思いなど情報を共有し、外泊支援や薬剤部や緩和ケアチームと共に持続注射投与を導入するなど、よりよい看取りケアを目指して取り組んだ。今後も、緩和ケアなど人材育成を図り、チームで協力し合い、患者、家族と向き合った看護が行える病棟にしていきたいと考えている。

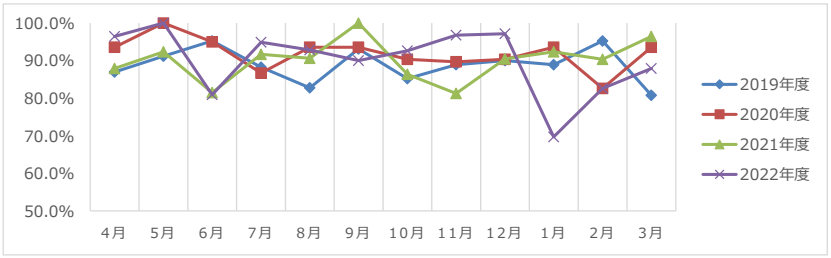
(ii).実績推移

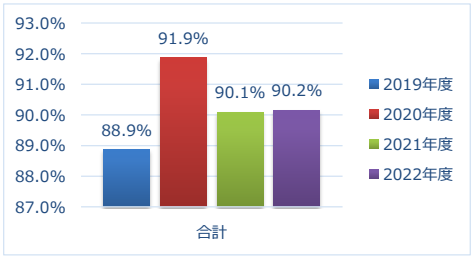
◆ 病床利用率



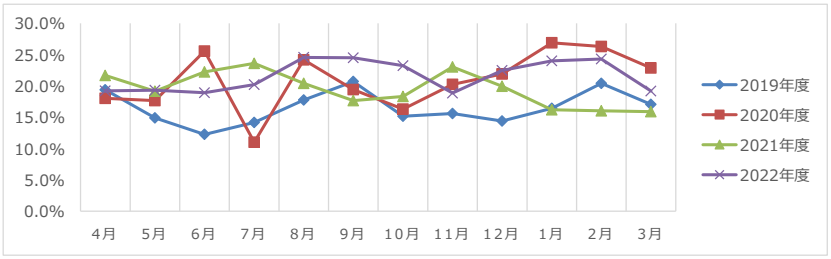


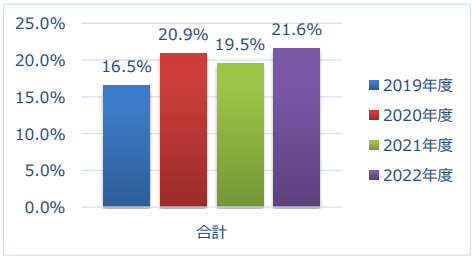
◆ 在宅復帰率





◆ 看護必要度





(iii).2022年度 実績

項目	単位	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	月平均	年度対比			
															2022年度	2021年度	2020年度	2019年度
病床数	床	24	24	24	24	24	24	34	34	34	34	34	34	29.0	29.0	28.2	34.0	34.0
病床数(コロナ)	床	4	4	4	4	4	4							4.0	4.0	4.0	0.0	0.0
入棟患者総数	人	590	580	658	700	697	688	764	894	864	893	785	948	755.1	755.1	751.3	927.4	969.8
１日平均患者数	人/日	19.7	18.7	21.9	22.6	22.5	22.9	24.6	29.8	27.9	28.8	28.0	30.6	24.8	24.8	24.7	30.5	31.8
病床利用率	%	57.8%	55.0%	64.5%	66.4%	66.1%	67.5%	72.5%	87.6%	82.0%	84.7%	82.4%	90.0%	73.0%	73.0%	72.6%	89.7%	93.5%
入院数	人	24	21	27	39	34	22	34	31	31	38	25	36	30.2	30.2	27.0	29.0	28.3
退院数	人	28	19	21	39	31	22	29	32	36	33	24	34	29.0	29.0	28.2	29.3	28.2
平均在院日数	日	22.7	29.0	27.4	17.9	21.5	31.3	24.3	28.4	25.8	25.4	32.1	27.1	26.1	26.1	27.7	32.3	34.9
在宅復帰率	%	96.4%	100.0%	81.0%	94.9%	92.9%	90.0%	92.6%	96.8%	97.1%	69.7%	82.6%	87.9%	90.2%	90.2%	90.1%	91.9%	88.9%
看護必要度	%	19.2%	19.3%	18.9%	20.2%	24.6%	24.5%	23.2%	18.9%	22.5%	24.0%	24.3%	19.2%	21.6%	21.6%	19.5%	20.9%	16.5%

※2021年9月～2022年9月の期間、10床をコロナ患者受入れ病床4床として使用

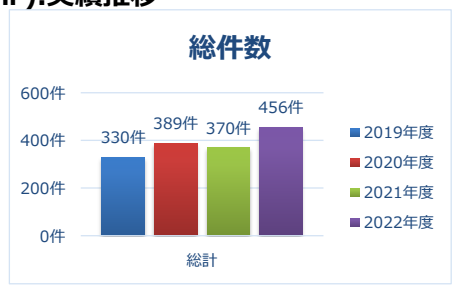
手術室・サプライ

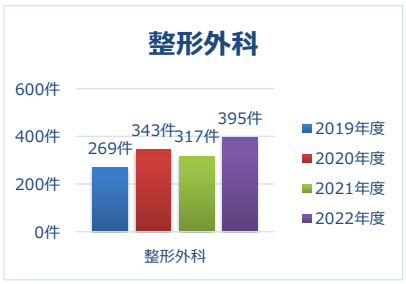
【職種別スタッフ数】　　看護師　3名、CW　2名

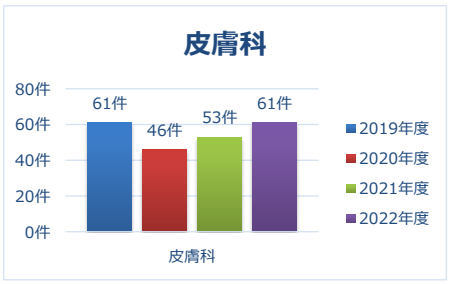
(ⅰ).総評

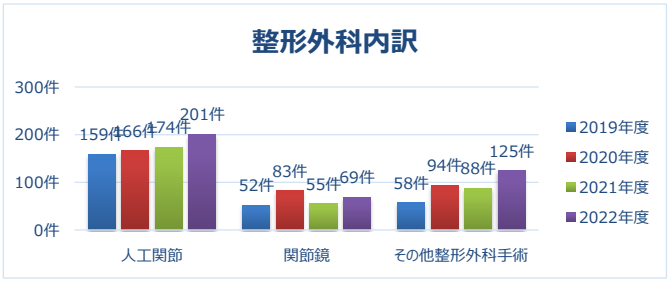
＜手術室＞
常勤スタッフ4名で医療事故を起こさないように多職種とも連携しながら手術を実施している。
手術件数は年々増加しており、それに伴い高齢患者や併存疾患を抱える患者も多い状況の中で、手術室として手術を受ける患者の術前評価による予測した術中ケア計画など安全性の向上に取り組んでいる。手術スケジュールを計画する上で医師や外来・病棟との連携など、患者が安心して周術期を迎えることが出来るように今後も継続していきたい。また、手術前後における看護師の患者訪問達成率100%も継続していけるよう努力していく。
＜サプライ＞
手術器材や材料の供給に不備はなく、1年間を過ごすことができた。滅菌の不備や災害時にも供給が滞ることないように材料を備蓄しているが、過剰在庫にならないように管理は徹底している。

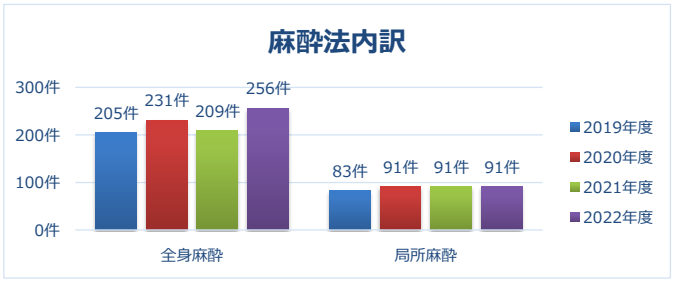
(ⅱ).実績推移











(ⅲ).2022年度 実績

項目			単位	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	月平均	年度対比			
																	2022年度	2021年度	2020年度	2019年度
手術	整形外科	人工膝(股)関節置換術	件	17	16	20	15	24	19	14	16	13	15	14	18	16.8	201	174	166	159
		膝(肩)関節鏡視下手術	件	3	5	6	4	8	6	6	5	7	5	9	5		69	55	83	52
		その他整形手術	件	9	11	17	15	8	6	11	7	11	9	12	9	10.4	125	88	94	58
		整形外科　合計	件	29	32	43	34	40	31	31	28	31	29	35	32	32.9	395	317	343	269
	皮膚科		件	4	3	8	7	5	4	7	4	4	5	4	6	5.1	61	53	46	61
	総計		件	33	35	51	41	45	35	38	32	35	34	39	38	38.0	456	370	389	330
麻酔	全身麻酔		件	17	21	24	22	25	21	19	21	19	23	24	20	21.3	256	209	231	205
	局所麻酔		件	9	7	11	13	7	5	9	6	5	5	4	10	7.6	91	91	91	83
	総計		件	35	35	46	48	39	31	37	33	29	33	32	40	36.5	438	391	413	371

医療機器管理室

【職種別スタッフ数】 臨床工学技士　1名

(ⅰ).総評

医療機器管理室では、年間点検計画書に基づき医療機器の定期点検を行い、修理依頼に関しても院外依頼せず行うことで修理時間の短縮・コストの削減にも努めている。
　また、医療機器台帳を作成することで機器の種類や場所の把握ができ、すぐに対応できる様心掛けている。新規購入機器はもちろん、既存の機器においても勉強会・トラブルシューティングを行うことでスタッフの知識の習得や手技の統一を図っている。
手術日には術前点検を行うのは勿論、術中の機器操作・間接介助なども行っている。
今後、医療機器の管理システムを導入することでより一元管理がしやすくなり、現場スタッフも稼働率が確認できるようになる為、業務効率が上がり他職種との連携も取りやすくなることを目標にしていく。

(ⅱ).新規導入機器

ベッドサイドモニタ（フクダ電子）
DS-8100



超音波診断装置（CANON）Viamo C1000

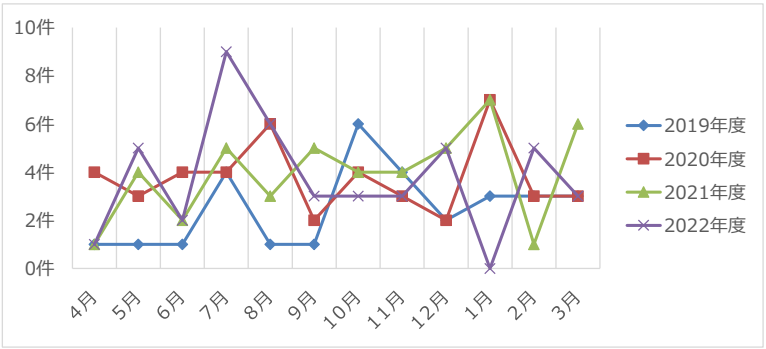


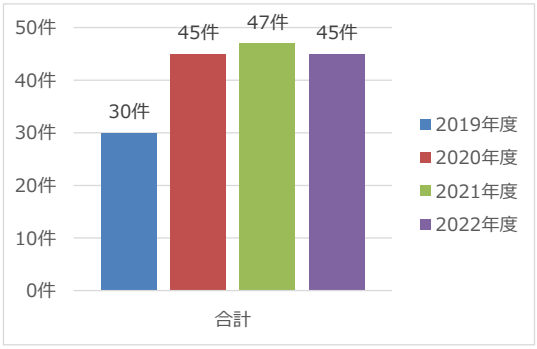
(ⅲ).機器説明会等実施状況

開催日	名称	参加人数
5月27日	酸素療法	4名
5月26日～6月18日	AED	382名
6月10日	医用モニタ・輸液ポンプ	4名
9月16日	シリンジポンプ・除細動器	4名
9月20日～26日	人工呼吸器	40名
8月3日～11月28日	医療機器安全基礎講習会	1名

(ⅳ).実績推移

◆ 総修理依頼件数





(ⅴ).2022年度実績

項目	単位	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	月平均	年度対比			
															2022年度	2021年度	2020年度	2019年度
総修理依頼件数	件	1	5	2	9	6	3	3	3	5	0	5	3	3.8	45	47	45	30
メーカー出し	件	0	0	0	0	1	0	1	0	0	0	0	0	0.2	2	1	5	1
技士対応	件	1	5	2	9	5	3	2	3	5	0	5	3	3.6	43	46	44	29

セラピスト課・テクノエイドセンター

【職種別スタッフ数】 理学療法士　24名、作業療法士　15名、言語聴覚士　4名、リハビリ助手　2名、義肢装具士　1名

(ⅰ).総評

(ⅰ-Ⅰ)理学療法

実施単位数の大きな落ち込みがあった8月に関しては、院内クラスターによる影響が大きく、一時的に各病棟でのリハ介入を中止する期間があったためである。そういった中でも、外来リハに関しては年間通して、平均的な単位取得となり圧倒的に運動器疾患が多かった。これは肩や膝、腰などの慢性疾患に対するものと、術後に退院され日常生活の中で必要な身体能力の再獲得を目指した関りが主であった。

2022年度は第6波、7波、8波とコロナ禍であったが感染対策を施しながら大きな崩れなく提供が行えたことは大きな経験となった。3年ぶりに新卒者を１名採用でき「新人セラピスト教育マニュアル」「チェックリスト」を作成し、新人教育に関する業務改善も行った。2023年度は、入院中からの理学療法提供にて患者さん自身の自立度を高める関わり方を推奨していき、外来では、術後早期退院患者さんにも積極的にフォローできる人員体制を整えていきたい。

(ⅰ-Ⅱ)作業療法

作業療法では、"個別性の高い生活支援をするために、評価を充実し、多職種と協働していく"という目標を掲げ、高次脳機能・就労支援・上肢整形外科など作業療法の専門分野をチームに分け、知識向上に努めてきた。2023年度以降は社会・地域に求められている事に対する実現のための取り組みを計画している。

2022年度実績としては、4～５月は新人職員の研修期間（見習い期間）により単位の低下があり、例年通り6月以降に徐々に数値が増えてきた。しかし、8月に入り度重なる新型コロナウイルス感染関連により一時的に作業療法提供中止やスタッフの出勤停止などあり、9月前半まで単位減少となる影響があったと考える。また、同時期に職員の退職もあり重なり、更なる数値の落ち込みもあったと考える。10月以降は感染関連も落ち着き、新人職員も一般スタッフの８～9割程度の働きが出来るようになり、単位も回復し安定してきた。

(ⅰ-Ⅲ)言語聴覚

2022年度は、「患者さんの笑顔を引き出せるように、一人ひとりに寄り添ったリハビリテーションを目指します」との目標を掲げ、毎日のミーティングの中で事例検討や勉強会を実施しながら、患者一人ひとりの「話す事」「食べる事」の獲得に向け邁進してきた。2020年度8月からはVE検査も導入し、経口摂食への移行を適切に進められるよう、医師や看護師と協業しながら努めている。

実績としては、2019年度までは言語聴覚士が７～8名在籍し、全病棟をフォローし合いながら提供していたが、コロナ禍以降、フォローし合えなくなり単位数が減少した。加え、職員の減数から処方数を制限する事にもなった。2022年度は、8月の院内クラスターや年間通して職員の出勤自粛が発生し単位数が伸びない要因となった。2022年度後半～2023年度は、中堅職員2名の産休・育休により引き続き処方数を制限することも予測されるが、病棟を跨いだフォローの再開に期待し、必要な患者に寄り添いながら言語聴覚療法を提供して行きたい。

(ⅰ-Ⅳ)テクノエイドセンター

今年度の装具作製件数は前年度に比べ減少しているが、原因として診療報酬改定による採寸の技術費用が対象外となったことで対応件数に含めていないためである。患者対応は前年度と比べ、変わらない件数もしくはそれを上回る件数の対応を行っている。医師の増加により装具作製依頼件数も増加している状況である。

近年では、皮膚科患者への対応も行っており、靴の調整や相談業務も行っている。

(ⅱ).年度 実績

<入院>

項目		単位	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	月平均	年度対比			
																2022年度	2021年度	2020年度	2019年度
理学療法	脳血管リハ(Ⅰ)	単位	1,999	1,807	1,692	1,397	992	1,300	1,376	1,577	1,678	1,512	1,373	1,928	1,552.6	18,631	21,465	19,064	25,479
	運動器リハ(Ⅰ)	単位	915	1,311	1,620	1,684	1,245	1,752	1,938	1,734	1,718	1,843	1,900	1,900	1,630.0	19,560	19,513	33,436	46,284
	呼吸器リハ(Ⅰ)	単位	0	15	33	56	14	13	21	92	53	87	9	40	36.1	433	841	928	218
	がん患者リハ	単位	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.0	0	0	0	2
	廃用リハ(Ⅰ)	単位	67	60	127	294	196	186	122	101	108	79	117	304	146.8	1,761	1,616	3,217	7,311
	消炎鎮痛	単位	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.0	0	0	61	181
	合計	**単位**	**2,981**	**3,193**	**3,472**	**3,431**	**2,447**	**3,251**	**3,457**	**3,504**	**3,557**	**3,521**	**3,399**	**4,172**	**3,365.4**	**40,385**	**43,435**	**56,706**	**79,475**
作業療法	脳血管リハ(Ⅰ)	単位	1,935	1,788	1,776	1,472	1,009	1,415	1,521	1,656	1,669	1,588	1,539	2,024	1,616.0	19,392	21,927	19,403	26,137
	運動器リハ(Ⅰ)	単位	465	724	865	1,098	655	1,160	1,313	1,112	1,009	1,091	1,168	1,098	979.8	11,758	11,621	16,136	15,396
	呼吸器リハ(Ⅰ)	単位	0	14	26	66	12	2	31	32	23	82	13	18	26.6	319	527	419	72
	がん患者リハ	単位	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.0	0	0	0	4
	廃用リハ(Ⅰ)	単位	13	46	130	197	4	49	74	54	65	43	134	232	86.8	1,041	1,417	1,885	4,173
	合計	**単位**	**2,413**	**2,572**	**2,797**	**2,833**	**1,680**	**2,626**	**2,939**	**2,854**	**2,766**	**2,804**	**2,854**	**3,372**	**2,709.2**	**32,510**	**35,492**	**37,843**	**45,782**
言語聴覚療法	脳血管リハ(Ⅰ)	単位	869	768	875	906	512	835	876	877	784	854	630	746	794.3	9,532	10,859	11,266	15,781
	廃用リハ(Ⅰ)	単位	0	15	13	21	1	0	3	5	25	48	77	77	23.8	285	299	989	2,661
	呼吸器リハ(Ⅰ)	単位	0	0	28	61	8	10	56	54	21	80	19	21	29.8	358	564	553	0
	合計	**単位**	**869**	**783**	**916**	**988**	**521**	**845**	**935**	**936**	**830**	**982**	**726**	**844**	**847.9**	**10,175**	**11,722**	**12,808**	**18,442**

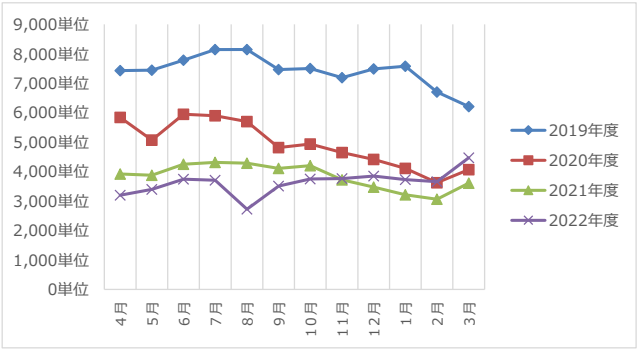
<外来>

項目		単位	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	月平均	年度対比			
																2022年度	2021年度	2020年度	2019年度
理学療法	運動器リハ(Ⅰ)	単位	220	205	267	270	265	251	283	255	285	208	257	300	255.5	3,066	2,574	2,301	6,194
	呼吸器リハ(Ⅰ)	単位	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.0	0	1	0	0
	廃用リハ(Ⅰ)	単位	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.0	0	0	0	12
	消炎鎮痛	単位	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.0	0	0	20	2,952
	合計	**単位**	**220**	**205**	**272**	**273**	**276**	**260**	**290**	**261**	**293**	**211**	**259**	**300**	**260.0**	**3,120**	**2,599**	**2,364**	**9,600**
作業療法	脳血管リハ(Ⅰ)	単位	0	0	0	4	8	8	21	12	10	13	2	0	6.5	78	14	28	266
	運動器リハ(Ⅰ)	単位	25	38	52	75	73	75	93	67	61	42	30	45	56.3	676	646	710	781
	廃用リハ(Ⅰ)	単位	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.0	0	0	0	5
	消炎鎮痛	単位	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.0	0	0	27	5
	合計	**単位**	**25**	**38**	**52**	**79**	**81**	**83**	**114**	**79**	**71**	**55**	**32**	**45**	**62.8**	**754**	**660**	**738**	**1,052**
言語聴覚療法	脳血管リハ(Ⅰ)	単位	6	13	9	0	0	0	0	0	2	10	14	13	5.6	67	75	57	456
	廃用リハ(Ⅰ)	単位	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.0	0	0	0	1
	合計	**単位**	**6**	**13**	**9**	**0**	**0**	**0**	**0**	**0**	**2**	**10**	**14**	**13**	**5.6**	**67**	**75**	**57**	**457**

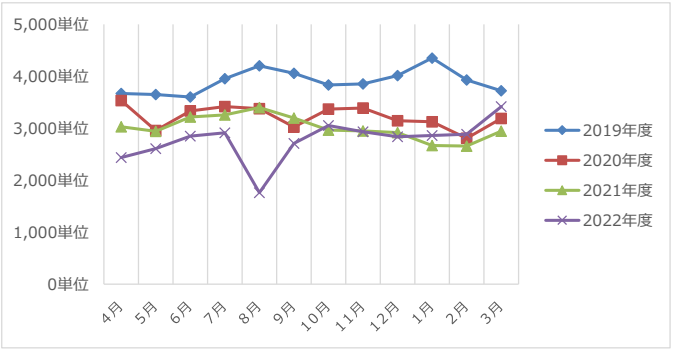
(ⅱ-Ⅶ)テクノエイドセンター

項目	単位	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	月平均	年度対比			
															2022年度	2021年度	2020年度	2019年度
ギプスシーネ	件	10	12	18	25	14	13	13	15	19	10	12	9	14.2	170	131	119	123
ギプス包帯	件	4	4	2	2	3	3	2	3	4	7	3	5	3.5	42	52	17	9
採寸	件	3	3	0	2	1	6	6	8	6	3	3	5	3.8	46	297	267	6
採型	件	4	11	10	6	3	10	14	8	4	15	9	9	8.6	103	87	83	78
合計	**件**	**21**	**30**	**30**	**35**	**21**	**32**	**35**	**34**	**33**	**35**	**27**	**28**	**30.1**	**361**	**567**	**486**	**216**

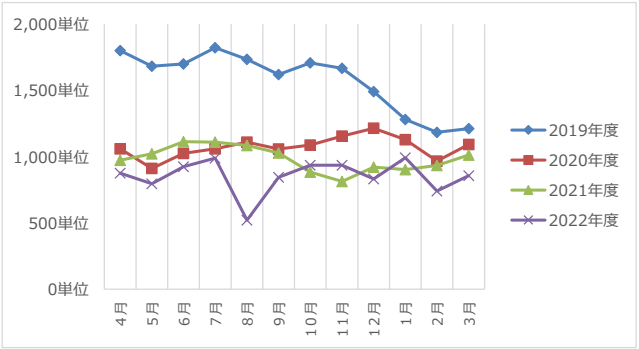
◆ 理学療法　単位数推移



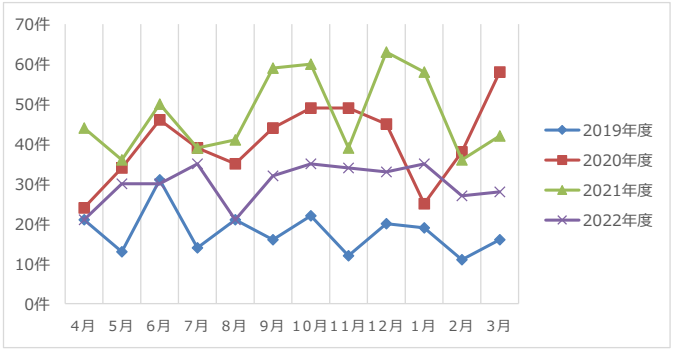
◆ 作業療法　単位数推移



◆ 言語療法　単位数推移



◆ テクノエイドセンター　対応件数推移



薬剤課

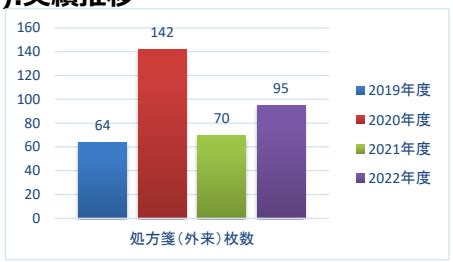
【職種別スタッフ数】　　薬剤師　7名、事務　1名

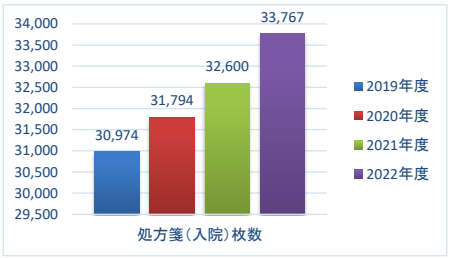
(ⅰ).総評

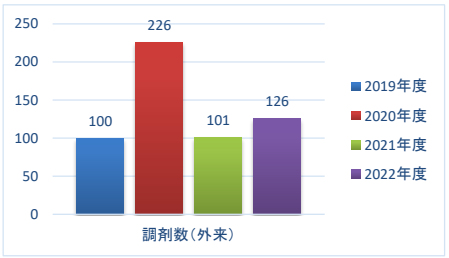
4月より2名の薬剤師入職により7名体制となり、病棟薬剤業務実施加算の施設基準算定を目標に掲げ、質の高い薬物療法の実践が行える環境をつくった。新型コロナウイルス感染症のクラスターの影響などもあり、予定より1カ月ずれ込んだが、9月に実績をつくり10月から算定できるようになった。

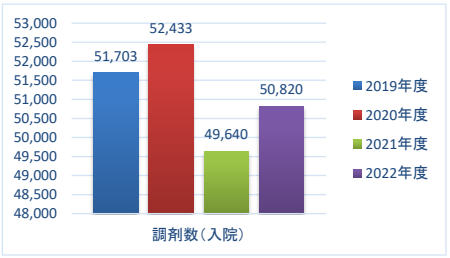
入院時の持参薬鑑別、処方提案も全例介入し、服薬指導件数も増加できた。また、退院時指導もほぼ全例実施し、退院後のかかりつけ薬局への情報提供書の作成もルーティーン化できた。今年度は人員確保ができたため攻めの業務展開ができた。ただ、残業の増加があり、次年度は業務のスリム化、助手の活用によるタスクシフトを行い、効率的で質を落とさない安定した運営ができるように改善を図りたい。

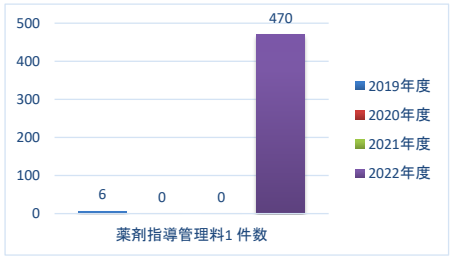
(ⅱ).実績推移

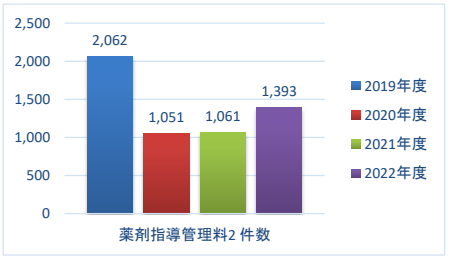


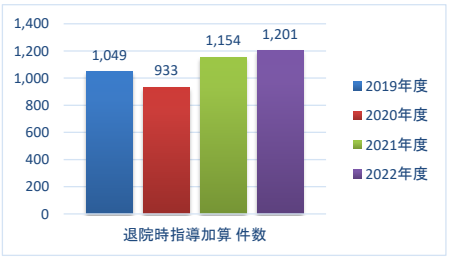


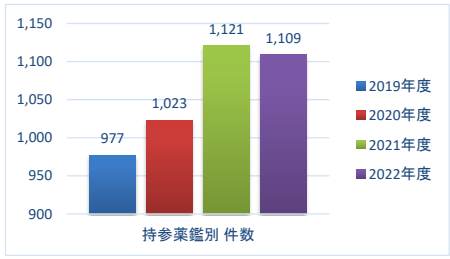


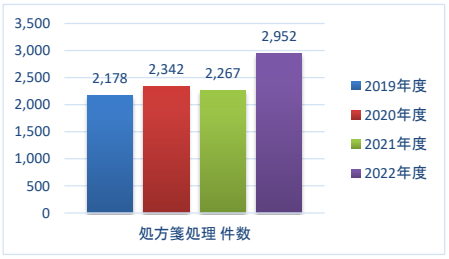












(ⅲ).2022年度 実績

項目	単位	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	月平均	年度対比			
															2022年度	2021年度	2020年度	2019年度
処方箋枚数（外来）	枚	11	8	10	17	6	4	1	10	9	6	6	7	7.9	95	70	142	64
処方箋枚数（入院）	枚	2,581	2,618	2,957	2,868	2,597	2,553	2,606	2,974	2,905	2,828	2,802	3,478	2813.9	33,767	32,600	31,794	30,974
調剤数（外来）	件	14	11	14	26	10	4	1	11	11	7	8	9	10.5	126	101	226	100
調剤数（入院）	件	4,051	3,980	4,576	4,300	3,771	3,910	3,922	4,561	4,477	4,264	4,168	4,840	4235.0	50,820	49,640	52,433	51,703
薬剤管理指導件数	件	0	0	6	34	33	60	57	76	70	39	44	51	39.2	470	0	0	6
（内、請求件数）	件	0	0	6	34	33	60	57	76	70	39	44	51	39.2	470	0	0	6
指導件数（包括含）	件	110	75	112	98	105	120	152	133	144	116	110	118	116.1	1,393	1,061	1,051	2,062
（内、請求件数）	件	0	0	15	40	24	58	68	62	65	47	48	38	38.8	465	0	1	860
退院時指導加算	件	103	91	98	113	103	86	112	105	89	94	91	116	100.1	1,201	1,154	933	1,049
（内、請求件数）	件	0	0	8	14	17	21	35	21	34	25	25	25	18.8	225	0	28	114
持参薬鑑別件数	件	92	87	99	97	76	75	113	89	90	85	99	107	92.4	1,109	1,121	1,023	977
処方箋処理件数	件	185	186	225	215	262	233	258	287	271	273	232	325	246.0	2,952	2,267	2,342	2,178
病棟薬剤業務実施加算	件	0	0	0	0	0	0	155	149	162	174	157	172	80.8	969	0	0	698

放射線課

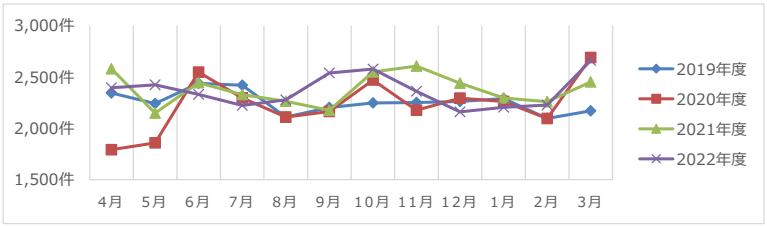
【職種別スタッフ数】 放射線技師　5名

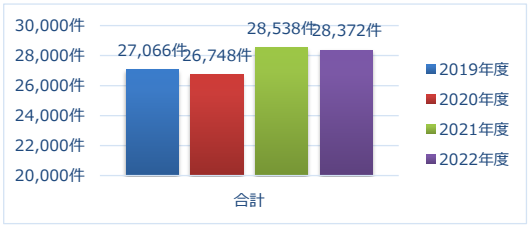
(ｉ).総評

2022年度の放射線課関連の検査件数を令和３年度と比較して述べる。一般撮影はほぼ同等数であった。透視撮影は健診センターの胃透視検査が多くなったこともあり、約1.6倍になった。骨塩定量は3%増となった。CT検査は3%減となった。これは、装置更新により、約1週間検査ができなかったためと考えられる。撮影部位別にみると四肢のCTは２割増、胸腹部のCTは１割増であった。件数増加は新しいCTの画像の見やすさが関係しているかもしれないので、今後も診療に役立つ画像を提供したい。
MRI検査は全体として15%増加した。撮影部位別にみると頭部MRIは4割増となった。緊急の頭部MRI撮影も増加していることが要因であるかもしれない。医師の増員により整形外科領域の骨盤、股関節、四肢のMRIも軒並み増加した。令和５年度はさらに質の高い放射線検査を実施できるように努める。

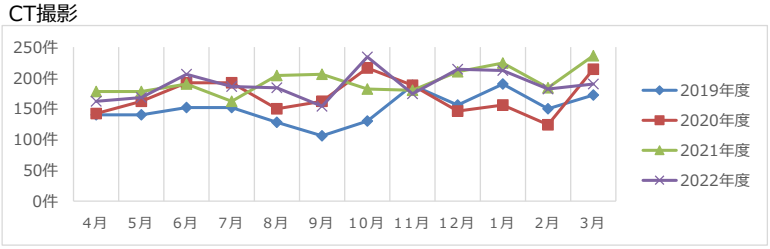
(ii).実績推移

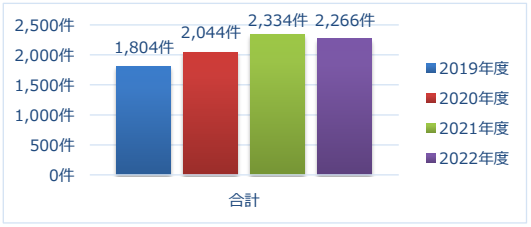
◆ 一般撮影



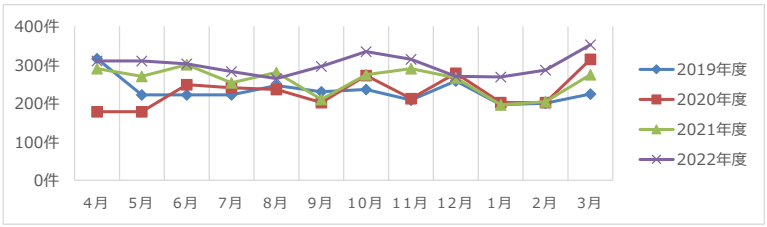


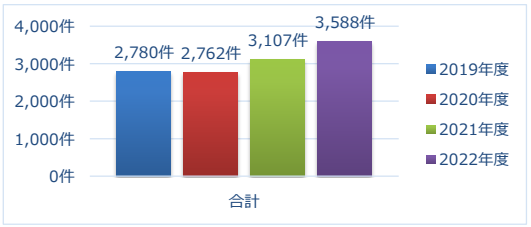
◆ CT撮影



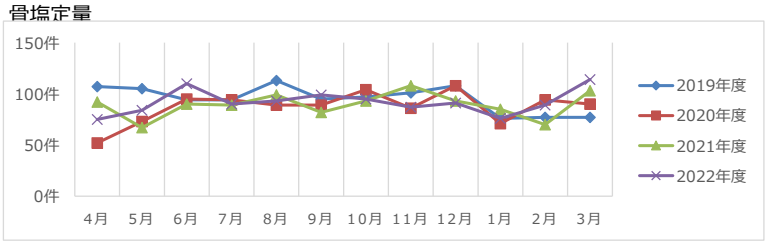


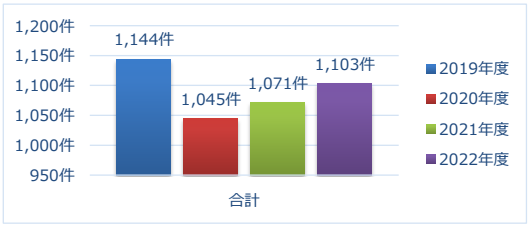
◆ MRI撮影





◆ 骨塩定量





(iii).2022年度 実績

項目		単位	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	月平均	年度対比			
																2022年度	2021年度	2020年度	2019年度
一般撮影	外来	件	951	966	900	865	892	999	999	886	819	838	838	993	912.2	10,946	10,616	9,781	10,060
	入院	件	1,443	1,458	1,430	1,357	1,386	1,539	1,577	1,474	1,341	1,366	1,388	1,667	1452.2	17,426	17,922	16,967	17,006
CT撮影	外来	件	114	128	148	130	134	124	176	140	172	184	136	160	145.5	1,746	1,612	1,334	1,254
	入院	件	48	40	58	56	50	30	58	34	42	28	46	30	43.3	520	722	710	550
MRI撮影	外来	件	282	302	280	268	252	286	302	292	258	256	268	326	281.0	3,372	2,785	2,438	2,490
	入院	件	28	8	22	14	12	10	32	22	12	12	18	26	18.0	216	322	324	290
透視造影		件	9	18	25	29	18	26	30	29	27	30	16	29	23.8	286	174	241	252
骨密度測定検査		件	75	84	110	90	93	99	95	87	91	76	89	114	91.9	1,103	1,071	1,045	1,144

臨床検査課

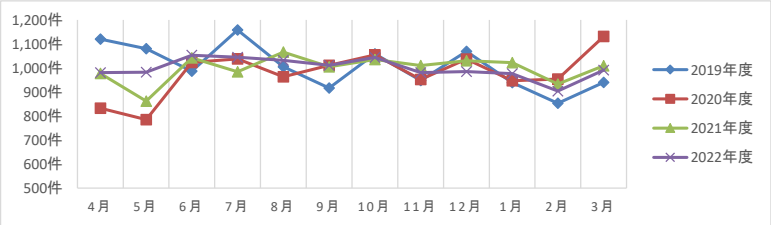
【職種別スタッフ数】　臨床検査技師　10名

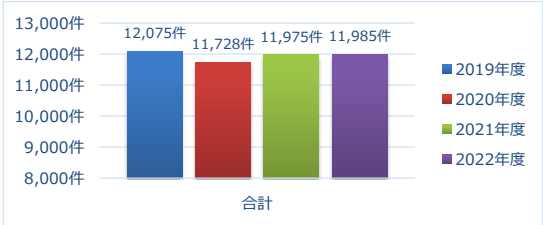
(i).総評

2022年度は、検体検査では令和2年から引き続きコロナ禍にあり、PCR検査の需要が増加、過去最高の検査数となった。要因として院内での熱発者が増え、院内クラスターの防止と対応、収束確認の再検査のため需要が増えたことが考えられる。生理検査ではコロナ禍に入ってからも超音波検査数が増加。要因として人工関節術件数の増加に伴うOPE前後での検査が考えられる。また下半期伸び悩んだ為、検査勧奨を行い増加につながった。
今後は、超音波検査の需要増加を見込み対応すべく、実務者の確保と質の高い結果を提供する為、実務者育成とスキルアップ、新たに乳腺エコーや経頭蓋内エコー実施も目指す。臨床検査課として、病院機能評価・品質保証施設認証をクリアし、正確で迅速、かつ付加価値をつけた検査結果の報告と、タスクシフト/シェアも取り入れながら患者さんや地域の皆様に貢献していきたい。

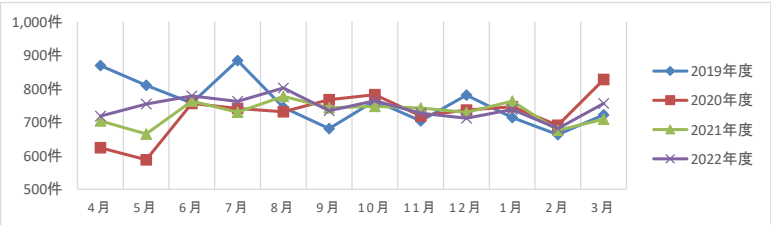
(ii).実績推移

◆ 生化学検査



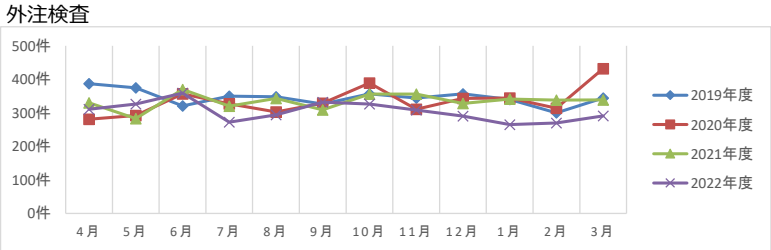


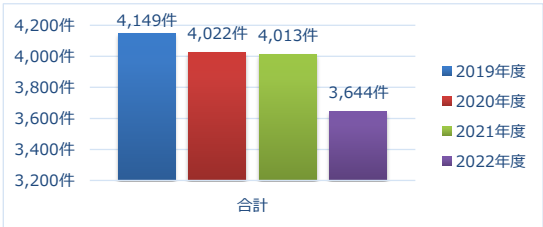
◆ 血液検査



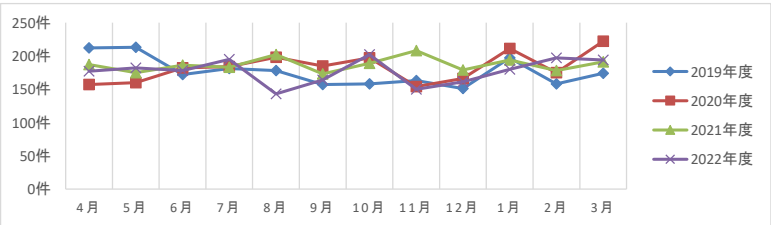


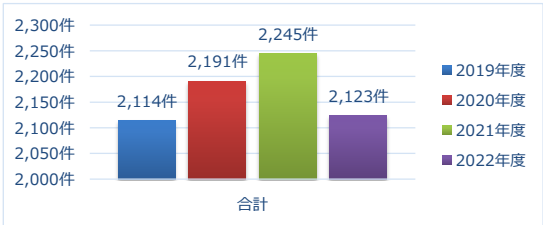
◆ 外注検査



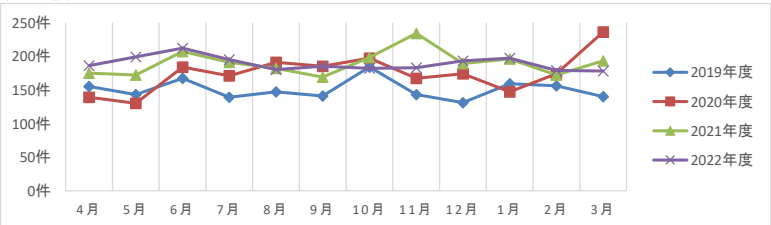


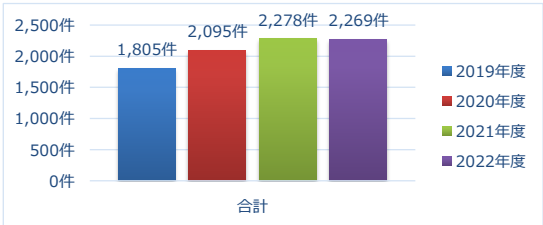
◆ 心電図





◆ 超音波





(ⅲ).2022年度 実績

項目			単位	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	月平均	年度対比			
																	2022年度	2021年度	2020年度	2019年度
検体検査	生化学	外来	件	626	658	665	666	671	636	624	577	609	619	586	605	628.5	7,542	7,845	7,552	8,126
		入院	件	355	324	388	379	361	375	420	404	376	357	318	386	370.3	4,443	4,130	4,176	3,949
	血液一般	外来	件	398	434	416	400	438	389	384	356	368	417	390	391	398.4	4,781	4,879	4,645	5,230
		入院	件	320	320	362	362	364	345	380	371	344	321	291	365	345.4	4,145	3,869	4,063	3,863
	尿	外来	件	448	443	420	468	505	381	475	427	447	391	379	342	427.2	5,126	4,833	4,605	4,717
		入院	件	230	246	268	243	344	233	262	287	387	358	292	308	288.2	3,458	3,082	2,628	2,452
	外注	外来	件	232	243	261	201	226	240	224	196	220	208	202	211	222.0	2,664	2,938	2,821	3,038
		入院	件	79	83	98	71	68	92	102	112	70	57	68	80	81.7	980	1,075	1,201	1,111
	合計	外来	件	1,704	1,778	1,762	1,735	1,840	1,646	1,707	1,556	1,644	1,635	1,557	1,549	1676.1	20,113	20,495	19,623	21,111
		入院	件	984	973	1,116	1,055	1,137	1,045	1,164	1,174	1,177	1,093	969	1,139	1085.5	13,026	12,156	12,068	11,375
総計			**件**	**2,688**	**2,751**	**2,878**	**2,790**	**2,977**	**2,691**	**2,871**	**2,730**	**2,821**	**2,728**	**2,526**	**2,688**	**2761.6**	**33,139**	**32,651**	**31,691**	**32,486**

項目			単位	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	月平均	年度対比			
																	2022年度	2021年度	2020年度	2019年度
生理検査	心電図	外来	件	124	122	110	122	100	93	127	83	97	123	125	106	111.0	1,332	1,388	1,331	1,313
		入院	件	53	60	68	73	43	71	75	67	64	57	72	88	65.9	791	857	860	801
	血圧脈波	外来	件	21	26	17	20	20	17	13	18	19	21	22	19	19.4	233	202	237	249
		入院	件	4	2	7	3	2	3	10	4	7	2	6	4	4.5	54	60	85	83
	眼底	外来	件	17	23	14	13	15	8	17	11	10	15	24	11	14.8	178	200	170	148
		入院	件	7	0	8	8	3	3	5	2	8	3	6	6	4.9	59	63	67	74
	肺機能	外来	件	21	24	25	23	22	22	23	34	26	25	32	23	25.0	300	243	226	227
		入院	件	0	3	1	2	1	0	3	1	1	1	1	0	1.2	14	10	30	12
	肺機能	外来	件	23	24	25	25	22	23	23	42	28	29	36	26	27.2	326	254	237	242
		入院	件	0	3	1	2	1	0	3	1	1	1	1	0	1.2	14	10	30	17
	ホルター	外来	件	8	7	0	2	4	3	8	3	6	11	7	5	5.3	64	59	68	46
		入院	件	1	1	0	3	1	1	0	1	0	2	4	5	1.6	19	8	28	19
	超音波(腹部)	外来	件	25	33	28	18	27	31	20	21	24	27	26	46	27.2	326	386	298	295
		入院	件	6	5	8	11	1	5	6	7	10	8	10	3	6.7	80	97	133	118
	超音波(腎膀胱)	外来	件	14	8	14	8	8	8	6	8	12	12	5	2	8.8	105	119	128	100
		入院	件	3	2	5	2	3	1	3	3	2	2	0	0	2.2	26	42	37	25
	超音波(頚部)	外来	件	2	3	4	1	6	4	2	3	6	4	3	3	3.4	41	45	50	53
		入院	件	1	0	0	3	0	0	0	0	1	1	2	0	0.7	8	5	22	37
	超音波(下肢)	外来	件	34	45	47	43	34	37	37	43	43	39	42	37	40.1	481	388	359	323
		入院	件	46	51	61	51	59	59	58	56	44	52	48	46	52.6	631	623	492	352
	超音波(心臓)	外来	件	45	37	31	43	35	29	39	37	43	39	35	27	36.7	440	400	370	368
		入院	件	5	6	7	5	1	6	5	3	8	6	7	10	5.8	69	71	150	85
	超音波(その他)	外来	件	5	9	7	10	6	5	6	2	0	7	1	4	5.2	62	95	43	45
		入院	件	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.0	0	7	13	4
	合計	外来	件	339	361	322	328	299	280	321	305	314	352	358	309	324.0	3,888	3,779	3,517	3,409
		入院	件	126	133	166	163	115	149	168	145	146	135	157	162	147.1	1,765	1,853	1,947	1,627
総計			件	**465**	**494**	**488**	**491**	**414**	**429**	**489**	**450**	**460**	**487**	**515**	**471**	**471.1**	**5,653**	**5,632**	**5,464**	**5,036**

栄養管理課

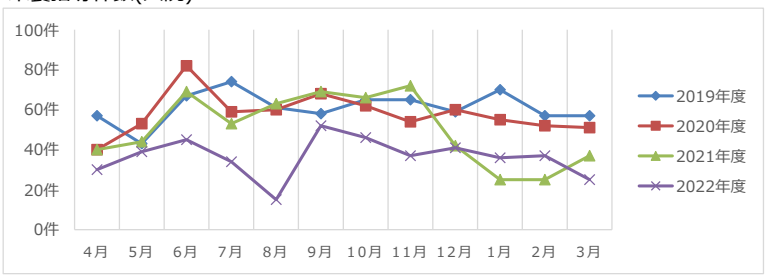
【職種別スタッフ数】管理栄養士　4名

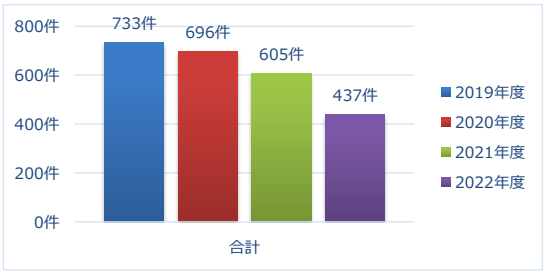
(ｉ).総評

①安全で安心な食事提供を行う ②低栄養状態改善と在宅復帰に向けた栄養管理を行う（入院栄養指導80件/月、外来栄養指導件数20件/月）③診療報酬改定にともなう栄養管理・栄養指導体制を整える（入院・退院前支援としての栄養状態評価・栄養指導・栄養情報の提供）を目標として取り組んだ。
インシデントは平均0.8件/月、アクシデントは0件で前年度より減少した。給食委託業者との連携によるものと考え、引続き、安全・安心な食事提供に尽力する。
栄養指導件数は入院64件/月、外来22件/月であった。入院の件数が減少した要因の一つは患者層によるものと考えられた。速やかな対象者抽出及び指導は概ねできており、外来での件数増加を検討する。
入院・退院前支援としては栄養情報提供書による地域や他施設との連携をはかった。今後も在宅から入退院まで、あらゆる場面で寄り添った栄養管理を目指していきたい。

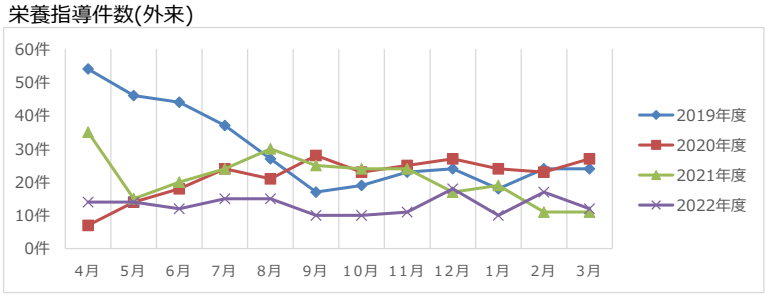
(ii).実績推移

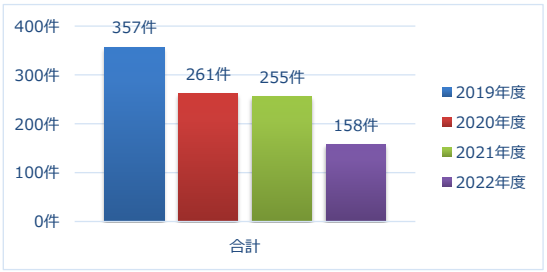
◆ 栄養指導件数(入院)



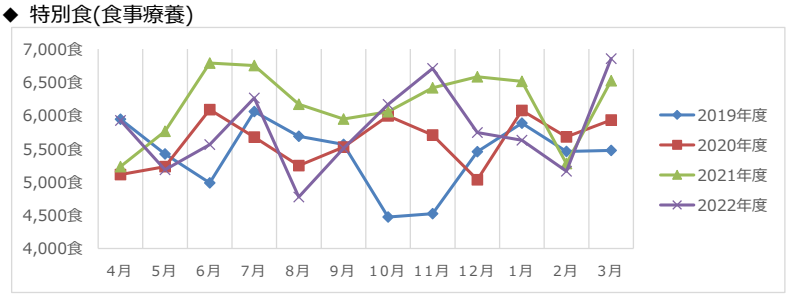


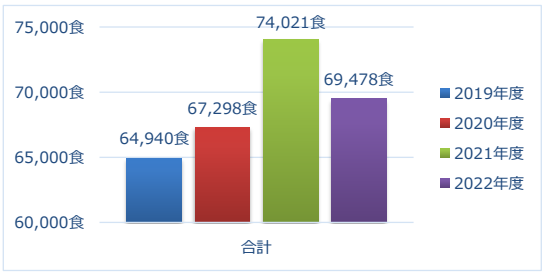
◆ 栄養指導件数(外来)





◆ 特別食(食事療養)





(iii).2022年度実績

項目		単位	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	月平均	年度対比			
																2022年度	2021年度	2020年度	2019年度
栄養指導	外来	件	14	14	12	15	15	10	10	11	18	10	17	12	13.2	158	255	261	357
	人間ドック	件	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.1	1	1	2	5
	骨粗鬆症	件	9	13	5	11	5	13	13	4	2	4	4	3	7.2	86	155	118	179
	回復期	件	9	10	15	8	2	14	9	8	8	12	6	7	9.0	108	164	193	176

項目		単位	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	月平均	年度対比			
																2022年度	2021年度	2020年度	2019年度
常食		食	1,639	2,135	2,593	2,188	1,858	2,207	1,949	1,666	1,566	1,676	1,772	1,866	1,926.3	23,115	24,228	26,619	33,325
特食	加算	食	5,924	5,184	5,563	6,262	4,775	5,506	6,166	6,709	5,744	5,627	5,163	6,855	5,789.8	69,478	74,021	67,298	64,940
	非加算	食	2,277	2,544	2,591	2,546	2,657	2,206	2,142	1,932	2,787	3,249	2,708	2,888	2,543.9	30,527	30,468	37,636	38,137
特食経管	非加算	食	261	365	355	251	308	274	399	361	417	329	311	309	328.3	3,940	5,648	4,913	4,261

地域医療連携室

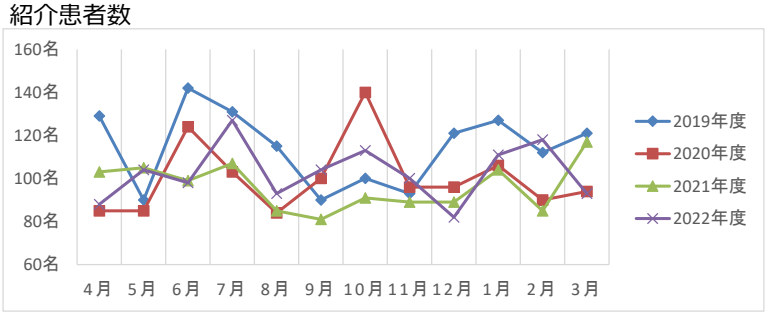
【職種別スタッフ数】 看護師 3名、MSW 4名、事務 2名

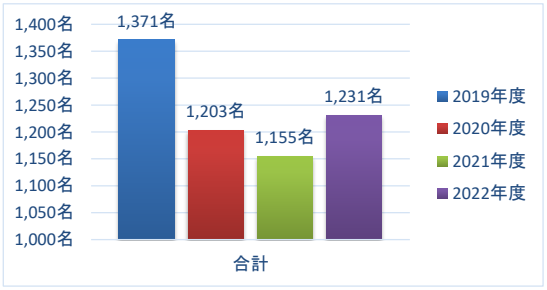
(i).総評

2022年4月より看護師を2名を増員し体制を強化した。医師と連携室看護師が同行し、地域の診療所やクリニック34施設を対象に年2回延べ55件訪問し、紹介患者の確保に努めた。
2022年度実績は、紹介患者数は1,231名（前年比＋76名）で、月平均102.6件であった。紹介入院の41%が病院・診療所から、外来・行政からが58.9%、施設が0.1%であった。2022年9月～救急告示病院となり救急患者の受入れが増え、外来からの緊急入院が増えている。それに伴い、平均待機期間が4.0日（前年比＋0.2日）であり、2020年度の2.2日から徐々に延長傾向にある。一方、自宅退院は80%、施設10%、病院8%であり、入院前の退院に係るリスク評価と、受け入れ病棟間で連携した空床確保と病床管理は課題である。
　入退院支援に関する加算については質の向上も含めその役割を担った。また、患者・家族および院内関係者、地域からの相談・苦情を年間200件以上受け付け対応したが、大きな問題には至らなかった。

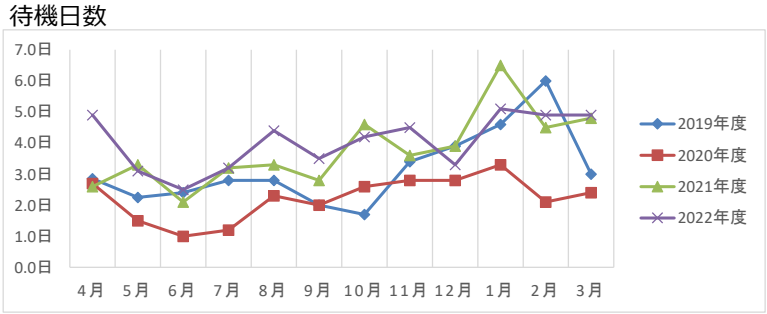
(ii).実績

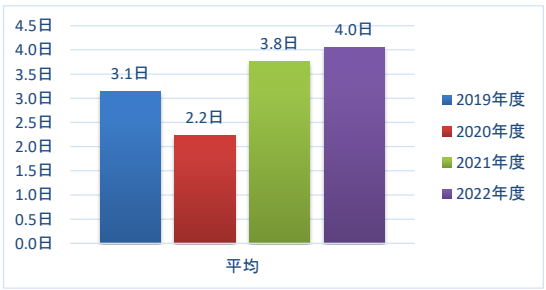
◆ 紹介患者数



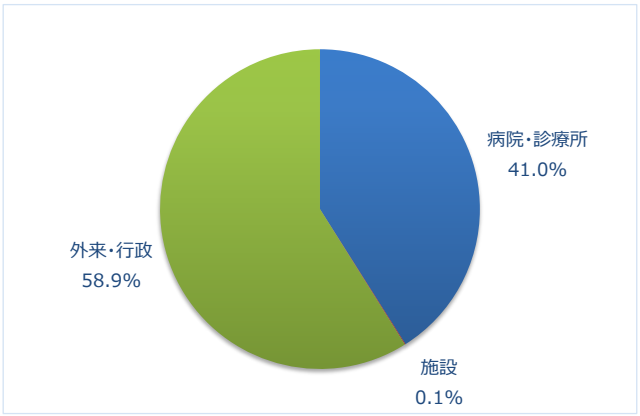


◆ 待機日数

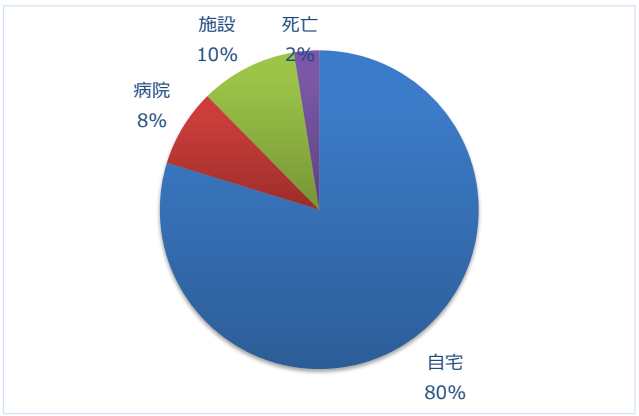




◆ 2022年度　入院経路内訳



2022年度　退院紹介先内訳



(iii).2022年度 実績

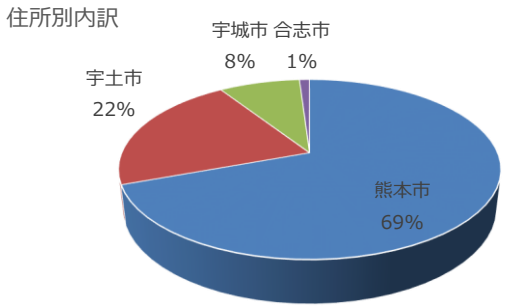
項目	単位	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	月平均	年度対比			
															2022年度	2021年度	2020年度	2019年度
紹介患者数	日	88	104	98	127	93	104	113	100	82	111	118	93	102.6	102.6	96.3	100.3	114.3
待機日数	件	4.9	3.1	2.5	3.2	4.4	3.5	4.2	4.5	3.3	5.1	4.9	4.9	4.0	4.0	3.8	2.2	3.1

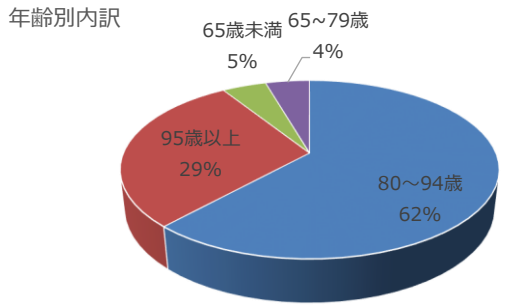
訪問診療

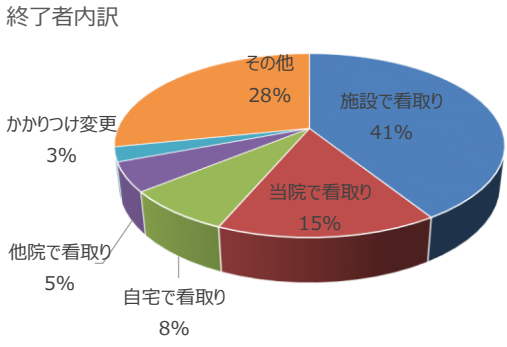
(ｉ).総評

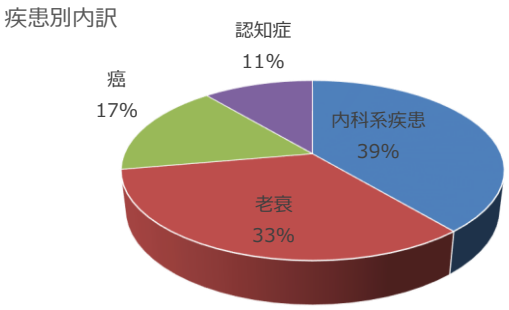
2022年度においては内科医延べ4人が訪問診療を行った。
実人数85人に対し月1－2回の訪問診療を実施。
健康維持や異常の早期発見に努め緊急時には往診や緊急搬送等で対応している。
18人の方が住み慣れた自宅や施設で看取ることができた。癌や心不全等の慢性期疾患末期状態などの訪問診療のニーズは増加している。
今後も訪問診療による地域医療への支援を継続して行っていく。

(ii).実績推移





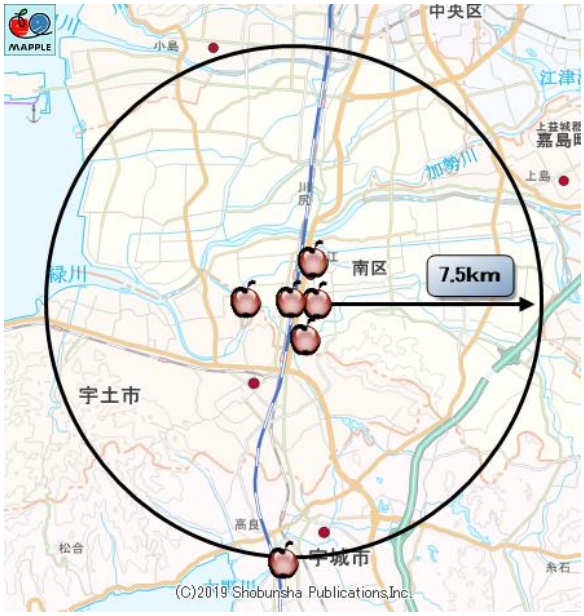




（ii-Ⅳ）在宅看取り症例の報告

	年齢	性別	死亡場所
1	91歳	女性	施設
2	94歳	女性	施設
3	76歳	女性	自宅
4	94歳	女性	施設
5	94歳	女性	施設
6	84歳	女性	施設
7	78歳	男性	施設
8	98歳	男性	施設
9	83歳	女性	施設
10	94歳	男性	自宅
11	97歳	女性	施設
12	97歳	男性	施設
13	94歳	女性	施設
14	91歳	男性	施設
15	102歳	女性	施設
16	92歳	男性	施設
17	94歳	女性	自宅
18	94歳	女性	施設

（ii-Ⅴ）在宅看取り地域分布



居宅介護支援事業所

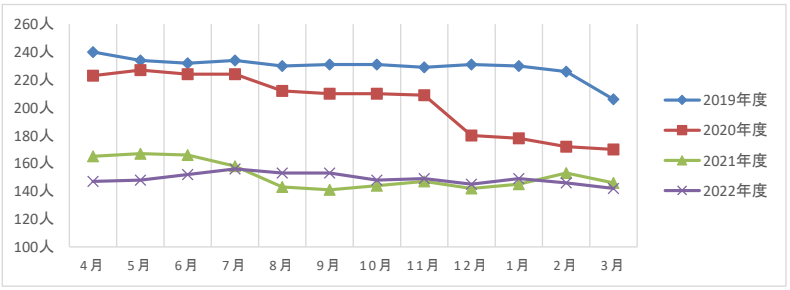
【職種別スタッフ数】ケアマネージャー　5名

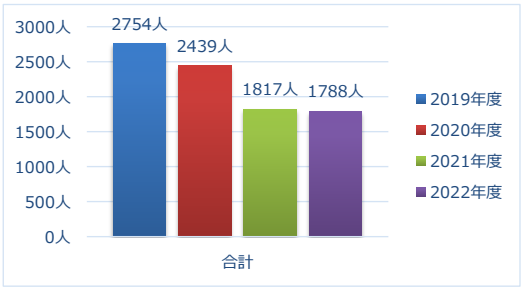
(ｉ).総評

2023年１月より６人体制から５人体制へと変わったが利用者全員を当事業所内で引き継ぎ、担当利用者総数に大幅な変動はない。
新規に関しては、院内 16件・院外 21件からの相談によるものであり、終了件数の内訳に関しては、施設入所 5件・逝去 15件・サービス終了 3件であった。担当件数を維持する事で精一杯な状況となり、終了者数の分でしか新規利用者の相談を受け入れられない時期が続いた事が要因として挙げられる。
コロナ禍の中で、コロナウィルスに感染された場合を想定して各利用者に関する緊急連絡先の再確認などを行う事ができた。今後も医療機関や介護サービス事業所、地域包括支援センターや地域の方等と連携を図りながら、利用者・家族が地域で安心して生活し続けられるよう丁寧な支援を心がけていく。

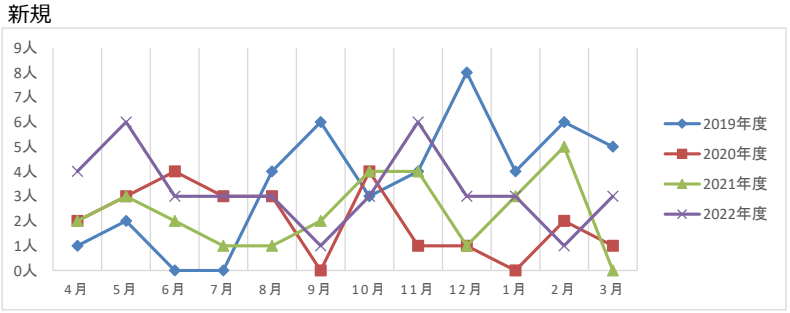
(ii).実績推移

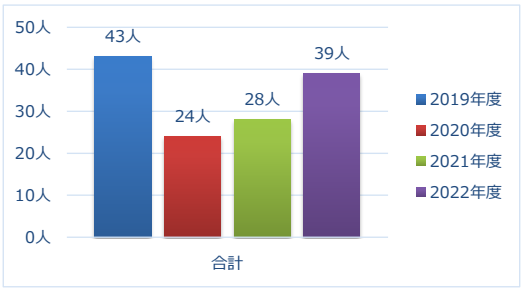
◆ 総利用者



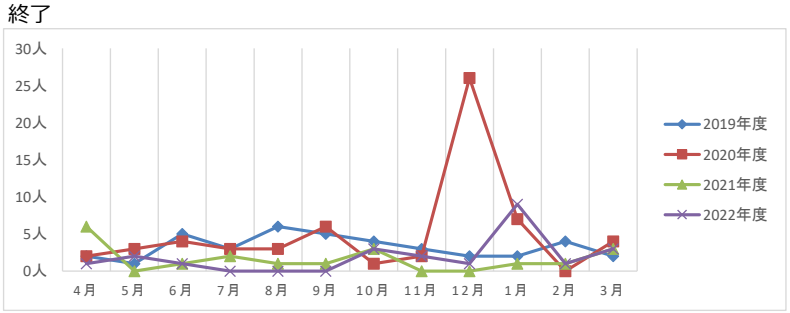


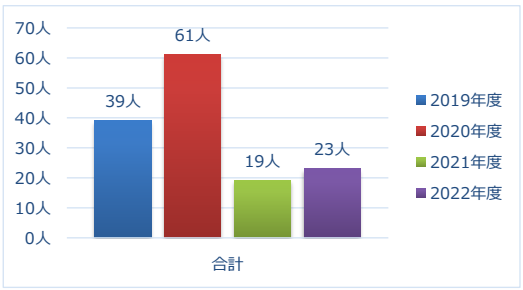
◆ 新規





◆ 終了





(iii).2022年度 実績

項目	単位	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	月平均	年度対比			
															2022年度	2021年度	2020年度	2019年度
総利用者	人	147	148	152	156	153	153	148	149	145	149	146	142	149.0	149.0	151.4	203.3	229.5
新規利用者	人	4	6	3	3	3	1	3	6	3	3	1	3	3.3	3.3	2.3	2.0	3.6
終了者	人	1	2	1	0	0	0	3	2	1	9	1	3	1.9	1.9	1.6	5.1	3.3

通所リハビリテーション　れんげ草

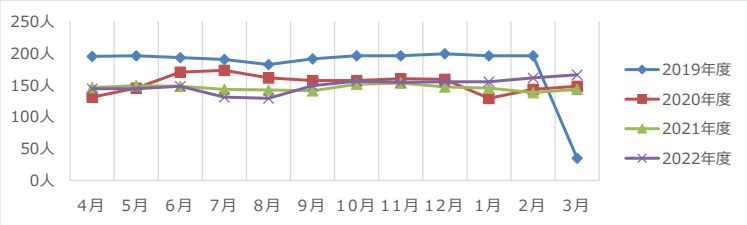
【職種別スタッフ数】　看護師　1名、准看護師　2名、理学療法士　3名、作業療法士　3名、介護福祉士　7名、CW　2名

(ⅰ).総評

2020年度、2021年度とCOVID-19による感染防止策により、新規利用者数の受入れを制限したこともあり登録者数は155名からスタートした。7月にはクラスターが発生したことで7日間休業となり、平均利用者数が22.5名と落ち込んだが、2022年度は院内連携を図り、新規利用者の受入れを積極的に行い、３月末時点で登録者数は178名まで回復し、平均利用者数も40名を超えるようになった。
次年度は、登録者数190名、平均利用者数48名を目指し、新規利用者獲得に向けて、近隣や日頃から紹介していただいている居宅に対してデイケアに求められるニーズ調査の実施、小集団活動の充実、セラピストや介護職による買い物・公共交通機関の利用や自宅での家事動作や入浴動作訓練の実施、Pハウス入居者との交流、移動図書の再開を展開していきたい。

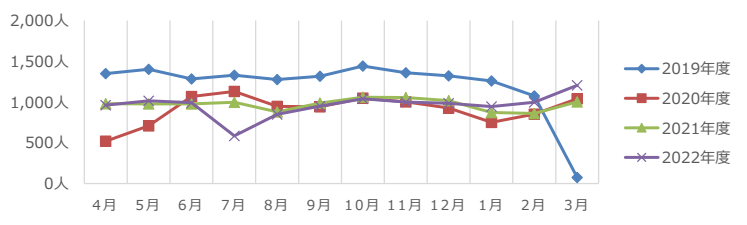
(ⅱ).実績推移

◆ 実契約者数



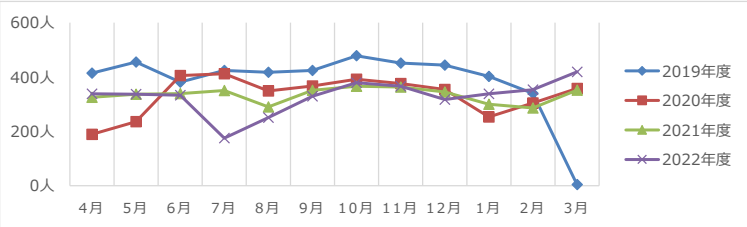


◆ 延べ利用者数



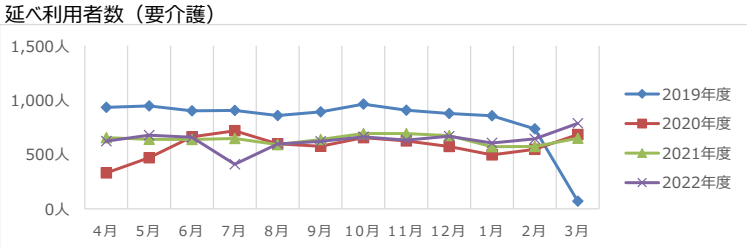


◆ 延べ利用者数（要支援）



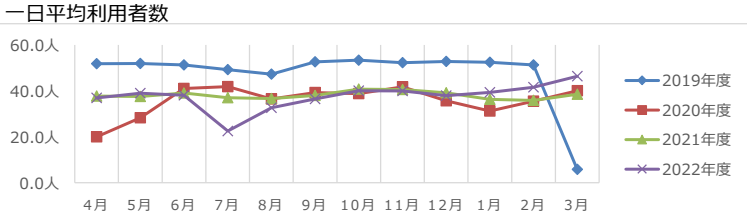


◆ 延べ利用者数（要介護）





◆ 一日平均利用者数





(ⅲ).2022年度 実績

項目	単位	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	月平均	年度対比			
															2022年度	2021年度	2020年度	2019年度
実契約者数	人	144	144	148	131	129	149	156	154	155	155	161	166	149.3	149.3	145.5	152.8	180.4
延べ利用者数	人	961	1,014	991	585	848	949	1,041	999	985	944	997	1,205	959.9	959.9	972.0	910.8	1,207.0
延べ利用者数（要支援）	人	338	337	333	175	251	329	379	366	317	338	353	419	327.9	327.9	333.7	332.9	386.2
延べ利用者数（要介護）	人	623	677	658	410	597	620	662	633	668	606	644	786	632.0	632.0	638.3	577.9	820.8
一日平均利用者数	人/日	37.0	39.0	38.1	22.5	32.6	36.5	40.0	40.0	37.9	39.3	41.5	46.3	37.6	37.6	38.1	35.8	47.7

訪問看護ステーション　きんもくせい

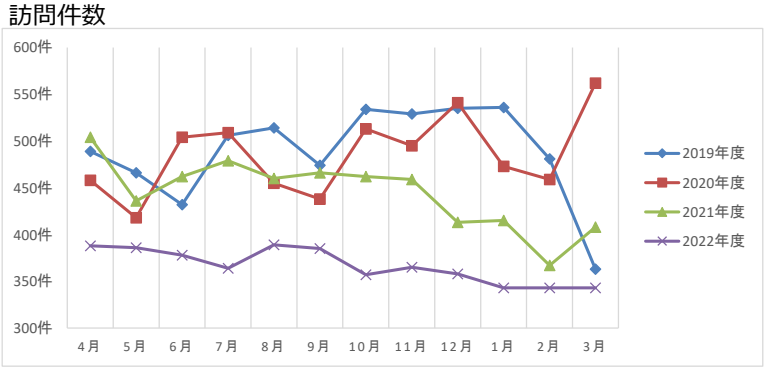
【職種別スタッフ数】　看護師　6名、理学療法士　3名、作業療法士　1名、言語聴覚士　1名

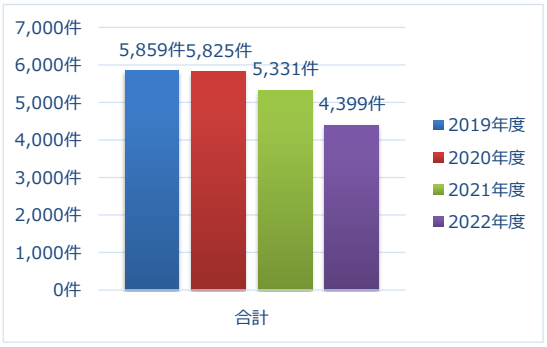
(i).総評

新型コロナウイルス感染症の影響で、訪問控え、施設の立ち入り制限、事業所の縮小稼働等により訪問件数は減少傾向だった。在宅看取り12件。連携先事業所約18ケ所と連携しており、多岐にわたる在宅医療の相談には、経験豊富な訪問看護師が対応している。
今後も利用者の気持ちを尊重し、その人らしい生活を送ることができるよう、24時間体制で支援していく。
また、看護師以外も各セラピストが揃っているので、多職種で連携して、利用者の生活背景に対して個別に関わっていきたい。コロナ禍で希薄となった顔の見える連携を行っていく。

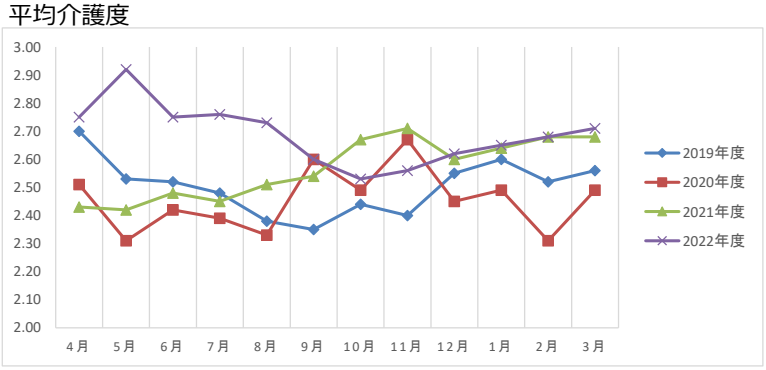
(ii).実績推移

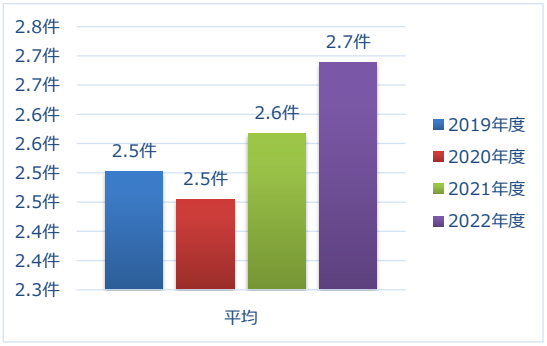
◆ 訪問件数



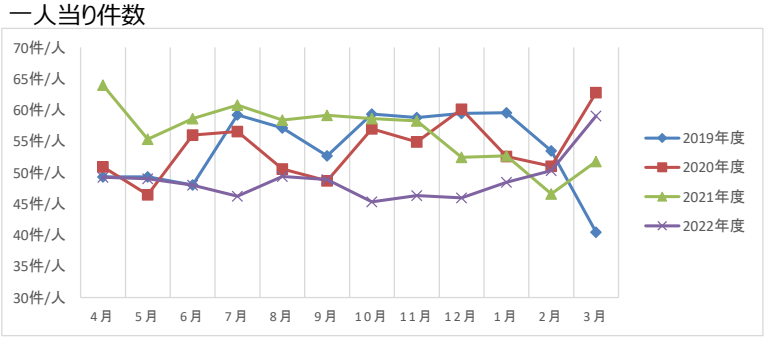


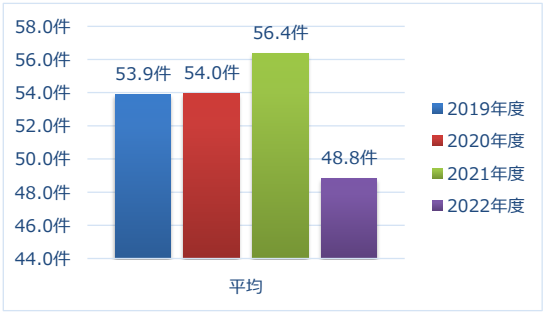
◆ 平均介護度





◆ 一人当り件数





(iii).2022年度 実績

項目	単位	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	月平均	年度対比			
															2022年度	2021年度	2020年度	2019年度
営業日数	日	25	23	26	25	25	24	25	24	25	23	23	23	24.3	24.3	24.5	24.3	24.3
訪問件数	件	388	386	378	364	389	385	357	365	358	343	343	343	366.6	366.6	444.3	485.4	488.3
平均介護度		2.75	2.92	2.75	2.76	2.73	2.60	2.53	2.56	2.62	2.65	2.68	2.71	2.69	2.69	2.57	2.46	2.50
一人当り件数	件/人	49.2	49.0	48.0	46.2	49.4	48.9	45.3	46.3	45.9	48.4	50.3	59.0	48.8	48.8	56.4	54.0	53.9

訪問リハビリテーション

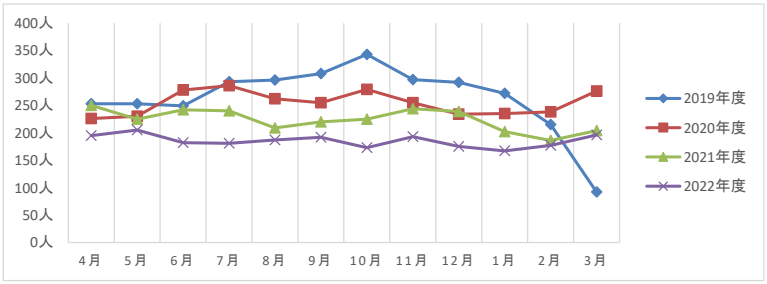
【職種別スタッフ数】 理学療法士　3名、作業療法士　2名、言語聴覚士　1名

(ｉ).総評

2022年度は理学療法士３名、作業療法士２名、言語聴覚士１名（兼務）で、当院を起点とし熊本市南区・宇土市・宇城市を主に14km圏内で訪問リハビリテーションを展開した。COVID-19流行によりサービス提供が一時中止になることもあり、目標件数の達成率は70%に止まっている。感染防止策を徹底した一年であり、セラピストを介して感染を拡大することなく、対応することができた。生活様式が変わる中で、利用者に応じた社会参加や活動の提案や取り組みができたと感じている。
充実した在宅サービス提供のために、退院支援からの関わりを積極的に行い、さらなるスムーズな連携強化に取り組んでいきたいと考えている。COVID-19による制限が徐々に緩和されていく中で、より活動的な、その人らしい暮らしが取り戻せることを目標にサービス提供に取り組んでいきたい。

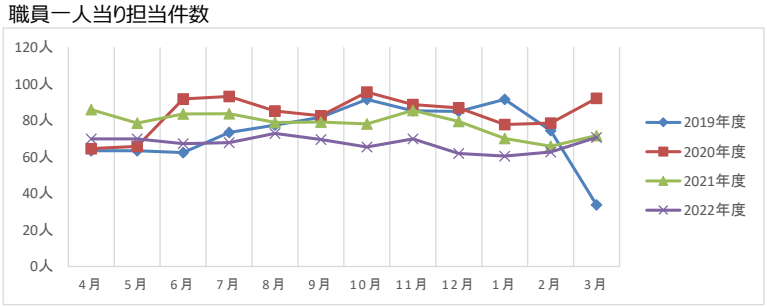
(ⅱ).実績推移

◆ 訪問件数





◆ 職員一人当り担当件数





(ⅲ).2022年度 実績

項目	単位	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	月平均	年度対比			
															2022年度	2021年度	2020年度	2019年度
訪問件数	件	195	205	182	181	187	192	173	193	175	167	177	196	185.3	185.3	223.8	254.5	263.6
職員一人当り担当件数	件/人	69.8	69.8	67.2	67.8	72.8	69.5	65.4	69.8	61.8	60.4	62.6	70.6	67.3	67.3	78.3	83.4	73.5

ホスピタウンハウス

サービス付き高齢者向け住宅（戸数：33戸）

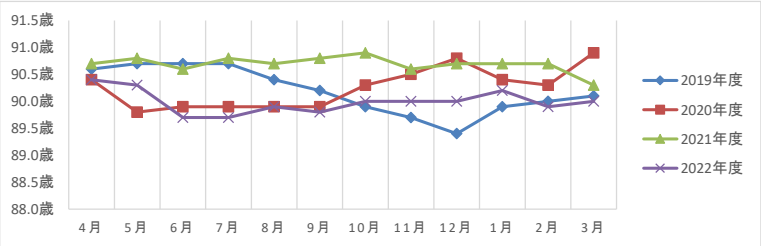
【職種別スタッフ数】 看護師　1名、准看護師　2名、介護福祉士　9名、CW 4名、ケアマネージャー　1名、介護サポーター　1名、理学療法士　1名

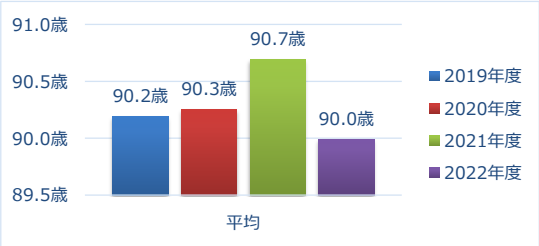
(ⅰ).総評

2014年１月に開設し9年目を迎えた。今年度は入居者の高齢化に伴いご逝去による退去が17名と多かった。その為、12月以降の入居率が低めで推移している状況である。
ショートステイの利用は少ないが、今後はショートステイ利用で施設での生活を体験していただいた上で、安心して入居に繋がるよう取り組んでいきたいと考えている。
ホスピタウンハウス入居後は、安心して、楽しく、そして穏やかに過ごせる場所となるように、私たちは『ひとりひとりにあった個別ケアを行い、入居者が安心し生きがいを持って生活できる施設を目指します』をコンセプトとし、その先には『笑顔の絶えない終の棲家』となるようご本人、ご家族にホスピタウンハウスで過ごせて良かった。と言っていただけるような施設になるよう取り組んでいく。

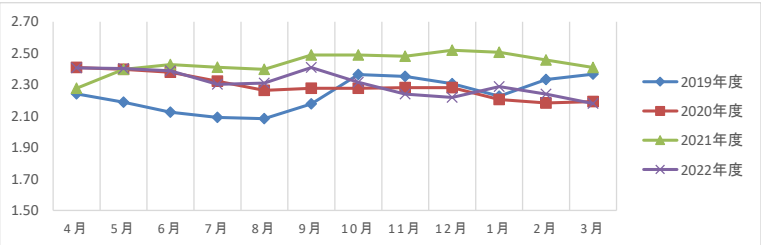
(ⅱ).実績推移

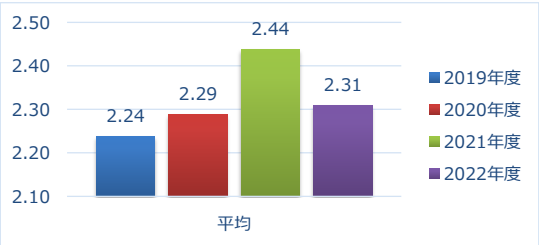
◆ 平均年齢



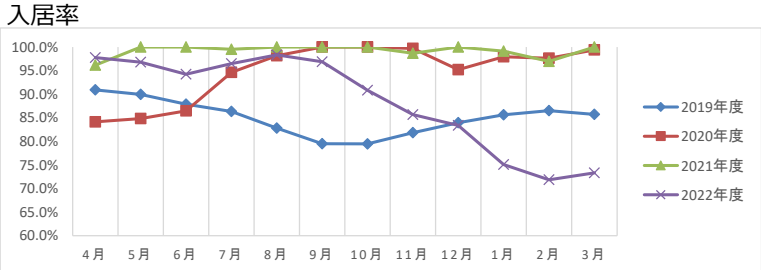


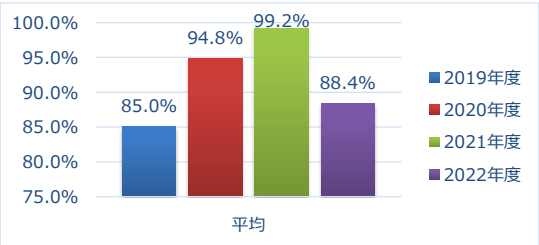
◆ 平均要介護度





◆ 入居率





(ⅲ)2022年度 実績

項目	単位	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	月平均	年度対比			
															2022年度	2021年度	2020年度	2019年度
月平均入居者数	人/日	32.3	31.9	31.1	31.8	32.5	32.0	30.0	28.3	27.5	24.8	23.7	24.2	29.2	29.2	32.7	31.3	28.1
平均年齢	歳	90.4	90.3	89.7	89.7	89.9	89.8	90.0	90.0	90.0	90.2	89.9	90.0	90.0	90.0	90.7	90.3	90.2
新入居者数	人	1	0	2	2	0	1	0	0	1	0	1	1	0.8	0.8	0.7	0.9	0.6
退去者数	人	2	1	2	1	0	3	1	1	1	4	1	1	1.5	1.5	0.5	0.7	0.8
看取り	件	1	1	2	1	0	2	1	0	1	1	0	1	0.9	0.9	0.3	0.2	0.7
平均要介護度		2.41	2.40	2.39	2.30	2.31	2.41	2.31	2.24	2.22	2.29	2.24	2.18	2.31	2.31	2.44	2.29	2.24
入居率	%	98%	97%	94%	96%	98%	97%	91%	86%	83%	75%	72%	73%	88.4%	88.4%	99.2%	94.8%	85.0%

地域包括ケア推進室

（2022年度熊本県委託事業）

【職種別スタッフ数】　作業療法士　1名、臨床検査技師　1名、管理栄養士　1名

(ⅰ).総評

コロナ禍となり、地域住民のフレイル問題が徐々に顕在化してきており、熊本市より受託している「短期集中予防サービス」の利用希望者が増加している。2022年度の実績は、運動：16名・延166回、口腔：9名・延25回、栄養：3名・延5回であり、前年度の約1.6倍となっており、新規利用の問い合わせも継続的に頂いている状況である。
その他、管理栄養士による自立支援型地域ケア会議の助言者や公民館講座等での講師、臨床検査技師による在宅・施設での検体採取等の実績も増加しており、活動の認知度も向上してきている。
今後も地域のために貢献できる部署として、社会情勢や各種制度の動向を踏まえ、質・量ともに向上していけるよう研鑽を積みながら、活動内容を充実させていきたい。

(ⅱ).活動状況

1．介護予防事業所等のサービスの質の向上への支援

（1）研修会開催状況

開催日	研修会名称	概要（テーマ、講師、参加者、参加人員）
令和4年10月19日	南区オンライン通いの場交流会	テーマ：ホスト会場と地域の会場3カ所をオンラインでつなぎオンラインでつながることを体験する 参加者：くまもと元気くらぶ、通所B、いきいき百歳体操実施団体　参加者　3会場29名地域密着リハセンター5か所も参加
令和4年11月28日	くまもと元気くらぶ講習会	テーマ：熊本市がくまもと元気くらぶで実施を推奨する「いきいき百歳体操」以外の体操の紹介 ・「よかばい体操」について　⇒　青磁野リハビリテーション病院より ・「くまもと笑顔でよかよか体操」について　⇒　にしくまもと病院より 参加者：くまもと元気くらぶ・通所B団体・地域の通いの場代表　20団体27名、地域密着リハセンター　2か所3名、地域包括支援センター　3か所4名、市高齢福祉課　1名　　計34名

（2）相談対応

電話・メール・Web　7　件
来所　1　件
出張　5　件

【職種別スタッフ数】

職種	人数	職種	人数
医師	1	理学療法士	12
作業療法士	5	言語聴覚士	2
管理栄養士	1	臨床検査技師	1

（3）関係団体・機関等との連絡会議（　2　回）

開催時期		主なテーマ
1回	9月22日	「熊本地域リハビリテーション広域支援センター連絡会（オンライン開催）」 参加者：地域密着リハセンター6か所　12名 ・報告事項 ① 通いの場における介護予防活動促進事業（運動器機能評価）実施要項の改正について ② 運動器機能評価システム説明会について ③ 熊本県・熊本市の動向について ・検討事項 ① 南区オンライン通いの場交流会の開催・協力依頼について ② くまもと元気くらぶフォローアップ研修（仮）について
2回	3月16日	「熊本地域リハビリテーション広域支援センター連絡会（書面開催）」 対象者：南区地域密着リハセンター 内容： ① 地域密着リハビリテーションセンター　令和４年度実績報告及び令和５年度事業計画の提出について ② 熊本県地域リハ支援センター研修会について ③ 地域リハ広域支援センター　令和４年度実績報告

（4）リハビリテーション専門職の派遣調整（　154　回）

① 広域支援センター職員派遣	114回、延べ151人
② 地域密着リハビリテーションセンター職員派遣	31回、延べ63人
③ その他の機関の派遣調整	0回、延べ0人

（５）災害時のリハビリテーション活動への協力
＊実績なし

２．市町村の地域支援事業等への効果的な支援
（１）個人宅への派遣
＊実績なし

（２）事業所への派遣
＊実績なし

（３）通いの場（サロン等を含む）への派遣

依頼元	派遣回数	実施内容	備考
熊本南1地域包括支援センター	4	体力測定・結果フィードバック、体操指導　等	脳の健康教室（通所B）
熊本南1地域包括支援センター	1	サロン立上げ支援	富合町砥江
熊本南6地域包括支援センター	1	豊田校区サロン令和4年度振り返り・次年度計画打ち合わせ	
城南老人福祉センター	12	イキイキ健康教室での体操指導、講話　等	
熊本県	2	体力測定・結果フィードバック	通いの場における介護予防活動促進事業
熊本市	1	体力測定・結果フィードバック、体操指導　等	くまもと元気くらぶ
南区役所福祉課	2	くまもと元気くらぶ便りコラム執筆	

（４）地域ケア会議等への派遣

依頼元	派遣回数	実施内容	備考
熊本市南区	28	自立支援型地域ケア会議助言者	PT延べ12人 OT延べ21人 管理栄養士延べ11人

（５）その他

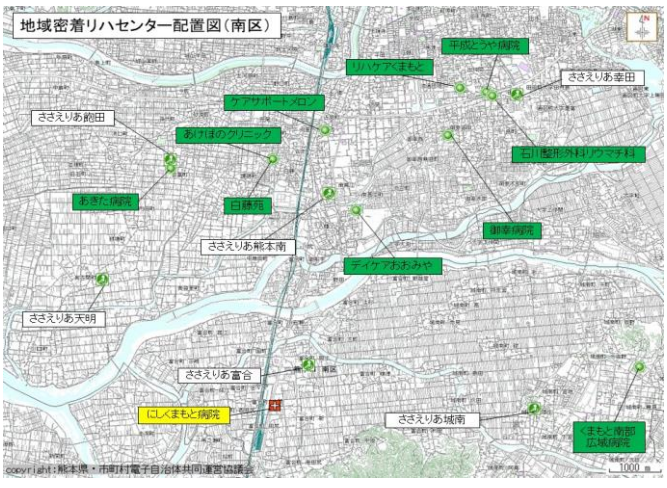
依頼元	派遣回数	実施内容	備考
熊本市南区福祉課	10	南区地域包括ケアシステム推進会議実務者会議	介護予防関連なし 医療介護連携関連10回
熊本市南区	1	自立支援型地域ケア会議アドバイザー意見交換会	
熊本市南区地域包括支援センター	3	南区生活支援コーディネーター連絡会	すべて集合形式
熊本南1地域包括支援センター	4	地域運営協議会・協議体	すべて集合形式
熊本南1地域包括支援センター	12	多職種連携ネットワーク会議	1回は書面開催 11回はオンライン開催
熊本南1地域包括支援センター	11	富合まちの輪ネット	すべてオンライン開催
熊本南1地域包括支援センター	1	益城西地域包括支援センター 通いの場視察	
熊本南1地域包括支援センター	2	富合小学校４年生総合学習支援	
熊本南1地域包括支援センター	1	「LINEの使い方講座」運営動員	
熊本南2地域包括支援センター	1	運営協議会専門部会	オンライン開催
熊本南3地域包括支援センター	1	専門職協議体	オンライン開催
熊本市内地域リハ広域支援センター	3	熊本市内地域リハ広域支援センター連携会議	すべてオンライン開催

○地域密着リハビリテーションセンター
・熊本市南区の指定状況

開設者	施設名
医療法人城南ヘルスケアグループ	くまもと南部広域病院
医療法人博光会	御幸病院
医療法人むすびの森	あきた病院
医療法人社団松下会	介護老人保健施設　白藤苑
医療法人社団大宮会	デイケアおおみや
株式会社シンパクト	ケアサポートメロン
医療法人社団松下会	あけぼのクリニック
医療法人清和会	平成とうや病院
石川　浩一郎	石川整形外科リウマチ科
有限会社トータルライフケア	リハケアくまもと

＊熊本県認知症対策・地域ケア推進課ホームページより

（2023年4月1日現在）



健診センター

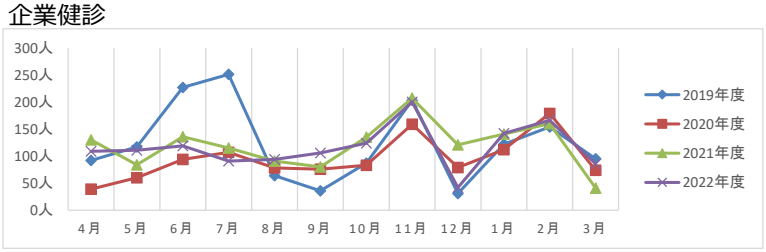
【職種別スタッフ数】 看護師　3名、保健師　2名、臨床検査技師　1名、事務　2名

(ｉ).総評

2022年４月、本館1Fより臨床薬理センター側へ移設し、スタッフも保健師・臨床検査技師が新たに加わり、医師１名・スタッフ８名、計９名体制で、装いも新たにリニューアルオープンとなった。
実績においては、過去２年コロナ禍の影響で受診者数が減少していたが2022年度は受診者数、収入ともに増加となり予算を達成した。要因として需要の高い胃カメラ枠の拡充等の健診コースの見直しを行ったこと、南区、宇城・宇土地区からの新規企業の受け入れ、インフルエンザ外部接種の実施、コロナ以前の利用者が戻ってきたことなどが挙げられる。
駐車場や内視鏡室への動線の長さなど課題も残るが、満足度調査では受診者からの高い評価を頂いている。次年度も疾病の早期発見や生活習慣の振り返りの手助けができる様、信頼される健診センターを目指していきたい。

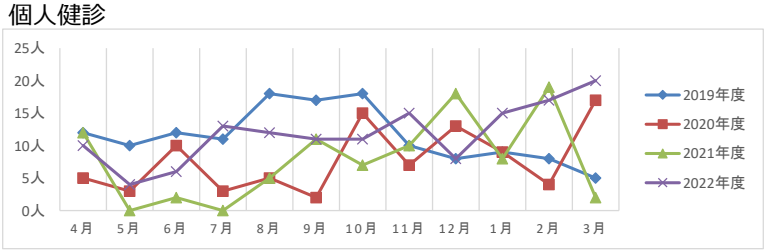
(ii).実績推移

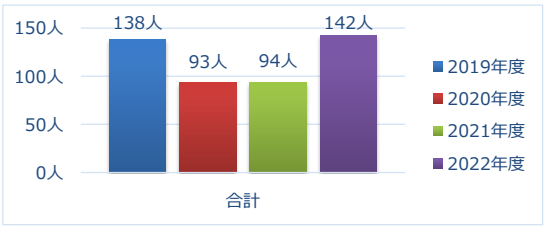
◆ 企業健診



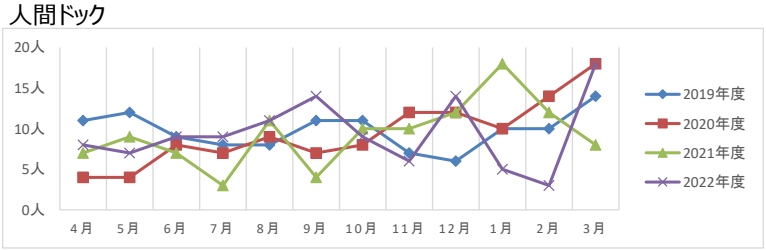


◆ 個人健診



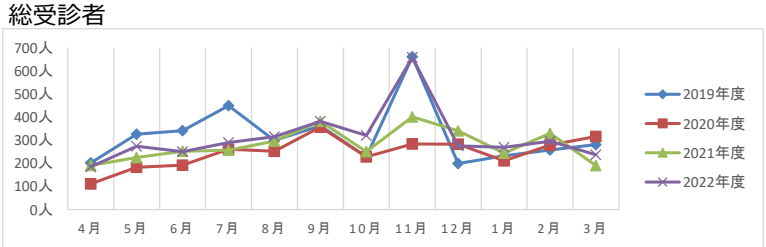


◆ 人間ドック





◆ 総受診者





(iii).2022年度 実績

項目	単位	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	月平均	年度対比			
															2022年度	2021年度	2020年度	2019年度
企業健診	人	109	111	119	91	94	106	124	200	42	142	166	86	115.8	115.8	120.1	95.0	123.3
個人健診	人	10	4	6	13	12	11	11	15	8	15	17	20	11.8	11.8	7.8	7.8	11.5
人間ドック	人	8	7	9	9	11	14	9	6	14	5	3	18	9.4	9.4	9.3	9.4	9.8
総受診者	人	185	274	250	290	315	382	321	658	276	269	295	237	312.7	312.7	279.8	246.4	319.9

臨床薬理センター

【職種別スタッフ数】　看護師 8名、治験補助 2名、薬剤師 2名、臨床検査技師 7名、事務 16名

(i).総評

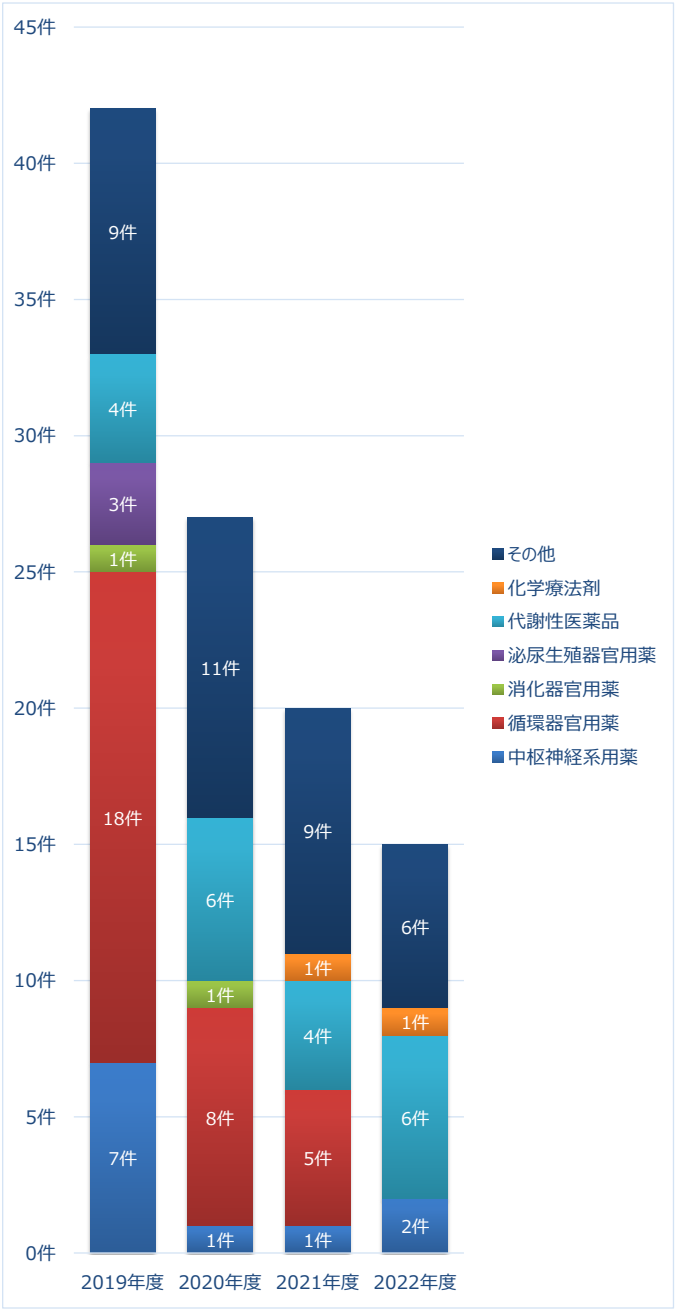
2021年、2022年は新型コロナウイルスの感染拡大に伴い、世界的にSARS-CoV-2(新型コロナウイルス)ワクチンの早期開発が推進されたことから、2年間を通して複数の製薬会社から新型コロナワクチン試験の依頼を受諾した。

新型コロナワクチンは、急激な感染拡大を抑えるべく、特例措置として従来行われる承認までの手続きを簡略化し、スピード感をもって治験が行われ、当院でも被験者募集やスタッフの稼働を増やして取り組んだ。かつて経験したことのないパンデミック終息のために、治験という形で貢献出来たことは良い経験となった。また、今まで行ってきた健常成人対象や患者対象の試験に加えて、タバコ使用者への観察研究などの実施を始めており、治験のみならず臨床研究まで幅広い受託を目指していきたいと考えている。

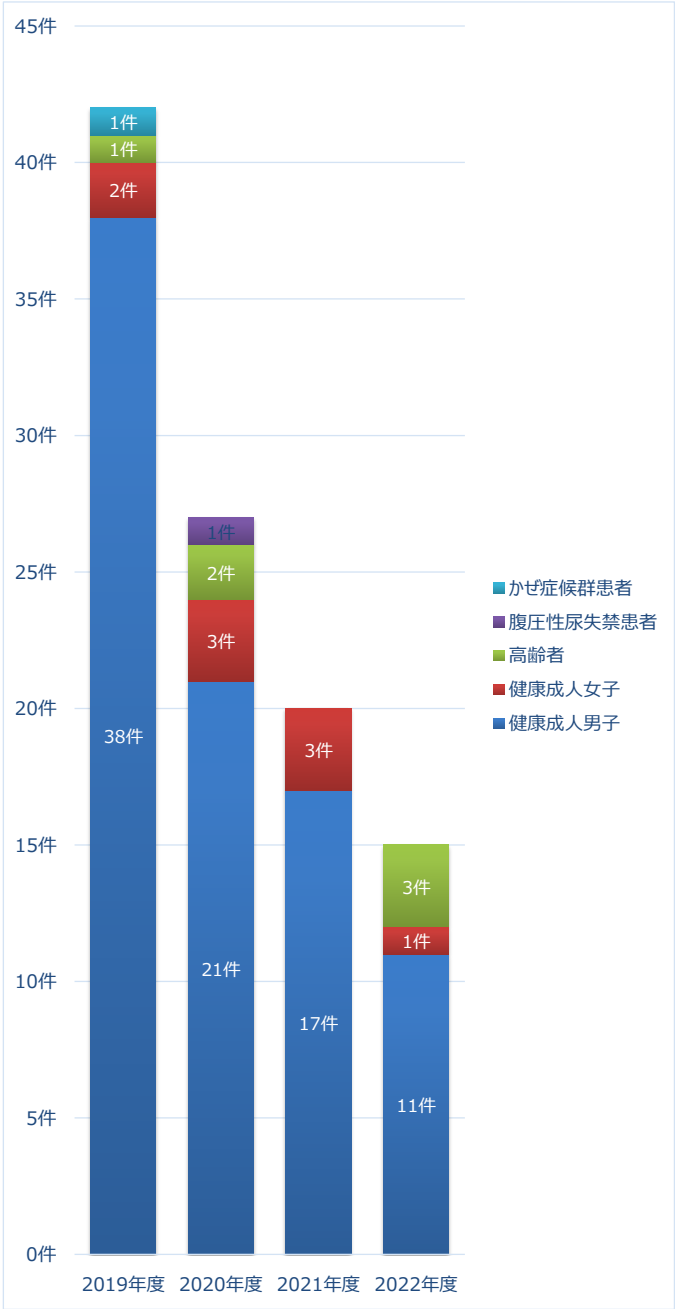
(ii).実績推移

項目	単位	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度
実施試験数	件	42	27	20	15
新規登録数	件	659	666	693	795
健康診断実施数	件	1,476	1,257	1,037	1,143

(iii).年間試験数（薬効別）



(iv).年間試験数（対象者別）



事務部

【職種別スタッフ数】　事務部長：山川　倫旦

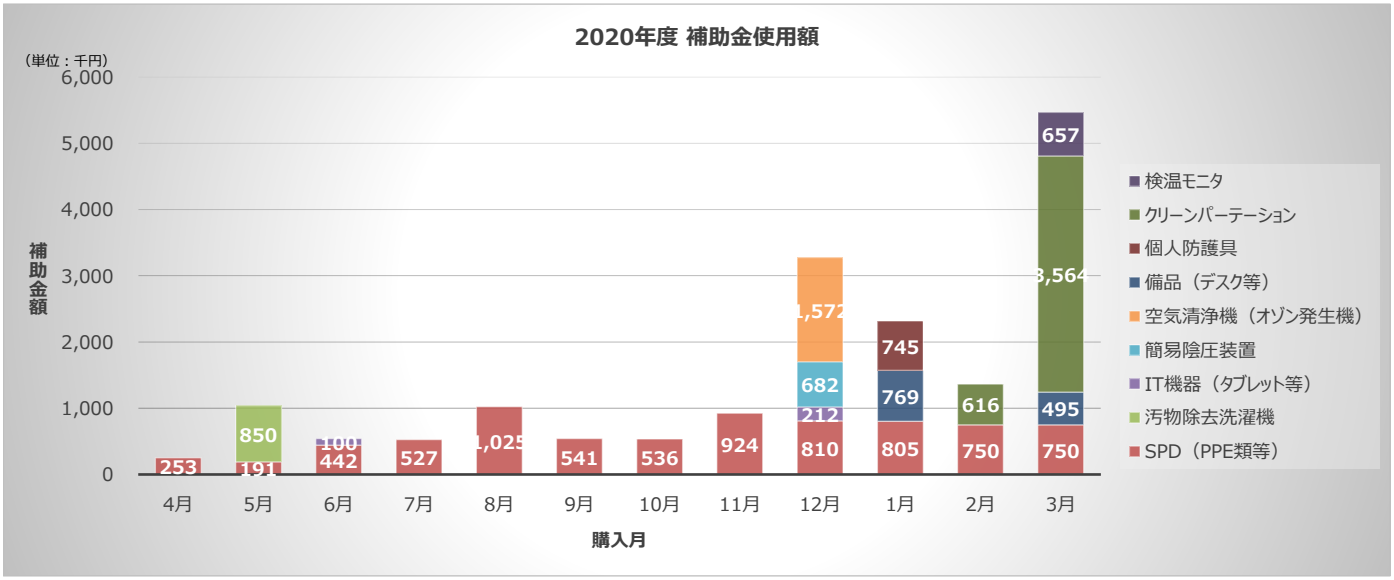
診療サポート課：7名　診療システム課：3名　医療情報室：5名　経理課：4名　総務課：14名

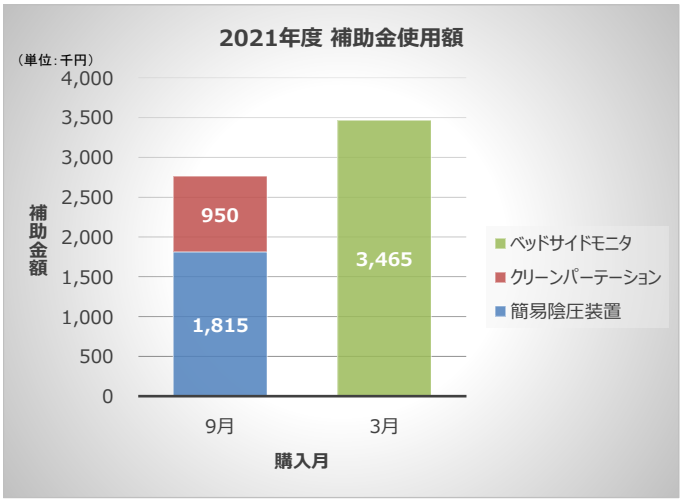
法務対策室：1名　医事課：15名

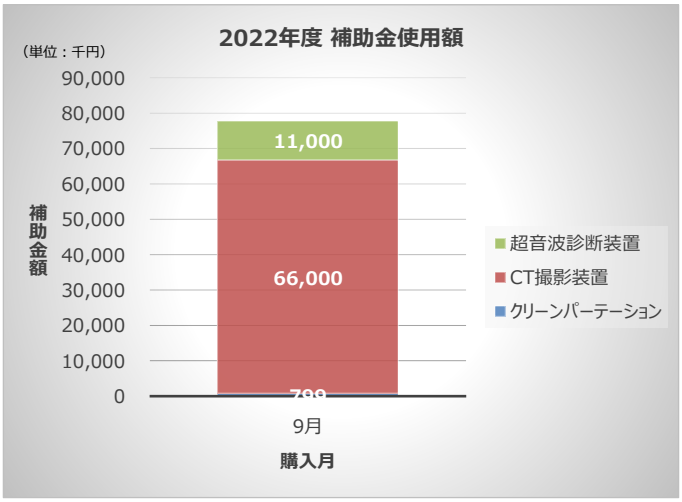
(i).総評

2022年度は新型コロナウイルスへの対応を重点に取り組んできた。
主に重点医療機関として陽性患者の受入れに関し、看護師負担軽減のために搬送支援や発熱患者の看護補助や外来患者の検温、施設内・設備の消毒、
保健所・施設基準などの行政対応など　社会貢献できる活動を中心に尽力した。
この新型コロナウイルスの対応で、内外部の連携の重要性や日々の事務の取り組むべき内容や改善すべき内容が浮き彫りとなった。今後、業務改善の足掛かりとなったことで
重複業務の見直しや業務内容の「スリム化」、「見える化」が行えたことで各部署の業務を「見える化」へと進み始めている。
事務部各部署でのスペシャリストや病院全体を見るジェネラリストの育成を考え取り組んでいく。

(ii).新型コロナに関わる補助金用途実績







(iii).新型コロナウイルス感染症患者等入院病床確保事業費補助金に伴う処遇改善手当の支給実績

支給時期	支給対象期間	対象人数	支給額
2022年5月	2022年1月1日~3月31日	359名	¥11,205,000
2022年9月	2022年4月1日~6月30日	359名	¥10,334,900
2022年12月	2022年7月1日~9月30日	367名	¥12,276,000
		総支給額：	¥33,815,900

COVID-19に関わる実績数値

(ⅰ).総評

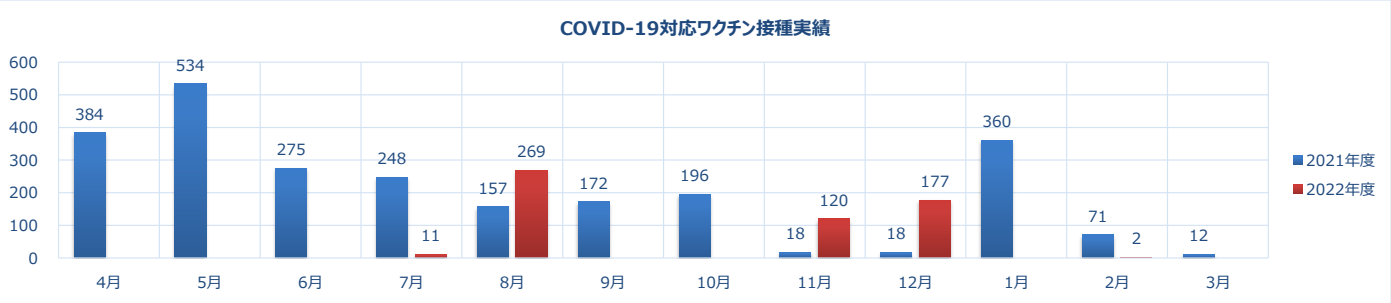
2019年に新型コロナ感染症が発生して3年目となるが、2022年8月に2つの病棟でのクラスターを初めて経験し、臨時の委員会で対策を立て、各部署の連携・協力の下、約2週間で収束することができた。その後クラスター発生時のマニュアルを作成し、2022年12月、2023年1月にもクラスターが発生したが、前回の経験とマニュアルを活かして各部署が連携し積極的に取り組んだことで、最小限に抑えることができたと思われる。

2021年1月より新型コロナ感染症重点医療機関として、新型コロナ病床を6階病棟に4床設置。各病室へ陰圧装置を設置し、他の病床と隔離するため、廊下にパーテーションを設置。その他汚物除去洗濯機を病棟に設置する等必要な機材や機器を補充しながら、これまで軽症者70名、中等症Ⅰ30名、中等症Ⅱ6名、計106名受け入れた。ほとんどの方が自宅へ退院されたが、継続治療のため他病棟への転棟者が22名、急性期病院への転院者が6名、ホテル療養に移られた方が5名であった。

外来では発熱外来を設置し、行政から依頼の発熱患者や自宅療養者の診察受け入れ、一般の方の発熱者、職員の発熱患者を受け入れ、対応してきた。5月から新型コロナ感染症は感染症法上5類となるが、感染予防対策は継続していく必要性があるため、啓蒙活動を継続して行っていく。

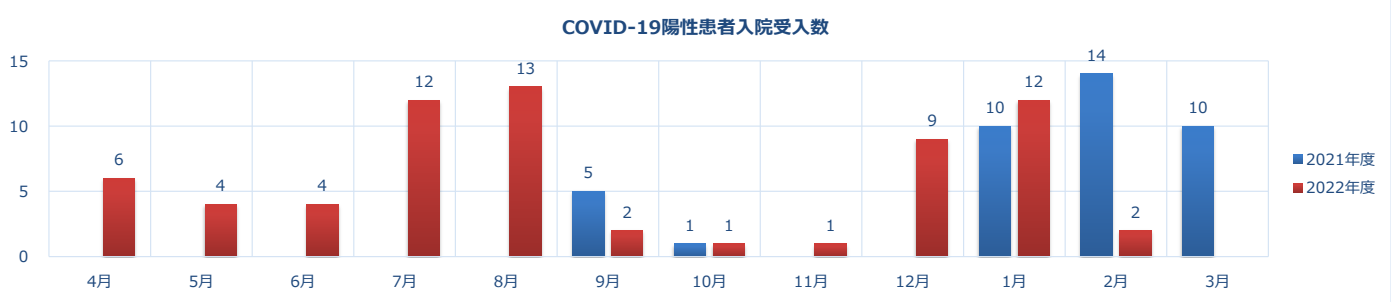
(ⅱ).COVID-19対応ワクチン接種実績

年度	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	総計
2021年度	384	534	275	248	157	172	196	18	18	360	71	12	2,445
2022年度	0	0	0	11	269	0	0	120	0	0	2	0	579



(ⅲ).COVID-19陽性患者入院受入数

年度	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	総計
2021年度	0	0	0	0	0	5	1	0	0	10	14	10	40
2022年度	6	4	4	12	13	2	1	1	9	12	2	0	66



(ⅳ).PCR/抗原検査実施数

◆2022年度実績　　＊臨床検査課実績より抜粋

項目		単位	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	年度対比		
															2022年度	2021年度	2020年度
PCR検査	治験(院内)	件	9	16	4	18	26	25	16	9	8	6	12	11	160	291	88
	臨床(院内)	件	97	111	95	157	176	82	149	142	433	332	123	102	1,999	1,045	153
	外注	件	35	30	40	103	35	21	26	23	46	54	28	14	455	281	67
	総件数	件	141	157	139	278	237	128	191	174	487	392	163	127	2,614	1,617	308
	うち陽性	件	10	18	19	36	43	5	2	5	36	29	2	0	205	52	6
抗原検査	総件数	件	37	28	28	88	108	51	40	53	106	103	73	41	756	97	29
	うち陽性	件	0	1	1	32	55	15	6	15	17	22	6	2	172	0	0

委員会実績報告

医療安全管理委員会 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 45
院内感染予防対策委員会 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 46
研修委員会 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 47
CS・ES委員会 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 48

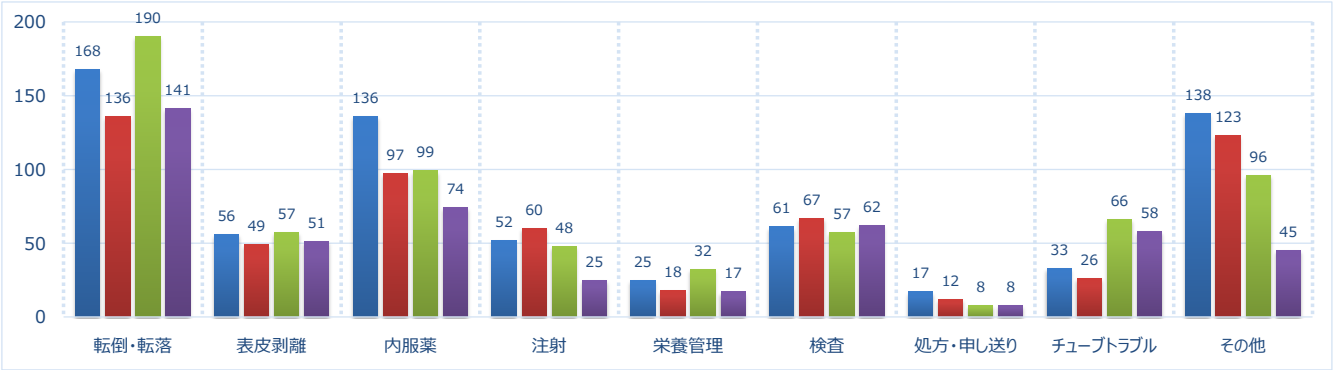
医療安全管理委員会

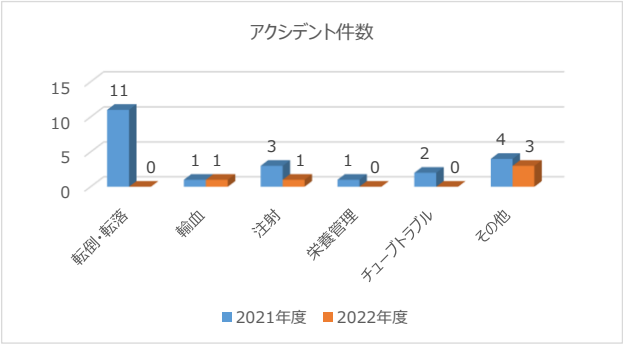
(ⅰ).総評

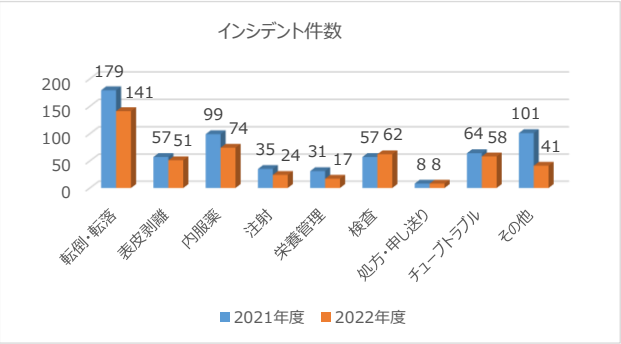
医療安全管理委員会は、その下部組織として各部署に医療安全担当者を配置しており、月1回の会議を行っている。
医療安全に関する組織風土の確立・質の向上を図るため、全職員に対する研修を定期的・継続的に行うとともに新規・中途入職者に対する研修会も計画的に行っている。
2022年度は管理責任者を含む担当者の変更や世の中の情勢の変化などがあり、医療安全における規約・指針・マニュアルの見直しを積極的に行った1年間になった。
インシデント・アクシデント報告に関しては、薬剤関連の事故報告（特に血糖測定やインスリンに関する内容）が昨年度より多く報告されており、早急な対策検討が必要な状況である。
転倒・転落の報告件数は、141件で昨年度より49件減少している。これは、スタッフが患者・家族への説明や予防に努めていただいた結果が現れている。
今後も『安全で質の高い医療の提供』を目指して、職員一丸となって取り組んでいきたい。

(ⅱ).2022年度　統計

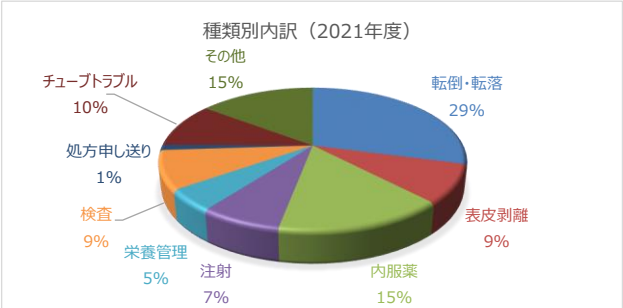
◆ 種類別発生件数

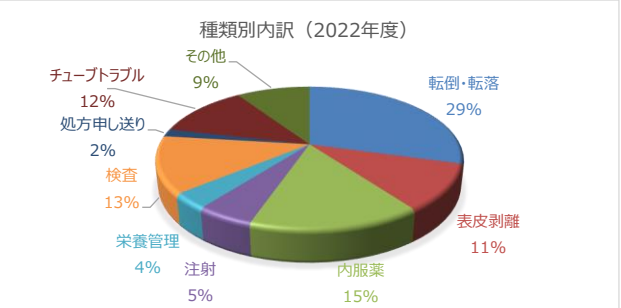






◆ 種類別内訳





院内感染予防対策委員会

(i).総評

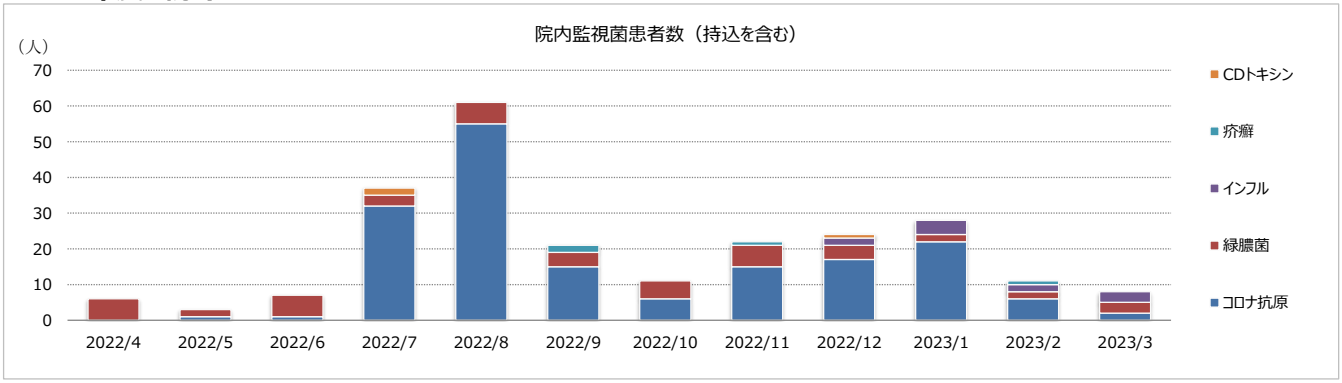
手指消毒剤使用量は、新型コロナ感染症が発生する前と比較すると増加傾向であるが、職員の意識としては、昨年より手指消毒剤を携帯する方が増加していると思われる。

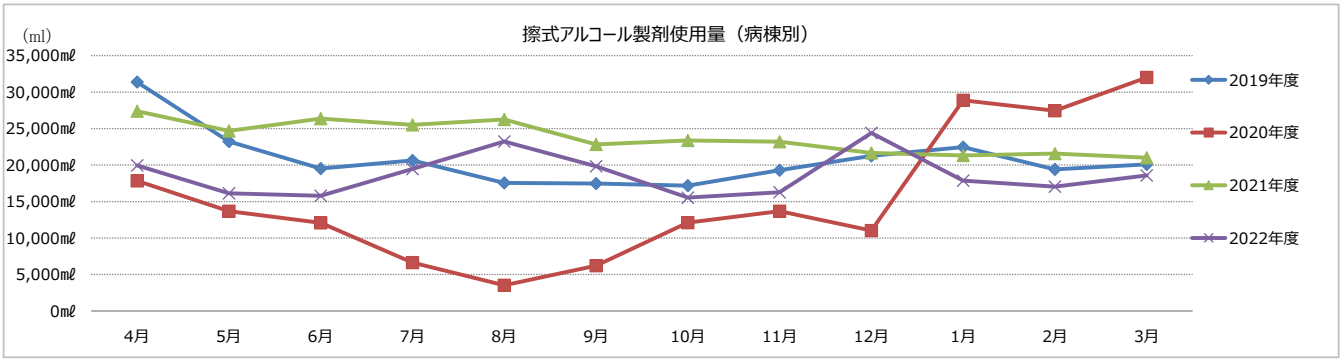
PCR検査は熊本県内の感染数推移同様に検査数も推移し、8月のクラスター時では臨時検査を324件、12月299件、1月222件のPCRを院内にて検査を実施した。

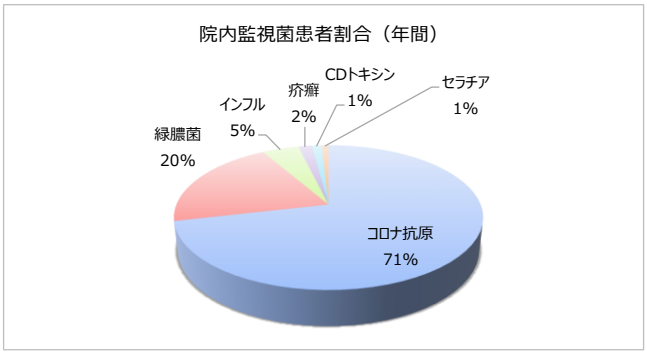
院内監視菌では著名な増加の菌は認めなかったが同一患者からの複数の耐性菌の検出が数名認められた。また、持ち込みでの疥癬の検出もあり個室での感染予防対策を行いながらの処置及び検査が行われた。

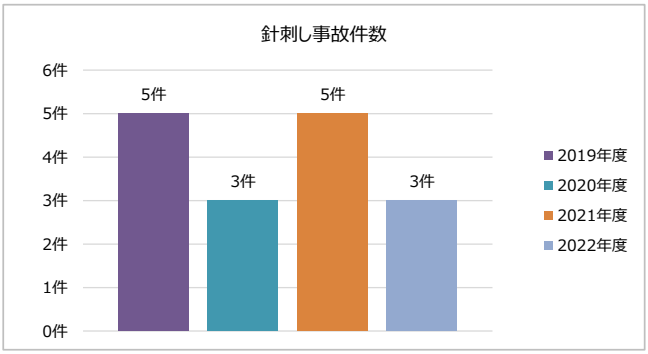
抗菌薬使用量は、昨年度と比較して10%程度増加した。医師の増員や肺炎での使用量増加などが要因として考えられる。抗菌薬使用量の増加に伴い、これまで以上に医師や看護師、検査室との連携を図りながら適正使用に努めていく。

(ii).2022年度　統計

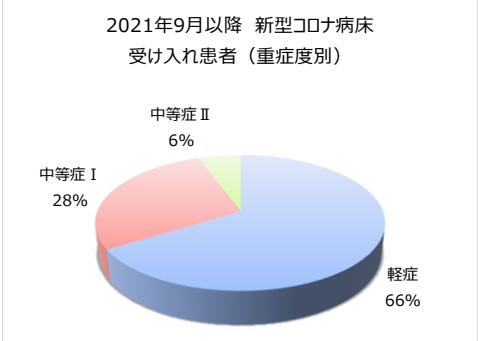












研修委員会

(ⅰ).総評

2022年度における研修員会の活動は、コロナ禍による感染対策からWEBによる研修が主であった。
新人研修は、4月にオリエンテーションを実施。対象者16名参加。11月と3月にフォロー研修を実施した。中途入職者研修は、毎月1回実施し11月から主催を総務に引き継いだ。
中間管理職者研修は、ハラスメント研修を実施した。院内研究・改善活動発表会は、2月に実施し6名が発表。コロナ禍でも各部署で行われている業務改活動を発表した。
全体研修は全職員を対象とした研修を、各委員会を通じて其々のテーマで総数14回行った。参加率は平均91.6%であった。研修会の実施に関しては当初予定より遅れる等調整が難しい所もあったが、概ね予定通り実施することができた。
今後はe-ラーニングの活用と中間管理職研修にてキャリアアップを支援する研修を整えていければと考えている。また、コロナ感染対策の状況をみながら、対面形式による研修も行っていく

(ⅱ).活動状況

研修名				4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
時間内	中間管理職シリーズ	(目標) 組織的動機づけと個々のキャリア目標の融合による自施設のあるべき管理職の育成ができる	テーマ								ﾊﾗｽﾒﾝﾄ研修				
			講師								相談員対象				
	新入職者教育	新人研修	テーマ	新入職員ｵﾘｴﾝﾃｰｼｮﾝ							8ヶ月後ﾌｫﾛｰ研修				12ヶ月後ﾌｫﾛｰ研修
			日付	4/1							11/19				
			参加率	16名(100%)							8名				
		中途採用者研修 第２月曜 (9:00～12:30)	テーマ		中途入職者ｵﾘｴﾝﾃｰｼｮﾝ	中途入職者ｵﾘｴﾝﾃｰｼｮﾝ	中途入職者ｵﾘｴﾝﾃｰｼｮﾝ	中途入職者ｵﾘｴﾝﾃｰｼｮﾝ	中途入職者ｵﾘｴﾝﾃｰｼｮﾝ	中途入職者ｵﾘｴﾝﾃｰｼｮﾝ	中途入職者ｵﾘｴﾝﾃｰｼｮﾝ	中途入職者ｵﾘｴﾝﾃｰｼｮﾝ	中途入職者ｵﾘｴﾝﾃｰｼｮﾝ	中途入職者ｵﾘｴﾝﾃｰｼｮﾝ	中途入職者ｵﾘｴﾝﾃｰｼｮﾝ
			日付		5/9	6/7	7/4	8/1	9/5		総務主催	総務主催	総務主催	総務主催	総務主催
			参加率		1名(100%)	2名(100%)	2名(50.0%)	5名(62.5%)	4名(100%)	対象者なし	4名				
	ランチョンセミナー	ランチョンセミナー発表掲示	テーマ	開催未定					発表・伝達掲示	発表・伝達掲示	発表・伝達掲示	発表・伝達掲示	発表・伝達掲示	災害対応研修	伝達研修
時間内・時間外	院内研究	(目標) ケアの質を向上させるために必要な研究的視点を養う	テーマ											院内研究発表会 Or 業務改善報告会	院内研究発表会 Or 業務改善報告会
	学会発表	(目標) ・研究で得られた知識理論を医療の実践に活かし、医療の質を高める ・他施設の研究発表を聞く事で、当院のケアの質を向上させる	学会名			第27回日本緩和医療学会学術大会 (宮内真奈美)			ﾘﾊﾋﾞﾘﾃｰｼｮﾝｹｱ合同研究大会 (吉島航史)	第20回日本神経理学療法学会学術大会 (新名祐介) 第27回日本基礎理学療法学術大会 (岡本　彬)	第25回熊本県理学療法士学会 (岡本　彬)		ｸﾘﾆｶﾙﾊﾟｽ学会	慢性期ﾘﾊﾋﾞﾘﾃｰｼｮﾝ学会 日本臨床栄養代謝学会 日本人工関節学会	
時間内・時間外	全体研修会（必須）	(目標) 担当職務に必要、または関連するな知識、技能について各人の能力水準を組織的、継続的に発展させ以て医療と看護の質の向上に資する	テーマ		骨粗鬆症	医療機器安全管理研修 AEDについて	褥瘡		ﾊﾗｽﾒﾝﾄ研修	倫理・人権	感染予防		接遇	個人情報研修	医療安全
			主催		骨粗鬆症チーム	医療安全管理委員会	褥瘡委員会		総務課	研修委員会	院内感染予防対策委員会		CS・ES委員会	情報システム課	医療安全管理委員会
			日付		5/16～5/31	5月～6月	7月		9月15日	10/25～11/25	11/7～11/30		1/5～1/31	1/12～2/28	3/13～3/26
			参加者数		328名	342名	256		YOUTUBE視聴	341名	365名		354名		
			参加率		92.1%	90.0%	88.0%		ｱﾝｹｰﾄなし	94.0%	95.3%		92.0%		
			テーマ			BLS研修			医療安全	緩和ｹｱ			NST勉強会		緩和ｹｱ
			主催			医療安全管理委員会			医療安全管理委員会	緩和ｹｱ委員会			栄養管理課		緩和ｹｱ委員会
			日付			6月～12月			9/21～10/21	9/21～10/21			1/5～1/31		2/27～3/31
			参加者数			353人			397名	339名			294名		
			参加率			90.7%			100.0%	93.0%			81.0%		

ＣＳ･ES委員会

(ｉ).総評

2022年度は、23件のご意見を頂いた。内訳は診察･会計に関する待ち時間が30%、接遇面に関してが26%、環境不備が26%･お褒めの言葉が9%、医療内容･技術に対しての不満が9%となった。委員会メンバー顧客対象はご利用者と職員であることをお互い意識して、接遇改善に取り組んだ。またお褒めの言葉も頂戴しており喜ばしく思っている。

活動内容として、CSアンケートの実施と改善対策実施、院内掲示などを行っている。改善に関しては、残っている課題も多いが「利用者の立場に寄り添ったサービス」について考えることができた。

3期目となるESアンケートは継続的に行っており、働きやすい職場創りを目指している。職員同士の「良いところ」、「感謝の気持ち」を伝えるためのサンクスカードを導入し、集まったサンクスカードは「ありがとうの木」として職員廊下にて掲示している。「ありがとうの木」が一本でも多く増えていくよう今後も活動を進めていく。

(ii).活動状況

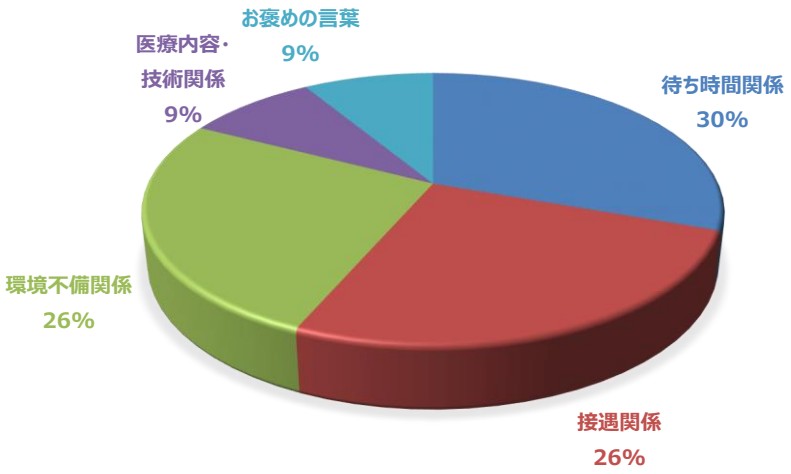
＜ 勉強会 ＞

期日	内容	参加人数
2022年12月2日～24日	医療スタッフ向け接遇研修 事例から学ぶ「言葉遣い」 ～その言葉遣い、間違っていませんか？～	354人

＜ ご意見･要望内容（一部） ＞

･Wi-Fiをいれてほしい。
･両替機を設置して欲しい。
･病院入り口の３号線に信号機を取り付けて欲しい。
･玄関前ロータリーが一方通行になっているが危ない、標識が見えにくいのでは。
･個室の段差が使用しづらい。
･個室料金にテレビ代となると高い。年金者には負担である。

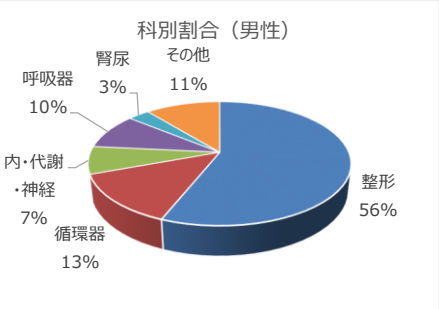
(iii).2022年度　集計結果

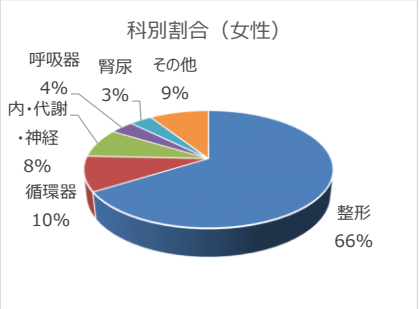


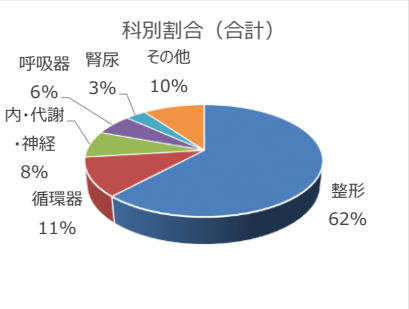
ICD-10大分類による年齢別・性別統計（退院患者）

期間：2022年4月1日 ～ 2023年3月31日

No	大分類	性別	～19歳	20～29歳	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60～69歳	70～79歳	80～89歳	90歳～	合計	2021年度	2020年度	2019年度
1	感染症および寄生虫症	男	0	0	1	0	0	2	5	2	2	12	5	4	5
		女	0	0	1	0	0	1	1	3	5	11	8	6	4
		計	0	0	2	0	0	3	6	5	7	23	13	10	9
2	新生物	男	0	0	0	0	2	1	2	4	4	13	17	19	20
		女	0	1	0	0	0	0	7	2	2	12	14	21	19
		計	0	1	0	0	2	1	9	6	6	25	31	40	39
3	血管および造血器の疾患ならびに免疫機構の障害	男	0	0	0	0	0	0	1	1	0	2	2	4	0
		女	0	0	0	0	0	0	1	4	0	5	1	7	4
		計	0	0	0	0	0	0	2	5	0	7	3	11	4
4	内分泌、栄養および代謝疾患	男	0	0	1	1	1	3	6	0	1	13	16	16	15
		女	0	0	0	0	0	2	1	10	0	13	9	10	13
		計	0	0	1	1	1	5	7	10	1	26	25	26	28
5	精神および行動の障害	男	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0
		女	0	0	0	0	0	0	1	1	0	2	1	2	0
		計	0	0	0	0	0	0	1	1	0	2	2	2	0
6	神経系の疾患	男	0	0	0	0	1	2	4	3	0	10	12	13	16
		女	0	0	2	1	0	4	11	1	1	20	18	22	20
		計	0	0	2	1	1	6	15	4	1	30	30	35	36
7	眼および付属器の疾患	男	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		女	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		計	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
8	耳および乳様突起の疾患	男	0	0	0	0	0	1	0	3	0	4	1	0	1
		女	0	0	0	0	0	0	2	1	1	4	0	1	1
		計	0	0	0	0	0	1	2	4	1	8	1	1	2
9	循環器系の疾患	男	0	0	0	2	4	10	12	26	13	67	69	72	72
		女	0	0	0	1	2	6	11	25	21	66	64	62	66
		計	0	0	0	3	6	16	23	51	34	133	133	134	138
10	呼吸器系の疾患	男	0	0	0	0	2	1	8	23	13	47	26	32	48
		女	0	0	0	0	0	0	5	11	9	25	27	34	43
		計	0	0	0	0	2	1	13	34	22	72	53	66	91
11	消化器系の疾患	男	0	0	0	0	0	2	2	8	1	13	30	15	19
		女	0	0	0	0	1	2	4	8	7	22	21	30	19
		計	0	0	0	0	1	4	6	16	8	35	51	45	38
12	皮膚および皮下組織の疾患	男	0	0	0	1	1	5	5	10	2	24	20	17	16
		女	0	0	0	0	0	2	2	15	9	28	21	26	22
		計	0	0	0	1	1	7	7	25	11	52	41	43	38
13	筋骨格系および結合組織の疾患	男	1	2	0	8	9	28	50	23	3	124	104	94	90
		女	0	2	1	3	17	34	76	48	6	187	189	200	193
		計	1	4	1	11	26	62	126	71	9	311	293	294	283
14	腎尿路生殖器系の疾患	男	0	1	0	0	0	0	4	9	2	16	12	10	9
		女	0	0	0	0	0	0	0	15	9	24	24	16	15
		計	0	1	0	0	0	0	4	24	11	40	36	26	24
15	妊娠、分娩および産じょく	男	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		女	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		計	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
16	周産期に発生した病態	男	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		女	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		計	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
17	先天奇形、変形および染色体異常	男	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		女	0	0	0	0	0	1	0	0	0	1	0	0	0
		計	0	0	0	0	0	1	0	0	0	1	0	0	0
18	症状、徴候および異常臨床所見・異常検査所見で他に分類されないもの	男	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		女	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		計	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
19	損傷、中毒およびその他の外因の影響	男	9	6	10	8	9	32	35	39	10	158	157	151	130
		女	1	0	2	5	11	34	58	107	49	267	254	218	203
		計	10	6	12	13	20	66	93	146	59	425	411	369	333
20	傷病および死亡の外因	男	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		女	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		計	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
21	健康状態に影響をおよぼす要因および保健サービスの利用	男	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		女	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		計	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
22	特殊目的用コード（新型コロナウイルス感染症）	男	0	0	2	3	1	1	6	10	5	28	25		
		女	0	5	0	3	4	2	3	7	5	29	15		
		計	0	5	2	6	5	3	9	17	10	57	40		
合　計		男	10	9	12	20	29	87	134	151	51	503	472	447	441
		女	1	3	6	10	31	86	180	251	119	687	651	655	622
		計	11	12	18	30	60	173	314	402	170	1190	1123	1102	1063









にしくまもと病院 2022年度（令和4年度）年報

発　行：医療法人相生会 にしくまもと病院
〒861-4157　熊本市南区富合町古閑1012番地
TEL:096-358-1118　FAX:096-358-1099
発行日：2023年12月1日
編　集：医療情報課